

Ⅱ 当事者調査

1 調査概要

（1）調査目的

本調査は、ひきこもりの状態にある当事者及び家族の生活状況やひきこもりに関する相談支援機関の利用状況、支援ニーズ等を把握し、より適切な支援を行うための基礎資料を得ることを目的に実施した。

（2）調査項目

- ① 基本的属性について（Q1～Q3）
- ② ふだんの楽しみ・やりがいに感じていること（Q4）
- ③ 感じている不安や危機感（Q5）
- ④ ひきこもりの状態にある者について（Q6～Q9）
- ⑤ ひきこもりの状態に関すること（Q10～Q14）
- ⑥ 相談機関に関すること（Q15～Q17）
- ⑦ ひきこもりの状態を変えていくことについて（Q18～Q20）
- ⑧ ひきこもりに関して悩む方々への支援等（Q21）
- ⑨ 支援のあり方についての意見（Q22）

（3）調査対象

ひきこもりの状態にある方又はその家族（ひきこもりの状態となった経験がある方を含む）
 ※ 家族が回答する場合は、本人の立場で記入する設問一部あり。

（4）調査期間

令和4年9月7日（水）～10月7日（金）

（5）調査方法

- ① 調査票配付 調査票 計100通

ひきこもりに関する相談支援を行っている機関や当事者・家族会等を通じて、ひきこもりに関して相談等をしている当事者及びその家族に調査票を直接配付又は郵送配付。

（配付内訳）

健康福祉センター14通、いたばし生活仕事サポートセンター12通、発達障がい者支援センター（あいポート）49通、いたばし若者サポートステーション3通、当事者・家族会22通
 ※ 調査票の配付にあたっては、口頭等で調査主旨及び調査への協力は任意であることを伝えた上で配付した。

- ② 回収

郵送回答又はインターネット回答により回収

（6）調査実施機関

株式会社CCNグループ

（7）回収結果

有効回収数（率） 56人（56.0%）

（内訳） 郵送回答 : 45人（有効回収数中80.4%）
 インターネット回答 : 11人（有効回収数中19.6%）

（8）定義

本調査における「ひきこもりの状態」は、東京都ひきこもりに係る支援協議会の提言におけるひきこもりの定義を参考にして、以下のように定義する。

様々な要因により、社会的参加（就学、就労、家庭外での交遊など）を避け、概ね家庭にとどまり続けている状態

※ 本調査では、幅広くひきこもりの状態にある方の状況を把握するため、「東京都ひきこもりに係る支援協議会の提言におけるひきこもりの定義」にあるひきこもり期間の要件「原則として6か月以上にわたって」を除いている。

ひきこもりの状態にある者

「Q6 現在、あなたのご家族（ご自身を含む）に、ひきこもりの状態（様々な要因により、社会的参加（就学、就労、家庭外での交遊など）を避け、概ね家庭にとどまり続けている状態）の方はいますか。」について、「1 いる」「2 現在はいないが、過去にひきこりの状態だった者がいる」と回答した者

該当者数は48人であった。

《参考》

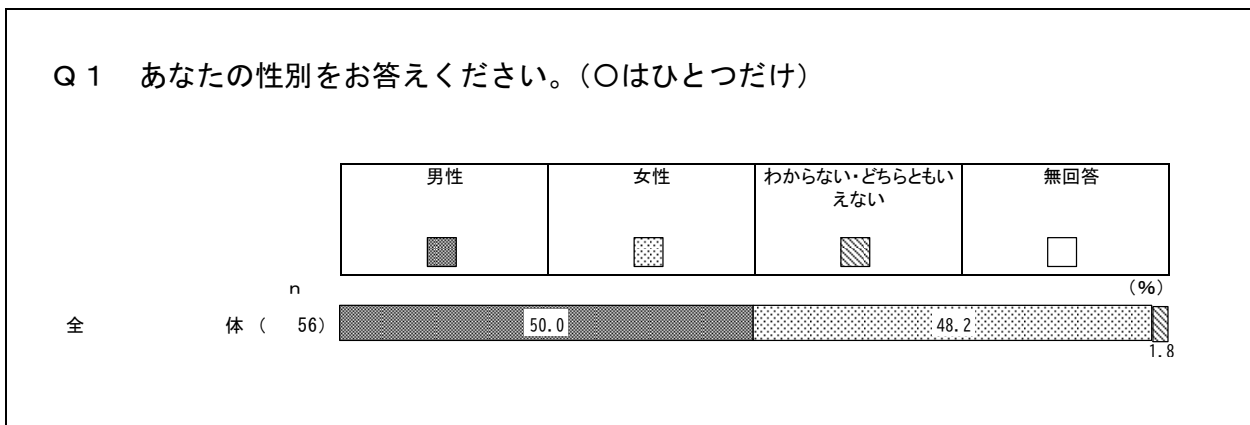
東京都ひきこもりに係る支援協議会『ひきこもりに係る支援の充実に向けて 提言』におけるひきこもりの定義

- ・ 様々な要因により、社会的参加（就学、就労、家庭外での交遊など）を避け、原則として6か月以上にわたって概ね家庭にとどまり続けている状態
- ・ 状態を指す概念であり、それ自体は必ずしも問題行動や疾患を意味するわけではないが、当事者は自尊感情を失っていたり、生きがいをもって自分らしく、よりよく生きる意欲や勇気を失っている場合が少なくない。また、長期間に渡るひきこもりの状態により心身に悪影響を及ぼす恐れや社会的孤立、経済的な困窮などにつながる可能性があることに留意が必要

2 調査の結果

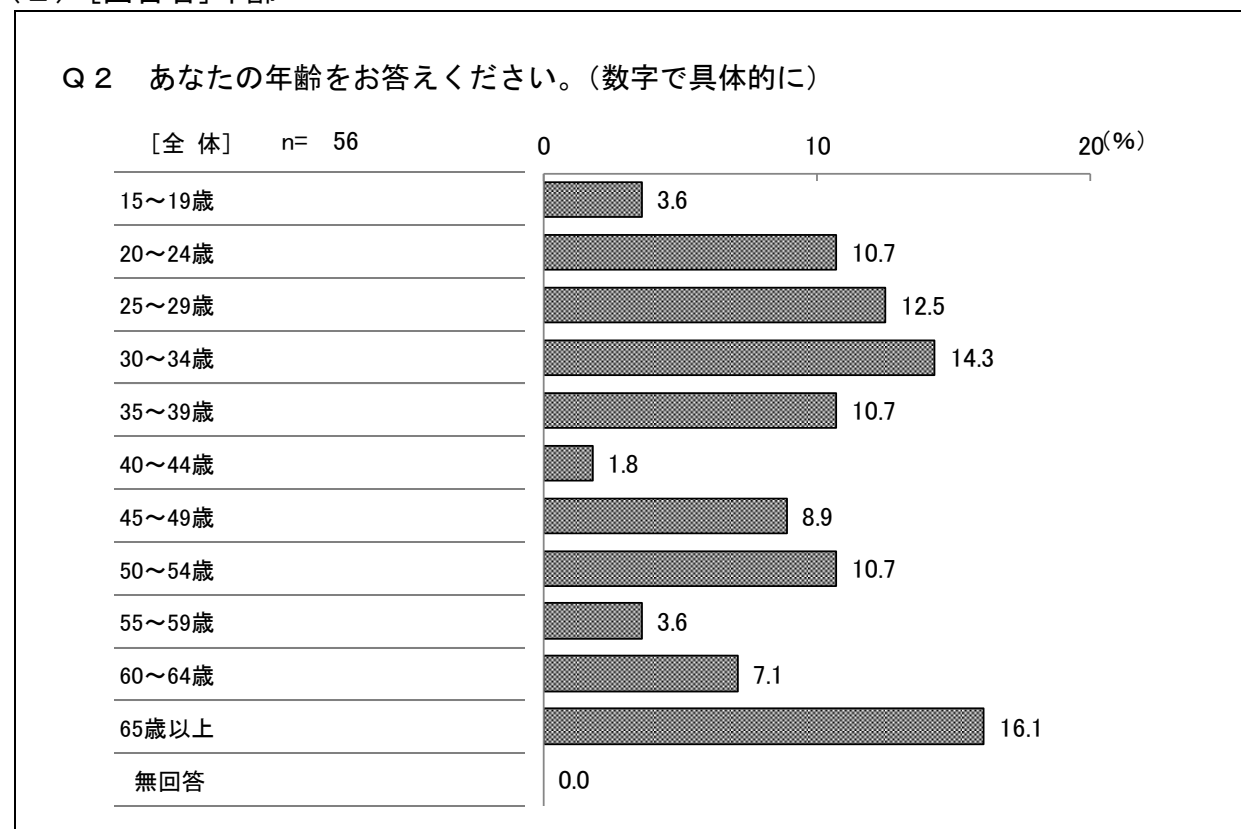
※ 本調査の設問においては、回答者を「あなた」、ひきこもりの状態である者（過去にひきこもりの状態であった者）を「本人」という。

（1）[回答者]性別



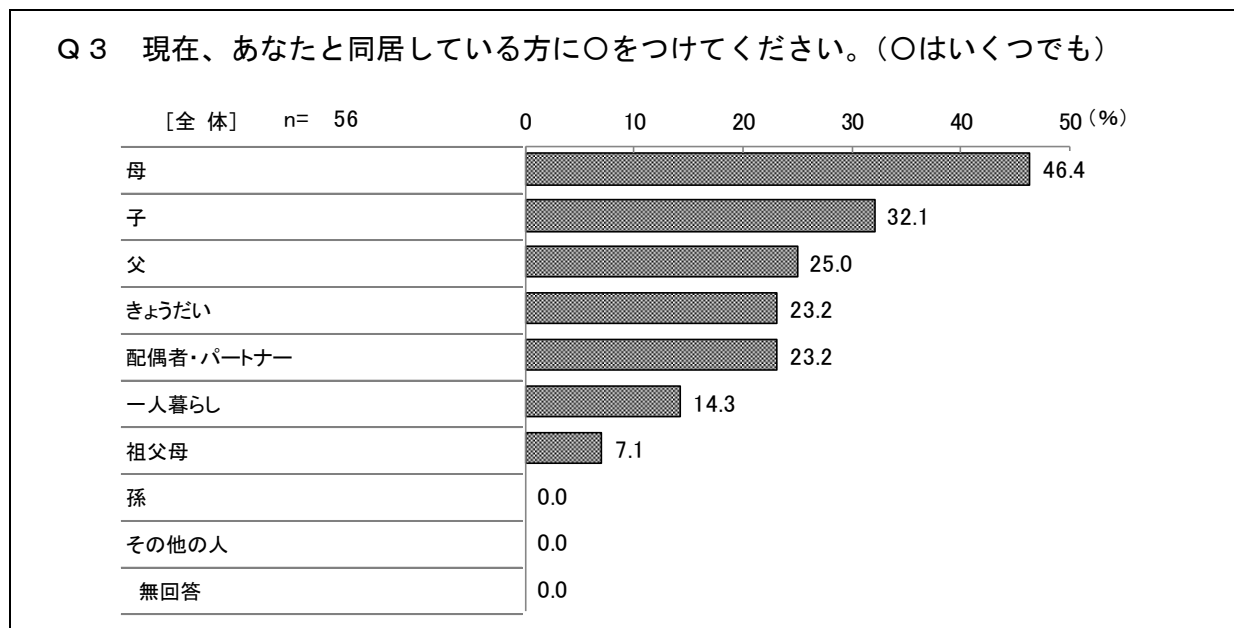
回答者の性別は、「男性」(50.0%)、「女性」(48.2%)、「わからない・どちらともいえない」(1.8%)となっている。

（2）[回答者]年齢



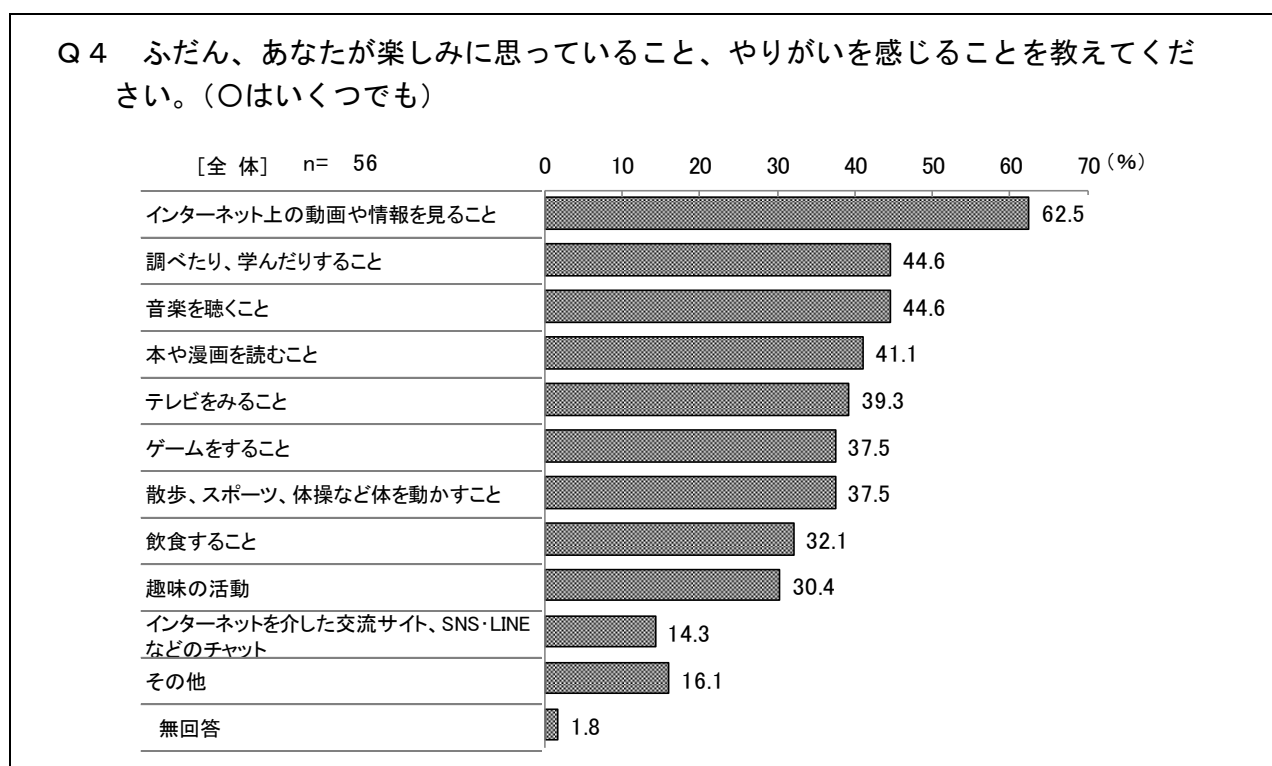
回答者の年齢は、「65歳以上」の割合（16.1%）が最も高く、次いで「30～34歳」（14.3%）、「25～29歳」（12.5%）の順となっている。

(3) 同居家族



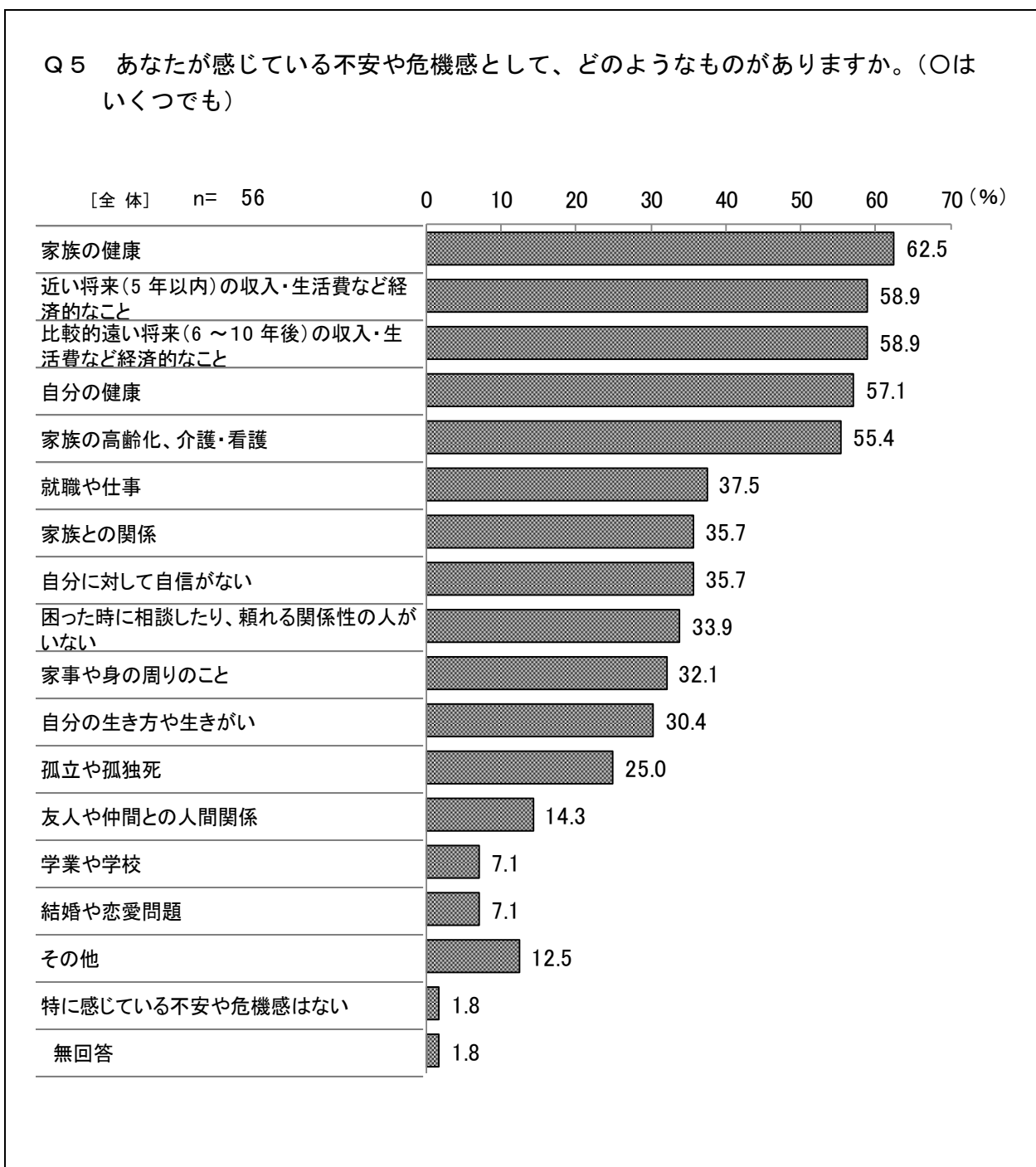
回答者の同居家族は、「母」の割合（46.4%）が最も高く、次いで「子」（32.1%）、「父」（25.0%）の順となっている。

(4) ふだんの楽しみ・やりがいに感じていること



ふだんの楽しみ・やりがいに感じていることは、「インターネット上の動画や情報を見ること」の割合（62.5%）が最も高く、次いで「調べたり、学んだりすること」「音楽を聴くこと」（ともに44.6%）、「本や漫画を読むこと」（41.1%）の順となっている。

(5) 感じている不安や危機感

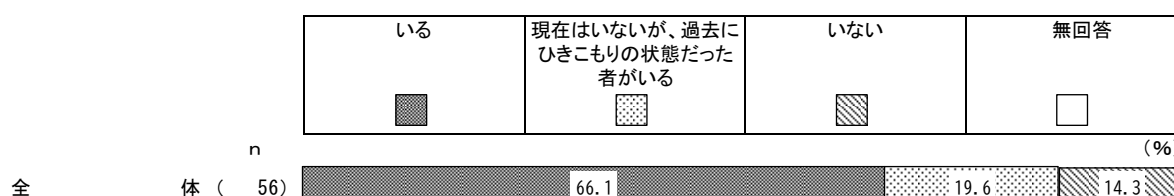


感じている不安や危機感については、「家族の健康」の割合（62.5%）が最も高く、次いで「近い将来（5年以内）の収入・生活費など経済的なこと」「比較的遠い将来（6～10年後）の収入・生活費など経済的なこと」（ともに58.9%）、「自分の健康」（57.1%）の順となっている。

「生活費など経済的なこと」及び「家族又は自分の健康」について、不安・危機感を抱えている者が多い傾向がみられた。

(6) ひきこもりの状態にある者

Q6 現在、あなたのご家族（ご自身を含む）に、ひきこもりの状態（様々な要因により、社会的参加（就学、就労、家庭外での交遊など）を避け、概ね家庭にとどまり続けている状態）の方はいますか。（○はひとつだけ）

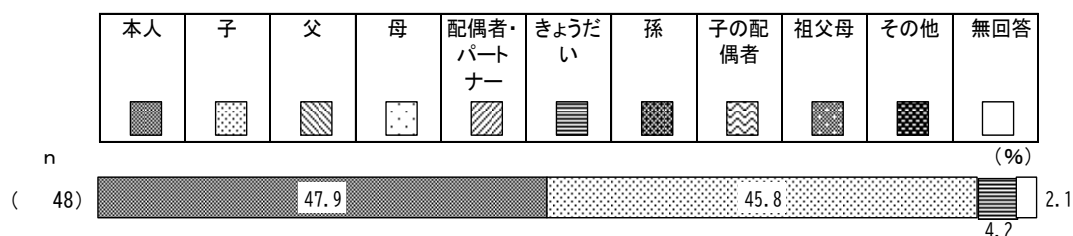


ひきこもりの状態にある者について、「いる」の割合（66.1%）が最も多く、次いで「現在はいないが、過去にひきこもりの状態だった者がいる」（19.6%）、「いない」（14.3%）の順となっている。

※ Q7～Q19は、Q6において、ひきこもりの状態にある者が「いる」または「現在はいないが、過去にひきこもりの状態だった者がいる」を選択した者のみが回答する項目となっている。なお、Q6において「現在はいないが、過去にひきこもりの状態だった者がいる」を選択した者は、過去にひきこもりの状態だった当時の状況について回答する。

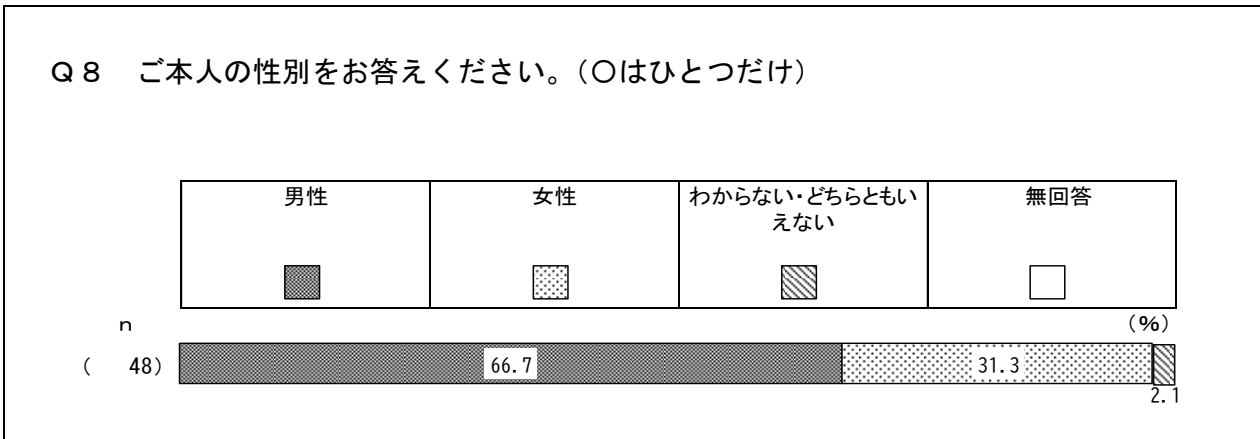
(7) ひきこもりの状態にある（過去にひきこもりの状態だった）本人との続柄

Q7 あなたからみたご本人の続柄に○をつけてください。（○はひとつだけ）



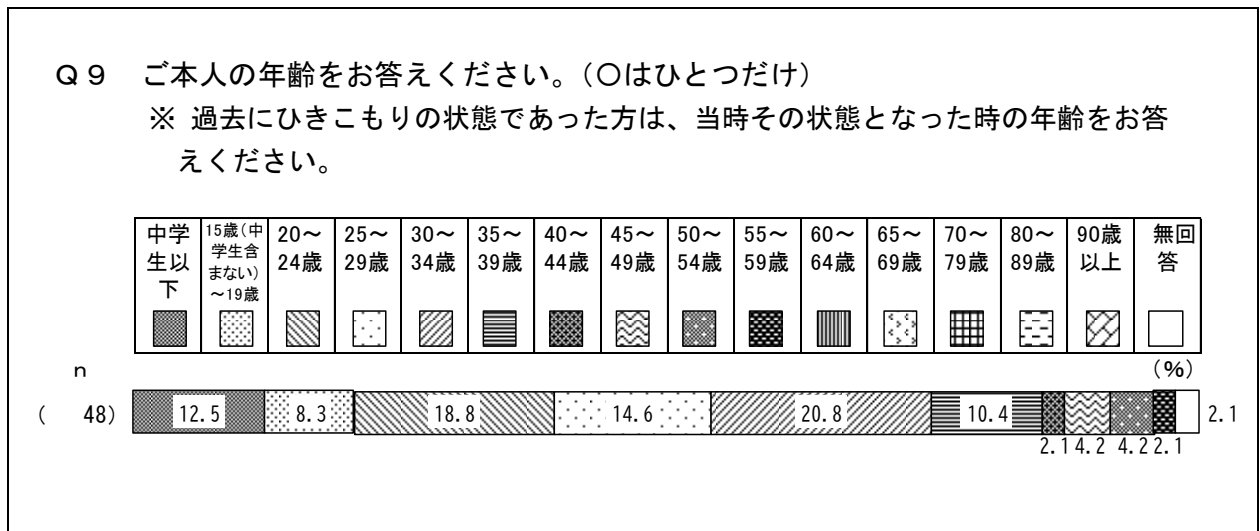
回答者（あなた）からみた、ひきこもりの状態にある（過去にひきこもりの状態だった）本人との続柄は、「本人」（47.9%）、「子」（45.8%）、「きょうだい」（4.2%）となっている。

(8) [本人]性別



本人の性別は、「男性」(66.7%)、「女性」(31.3%)、「わからない・どちらともいえない」(2.1%)となっている。

(9) [本人]年齢



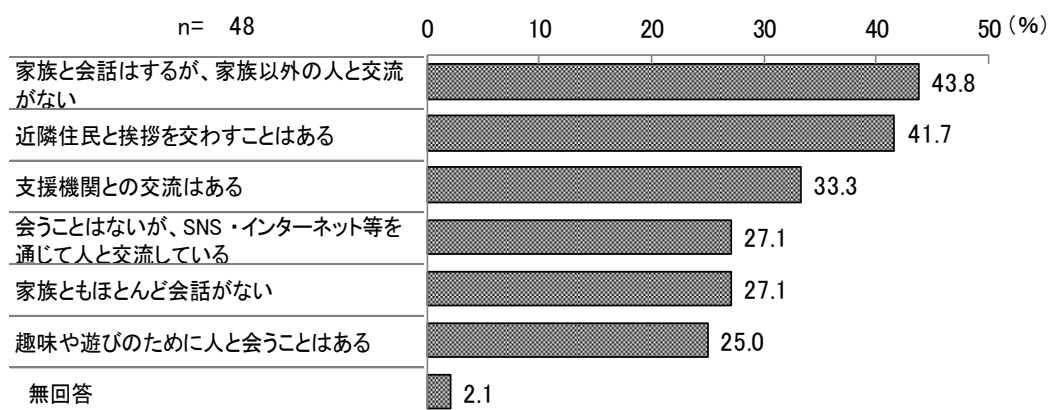
本人の年齢は、「30~34歳」の割合(20.8%)が最も高く、次いで「20~24歳」(18.8%)、「25~29歳」(14.6%)の順となっている。

年代別の割合をみると、10代以下(「中学生以下」「15歳(中学生含まない)~19歳」)20.8%、20代(「20~24歳」「25~29歳」)33.4%、30代(「30~34歳」「35~39歳」)31.2%、40代(「40~44歳」「45~49歳」)6.3%、50代(「50~54歳」「55~59歳」)6.3%、60代以上は該当者なしとなっている。

(10) 人との交流状況

Q10 ご本人の「人との交流状況」で、あてはまるものに○をつけてください。（○はいくつでも）

※ 過去にひきこもりの状態であった方は、当時の状況についてお答えください。

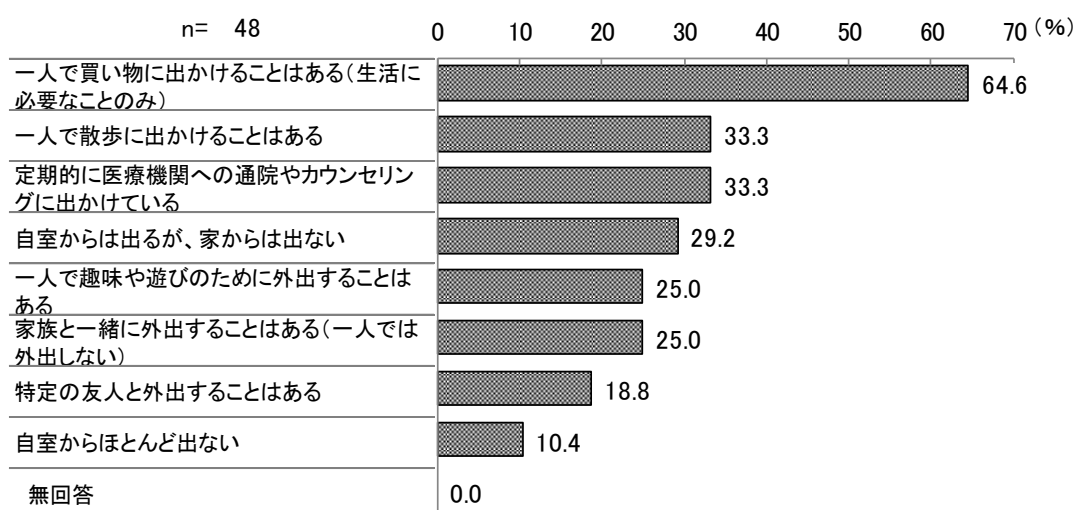


本人の人との交流状況は、「家族と会話はするが、家族以外の人と交流がない」の割合（43.8%）が最も高く、次いで「近隣住民と挨拶を交わすことはある」（41.7%）、「支援機関との交流はある」（33.3%）の順となっている。

(11) 外出状況

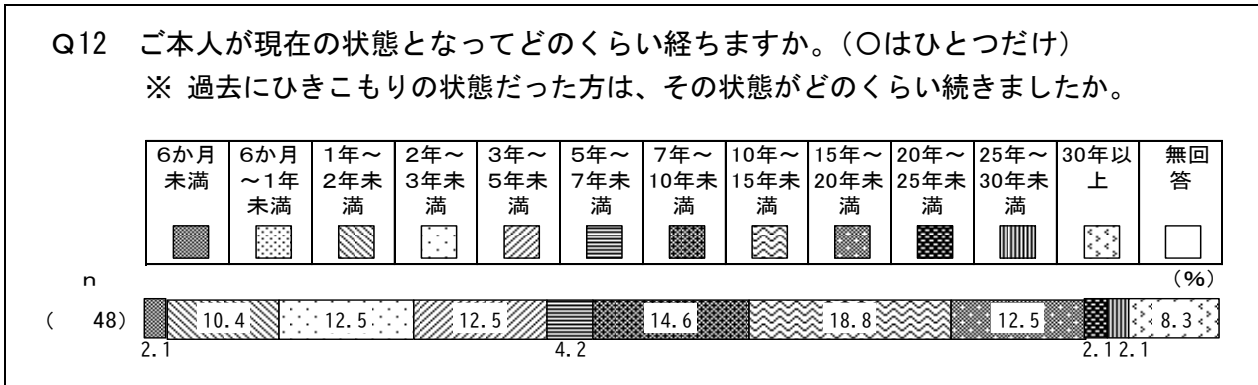
Q11 ご本人の「外出状況」で、あてはまるものに○をつけてください。（○はいくつでも）

※ 過去にひきこもりの状態であった方は、当時の状況についてお答えください。



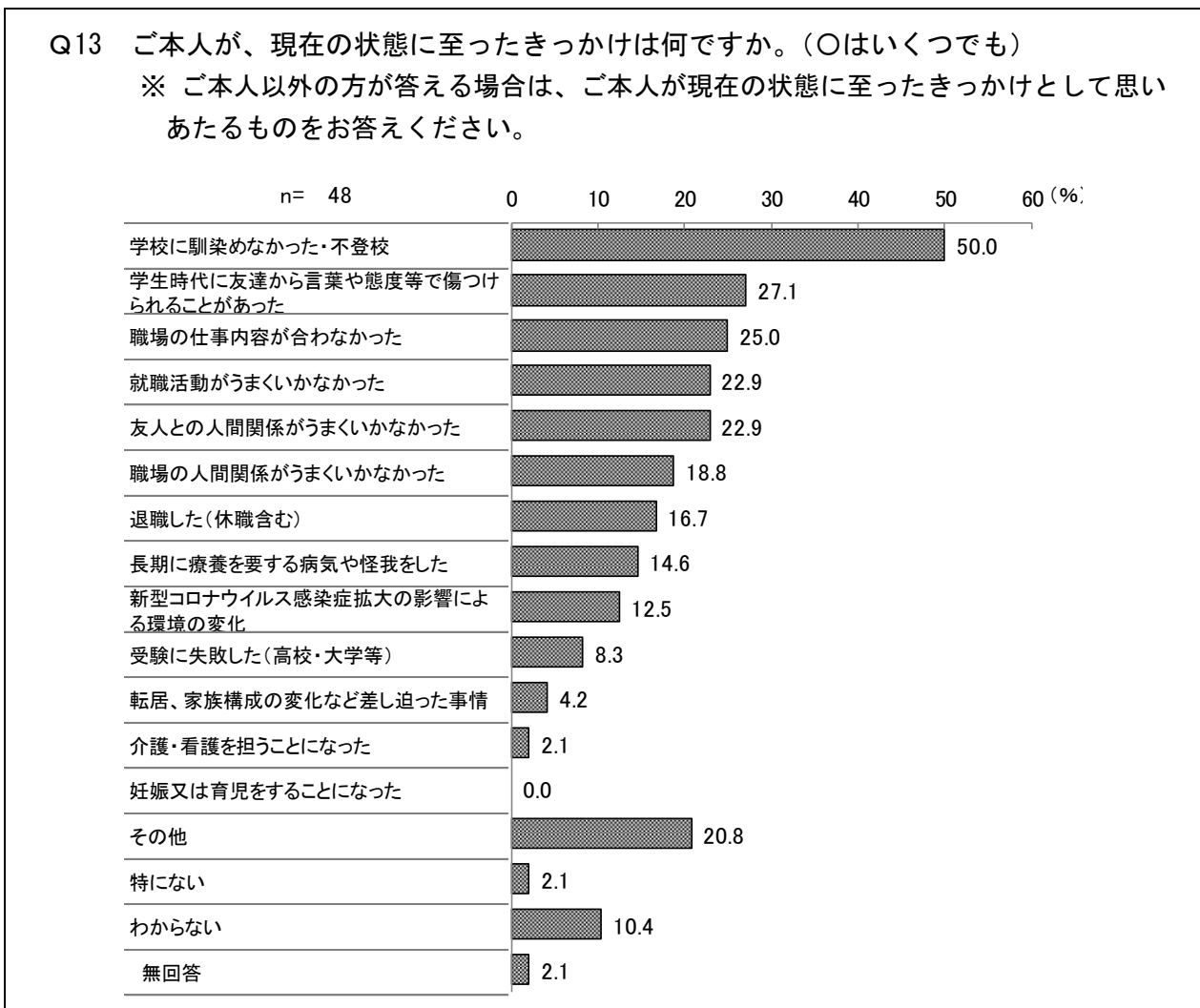
本人の外出状況は、「一人で買い物に出かけることはある（生活に必要なことのみ）」の割合（64.6%）が最も高く、次いで「一人で散歩に出かけることはある」「定期的に医療機関への通院やカウンセリングに出かけている」（ともに 33.3%）、「自室からは出るが、家からは出ない」（29.2%）の順となっている。

(12) ひきこもりの状態になってからの期間



ひきこもりの状態になってからの期間は、「10年～15年未満」の割合（18.8%）が最も高く、次いで「7年～10年未満」（14.6%）、「2年～3年未満」「3年～5年未満」「15年～20年未満」（すべて12.5%）の順となっている。

(13) ひきこもりの状態になったきっかけ

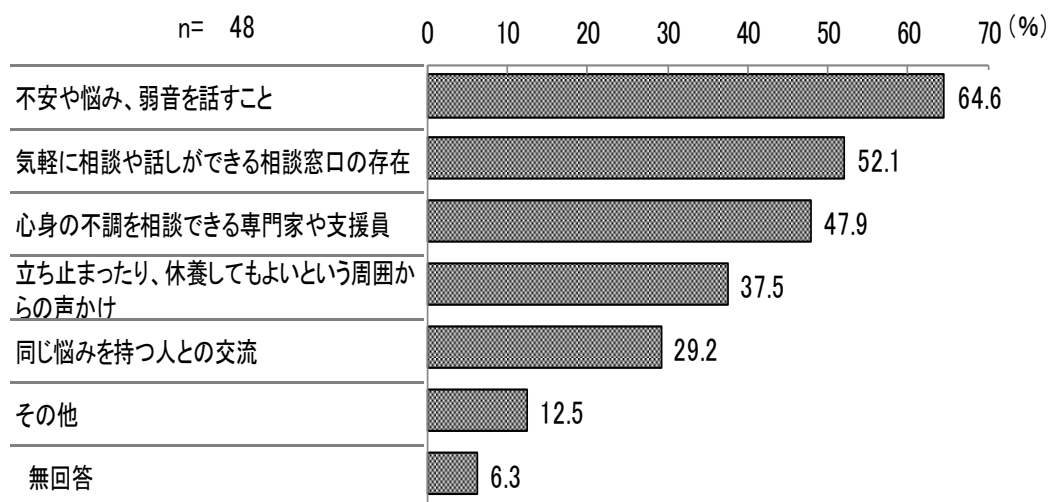


ひきこもりの状態になったきっかけは、「その他」（20.8%）を除くと、「学校に馴染めなかった・不登校」の割合（50.0%）が最も高く、次いで、「学生時代に友達から言葉や態度等で傷つけられることがあった」（27.1%）、「職場の仕事内容が合わなかった」（25.0%）の順となっている。

(14) ひきこもりの状態になる前に必要だった支援

Q14 ご本人が現在の状態に至る前に、必要であったと思うものや支援について、
あてはまるものをお答えください。（〇はいくつでも）

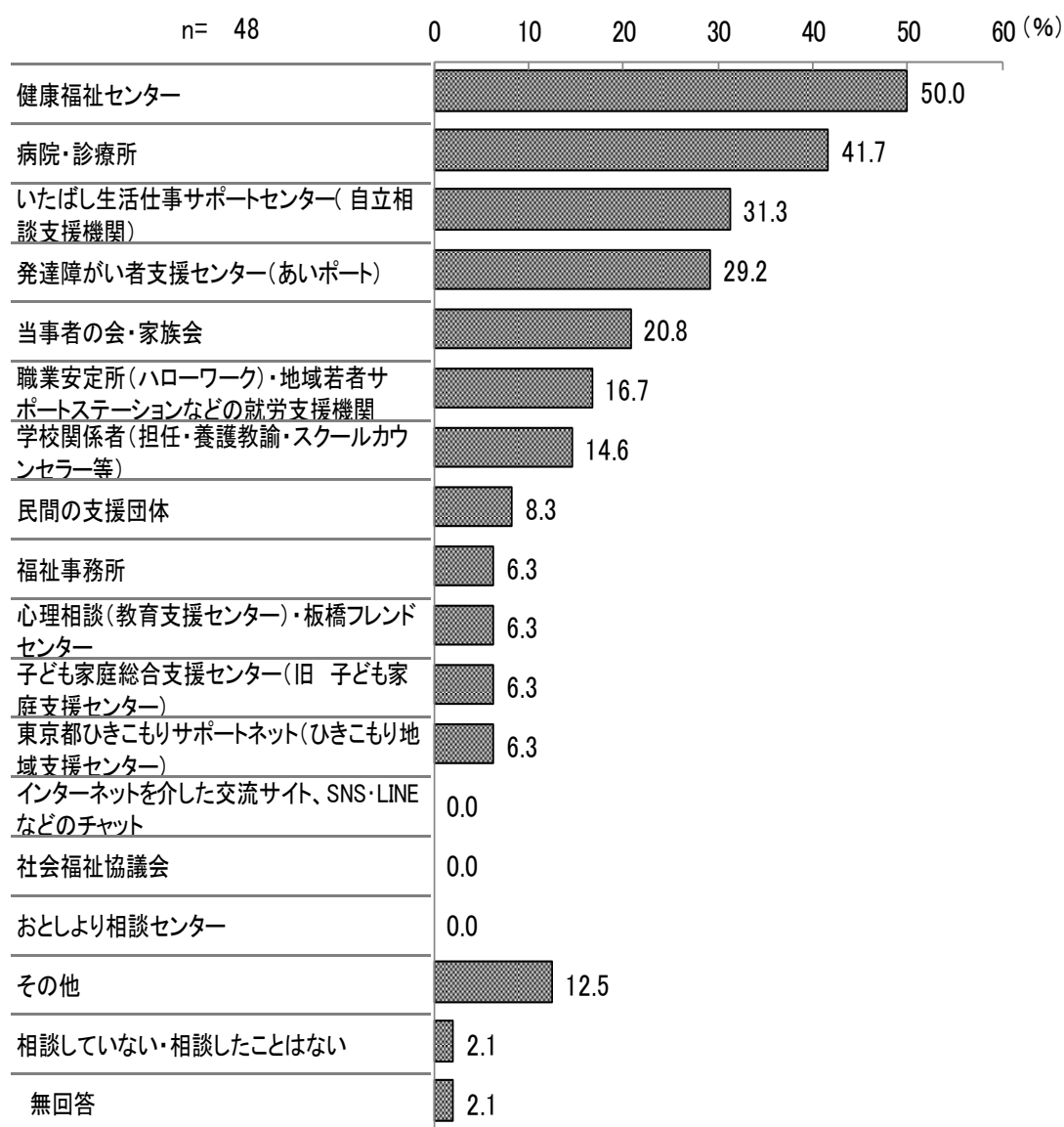
※ ご本人以外の方が答える場合は、必要であったと思われるものや支援をお答えください。



ひきこもりの状態になる前に必要だった支援は、「不安や悩み、弱音を話すこと」の割合（64.6%）が最も高く、次いで「気軽に相談や話しができる相談窓口の存在」（52.1%）、「心身の不調を相談できる専門家や支援員」（47.9%）の順となっている。

(15) 相談した機関

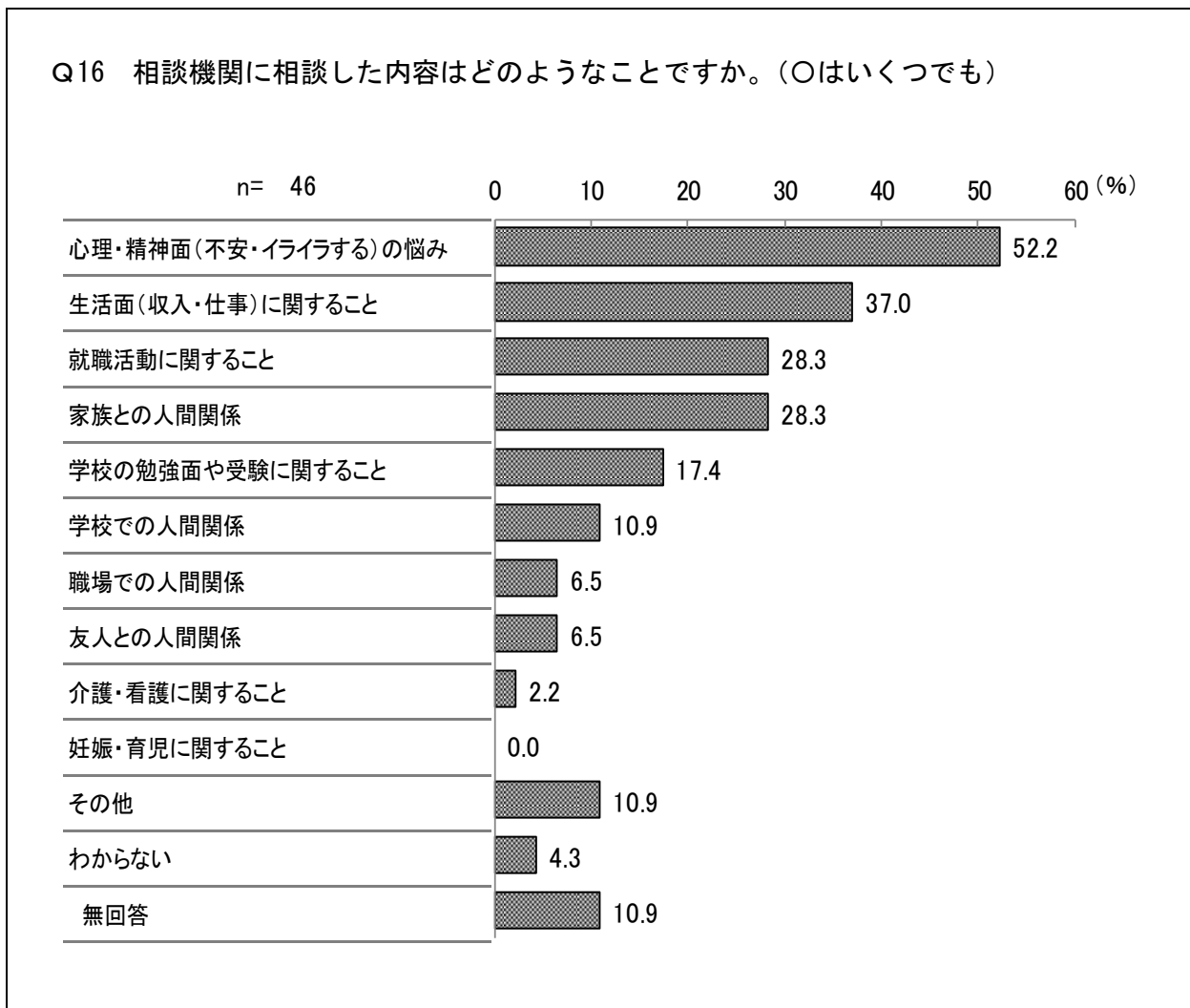
Q15 現在の状態について、相談していた（相談中も含む）ことはありますか。
また、どこに相談しましたか。（〇はいくつでも）
※ ご本人以外の方が相談した場合も含みます。



現在の状態について、相談していた（相談中も含む）機関は、「健康福祉センター」の割合（50.0%）が最も高く、次いで「病院・診療所」（41.7%）、「いたばし生活仕事サポートセンター（自立相談支援機関）」（31.3%）の順となっている。

※ Q16～Q17は、Q15において相談していた（相談中も含む）機関を回答した者のみが回答する項目となっている。

（16）相談した内容



相談機関に相談した内容は、「心理・精神面（不安・イライラする）の悩み」の割合（52.2%）が最も高く、次いで「生活面（収入・仕事）に関すること」（37.0%）、「就職活動に関すること」「家族との人間関係」（ともに28.3%）の順となっている。

(17) 相談した結果について【自由意見】

Q17 相談機関に相談した結果について、どのようにお考えですか。ご自由にお書きください。

※以下は回答の一部を抜粋した。なお、回答からは個人が特定できないよう加工している。

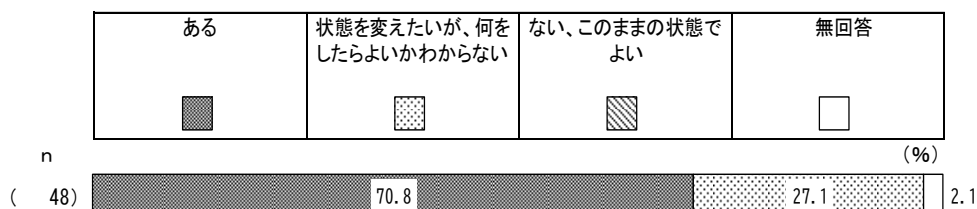
- ・相談先もどうしたらよいか難しいと言われて先がみえない。
- ・数回は利用するが継続できない。専門の方の対応に期待します。
- ・なかなか問題が解決に進まない。心の安定にはなる。
- ・精神、心の病は相談したからといって良くなるものではなく、時間がかかり大変むづかしい。但し、本人との会話対応対処の仕方等については大変勉強になり良かったと思っている。
- ・話を聞いてくれる 散歩につれ出してくれる 自立にむけて相談にのってくれる。
- ・経済的にも色々子供の事に対しても相談をさせてもらってとても有りがたく思っています。本人とこれからどのようにしてもらいたいのか相談したいと思います。小さい時の母親の不勉強な為現在の子供に対し反省もしています。
- ・報告をして苦勞(親や本人)に寄り添って寄り添ってもらいましたが直接的なアドバイスはなかなかもらえなかったです。
- ・就職がうまくいかない一因に自分のものの感じ方が独特であることを気付くことができそれを直す訓練ができたことが良かったです。
- ・仕事や日常の事でも常識的なことなどを違う方向から見ることの大切さを学びました。アドバイス頂いたことを実行できることもあったが、心理的に無理と感じたこともありました。
- ・外に出るきっかけになった。
- ・アドバイスを頂きましたが、本人が動こうとせず私一人では何も出来ない。
- ・問題が解決しないまま、少しずつ話題が無くなり、通院・通所に対する義務感が強くなって通院しなくなることが多かった。
- ・ひきこもりについての理解が深まった。
- ・長引く前になんとか状況を良くしようと思い、専門家からのアドバイスを求めていた。本人の改善が望めるのならば自分は救われなくても良いと思っていた。相談を重ねていくうちに、「答え」は無く、長期に渡ることを覚悟させられ自分を犠牲にしないことも考えられるようになった。
- ・ひきこもりの子はさまざまですが、話をきいたからといって外にすぐ出られるわけではありません。何かのきっかけがあってもむづかしいと思います。ましてや、外に出るのがこわい世間の目もこわい...等いろいろな気持ちがあると思います。コロナということもありますが、やはり、本人ときちんと会って、その会うのが難しいのであれば家に来て話すくらいの気持ちで対応していただけるとありがたいです。
- ・たいていが自らセンターに行かなければいけないという壁をなくして、相談員の方が大変かと思いますが、会いに来てしっかりと本人とむきあい今後のことを話すスタイルができることを願っています。

- ・人とつながり続けられてることはマイナスにはなってないと思う。
- ・とても親身になって相談に乗ってもらい、病院も紹介していただいたので非常に楽になりました。
- ・母親が思いきって相談しにいき話す事ができ、相談してホッとしました。なかなか進展はないのですが。
- ・話すことによって心の整理ができた。助言(アドバイス)が参考になった。日常生活で助言を実践できるように努力したい。
- ・不安がやわらぐようになった。
- ・健康福祉センターに相談して「ひきこもり家族教室」に参加するようになり、教わった事を実践して親子の会話だけはできるようになった。
- ・どんな時でも行ける場所と繋がっていないと、支援期間で上手くいかなかった時に再び孤立する可能性が高い気がする。社会になれるまで時間がかかったので、長期にわたる支援が必要に感じた。
- ・親身になって聞いてくれたり、職場での就労支援として面談などしてもらっているので、助かっている。
- ・なかなか前に進まない。

(18) ひきこもりの状態を変えるために行っていること

Q18 ひきこもりの状態を変えるために、行っていることはありますか。（〇はひとつだけ）

※ 過去にひきこもりの状態であった方は、変えるために行っていたことはありますか。

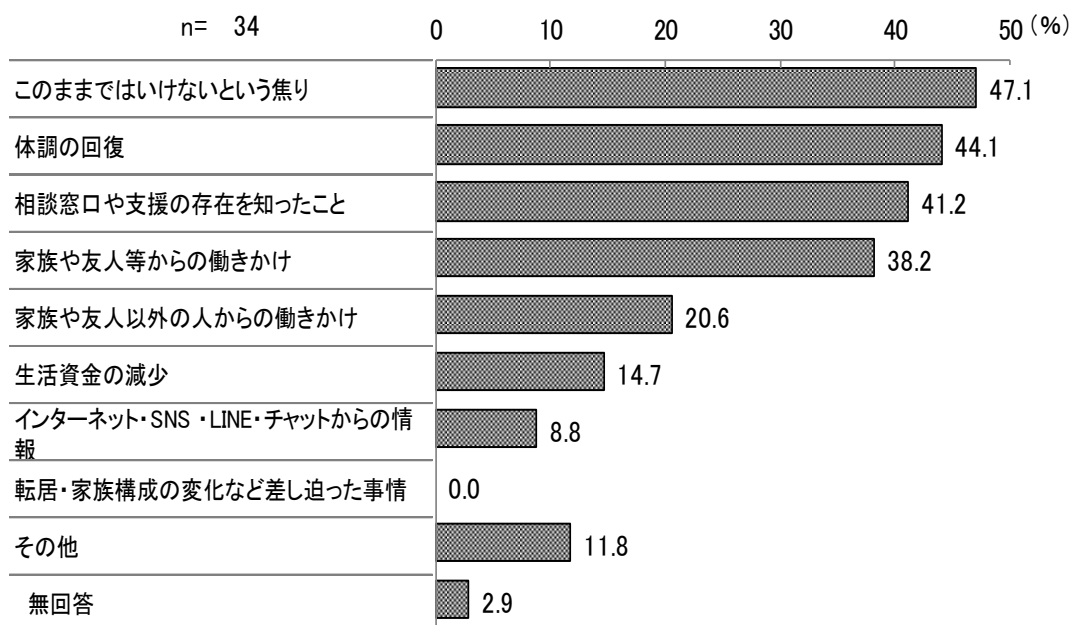


ひきこもりの状態を変えるために行っていることについて、「ある」(70.8%)、「状態を変えたいが、何をしたらよいかわからない」(27.1%)、「ない、このままの状態でよい」該当者なしとなっている。

※ Q19は、Q18において、ひきこもりの状態を変えるために行っていることが「ある」を選択した者のみが回答する項目となっている。

(19) ひきこもりの状態を変えるために行動を起こしたきっかけ

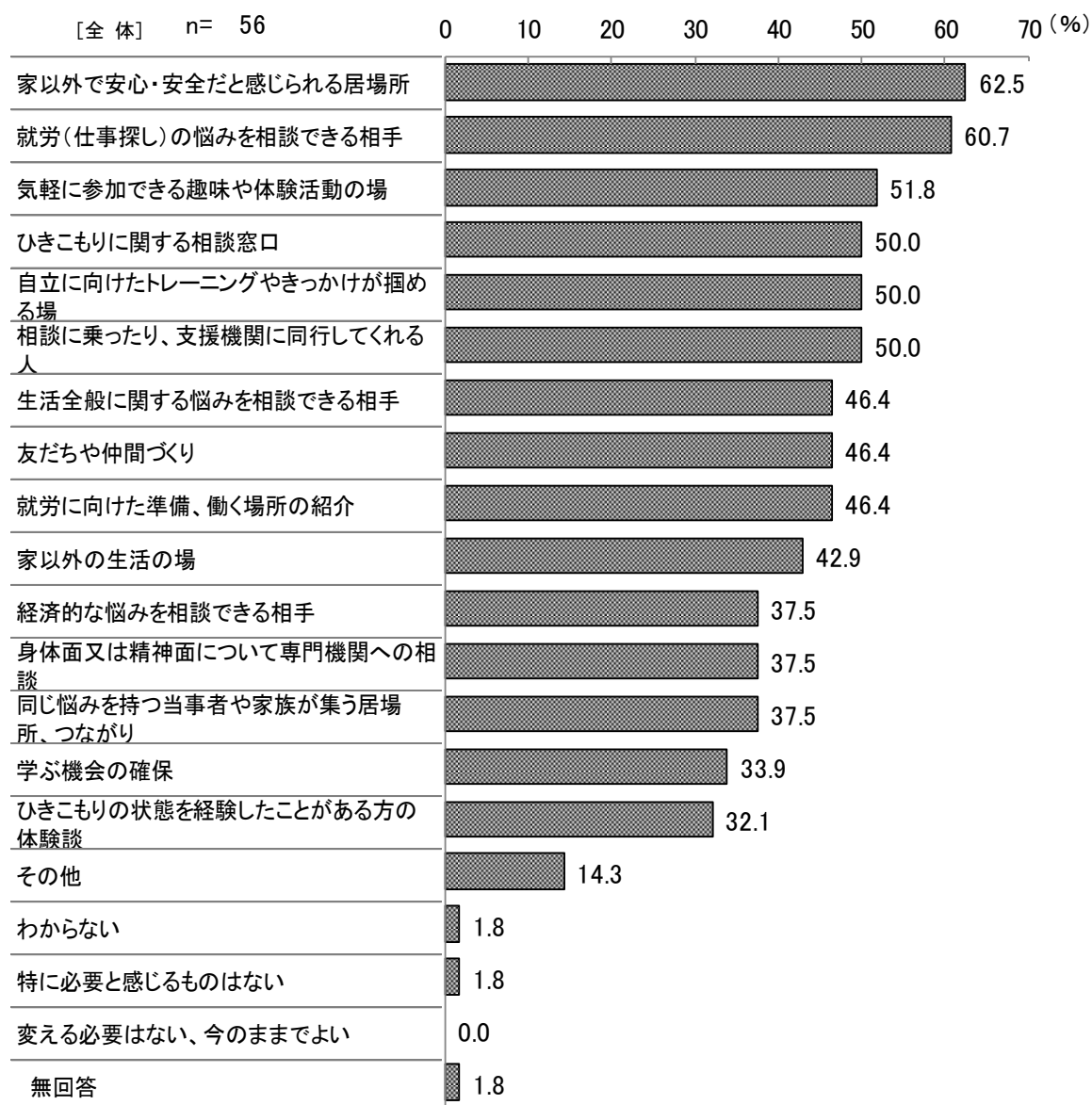
Q19 その行動を起こしたきっかけは何ですか。（〇はいくつでも）



ひきこもりの状態を変えるために行動を起こしたきっかけは、「このままではいけないという焦り」の割合(47.1%)が最も高く、次いで「体調の回復」(44.1%)、「相談窓口や支援の存在を知ったこと」(41.2%)の順となっている。

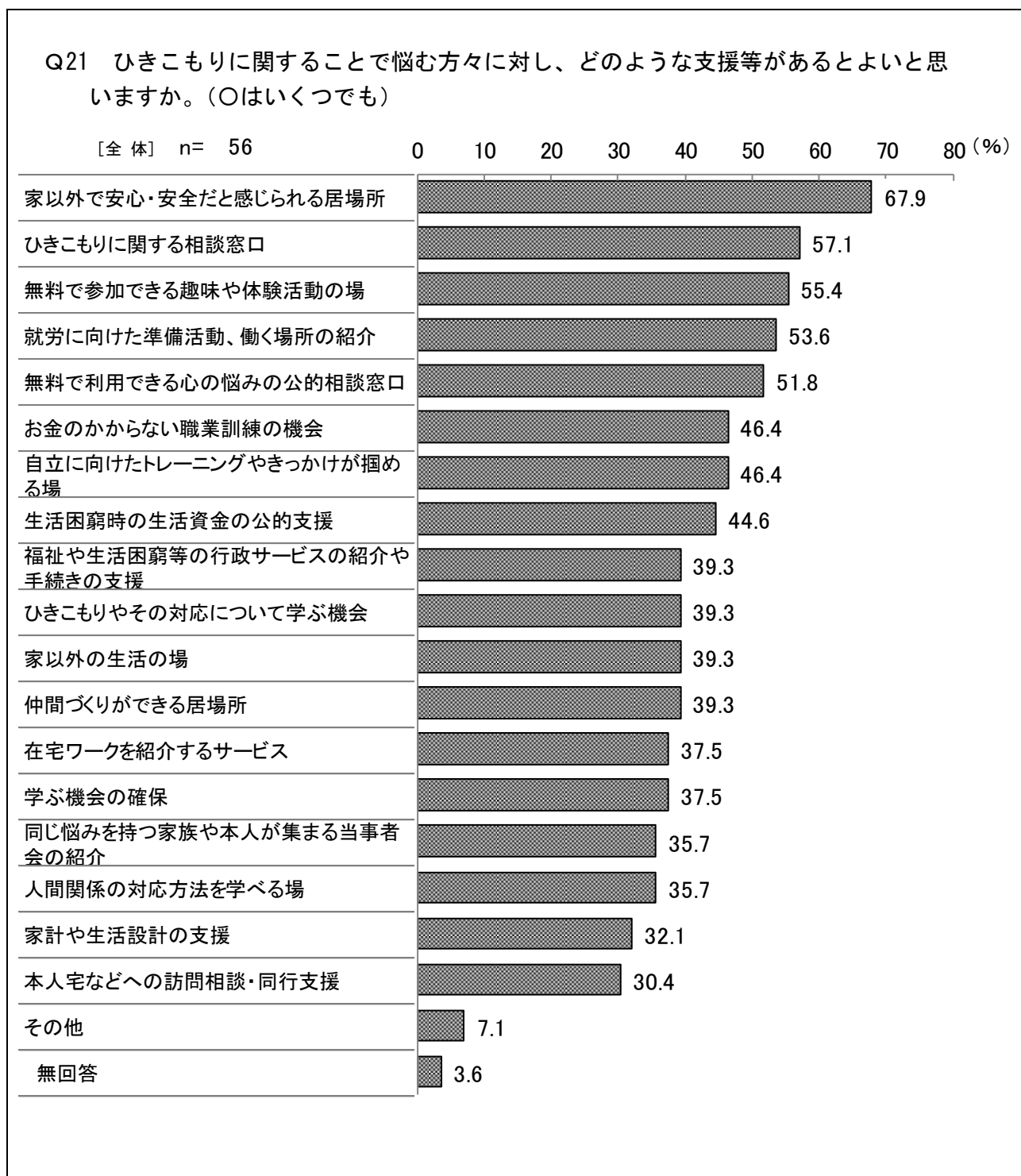
(20) ひきこもりの状態を変えるために、必要・役立つと思うもの

Q20 ひきこもりの状態を変えるために、必要であったり、役に立つと思うものすべてに○をつけてください。（○はいくつでも）



ひきこもりの状態を変えるために必要・役立つと思うものは、「家以外で安心・安全だと感じられる居場所」の割合(62.5%)が最も高く、次いで「就労(仕事探し)の悩みを相談できる相手」(60.7%)、「気軽に参加できる趣味や体験活動の場」(51.8%)の順となっている。

(21) ひきこもりに関することで悩む方々への支援等



ひきこもりに関することで悩む方々への支援等は、「家以外で安心・安全だと感じられる居場所」の割合（67.9%）が最も高く、次いで「ひきこもりに関する相談窓口」（57.1%）、「無料で参加できる趣味や体験活動の場」（55.4%）の順となっている。

(22) 支援のあり方について【自由意見】

Q22 現在、板橋区では、身体の病気以外の理由で、ふだん外出ができない方たちへの支援のあり方を検討しています。こうした支援のあり方について、ご意見があれば自由にお書きください。

※ 以下では回答の一部を抜粋し、内容別に分類した。なお、回答からは個人が特定できないよう加工している。

[回答者] ひきこもりの状態にある（過去にひきこもりの状態だった）ご本人

《相談・支援》

- ・週1回のカウンセリングを受けたいと思っても費用が高くて受けられない。無料もしくは安価で毎週カウンセリングを受けたい。
- ・自宅訪問相談、病院や相談や手続き等の付き添い。

《居場所》

- ・遊び場、生活資金、安心して働ける居場所、パワハラ対策、悩み事を相談できる場所、治安維持。
- ・スタッフの方の理解がその場の安心に繋がると思う。そして安心して通える場所を作ること大切だと思う。
- ・楽しく行ける場所を見つけて、それを続けて行けるような所を探す。

《学ぶ機会》

- ・スポーツによる生涯支援、学ぶ機会の拡充、学校等の学ぶ「質」の拡大、いじめ対策の委員会の設置。

《社会参加・体験の場》

- ・気軽に参加できる体験の場があるとよいと思います。

《その他》

- ・時間をかけても良いので、全戸に訪問して実態調査してほしい。

[回答者] ひきこもりの状態にある（過去にひきこもりの状態だった）ご本人以外の家族

《就労・就学支援》

・最小限で社会とつながり、少しずつ自信をもっていくことができることが必要で在宅ワークがいいと思います。表面的でなく本当に困っていることにサポートしてほしい少しでも収入があれば自信が持てると思います。

《社会参加・体験の場》

・保育園や小学生の低年齢の子供達と一緒に遊べる場があれば気持的に楽しいかもしれません。

《相談・支援》

・専門の方々が何人かでグループを作ってる所へ行くとまあまあ安心できるアドバイスをしていただける場所が必要かと思います。

・自立支援に向けての施設を設け、増やしてほしい。

・別の相談場所の紹介や詳しくなくてもいいので内容の引き継ぎなどをしてもらえると精神的負担が減り、又、心の支えになったような気がします。

・大変かと思いますが、はじめだけは家もしくは近くまで来て道案内をしていただくことをしたり、時には初めての所に出かけたりとのりものにのるなど外に出る機会を作ってもらえたり、同じ子などの友達の紹介、その人と3~4人で何か出かけたり、話したりする機会を作って交友関係を作るきっかけを作っていただけるとありがたいです。コロナで仕方ないですが、やはり実際は本人ときちんと会って話して外に出ることを作るきっかけをしてほしいです。

・家族が無料で気軽に相談できる電話、メール等の場所を作ってほしい。よろしくお願ひ致します。根気強く1人1人に対してチーム等を作っていただき本人と向き合って欲しいと思います。人手不足等もあり、面倒を見られない現状もあるかと思いますが、大事な命であり自立できたらすばらしいことです。

・専門家と直接対話する、それを継続することが必要です。そんな支援を考え早急に実行してください。

・ひきこもり状態や回復プロセスの段階に合わせた細かい支援があれば、本人も行動を起こすのではないかな。

《その他》

・板橋区でひきこもりの支援に力を入れてくださる事を心強く感じます。是非、よろしくお願ひ致します。

3 分析・クロス集計

(1) ひきこもりの状態にある者の属性・状況・支援ニーズ等

ひきこもりの状態にある方（過去にひきこもりの状態であった方）についての主な設問で最も多かった回答

性別	男性	年齢	30～34 歳	同居家族	母
人との交流状況	家族と会話はするが、家族以外の人と交流がない				
外出状況	一人で買い物に出かけることはある（生活に必要なことのみ）				
ひきこもりの状態になってからの期間	10～15 年未満				
ひきこもりの状態になったきっかけ	学校に馴染めなかった・不登校				
ひきこもりの状態になる前に必要だった支援	不安や悩み、弱音を話すこと				
相談した機関	健康福祉センター				
相談した内容	心理・精神面(不安・イライラする)の悩み				
ひきこもりの状態を変えるために、必要・役立つと思うもの	(上位 3 項目)				
	1 家以外で安心・安全だと感じられる居場所				
	2 就労（仕事探し）の悩みを相談できる相手				
	3 気軽に参加できる趣味や体験活動の場				

※ 上記は、回答者＝ひきこもりの状態にある本人とその家族等の集計結果であり、現在ひきこもり状態にある方と過去にひきこもりの状態であった方の回答。

（2）ひきこもりの状態にある（過去にひきこもりの状態であった）本人の回答

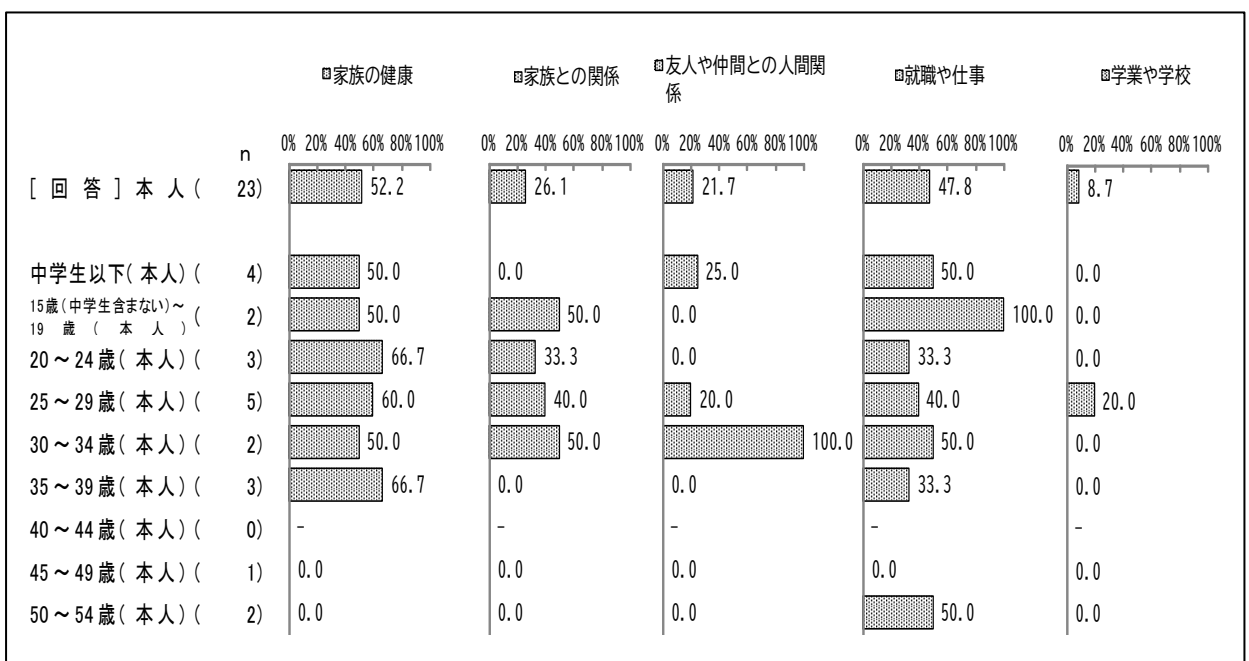
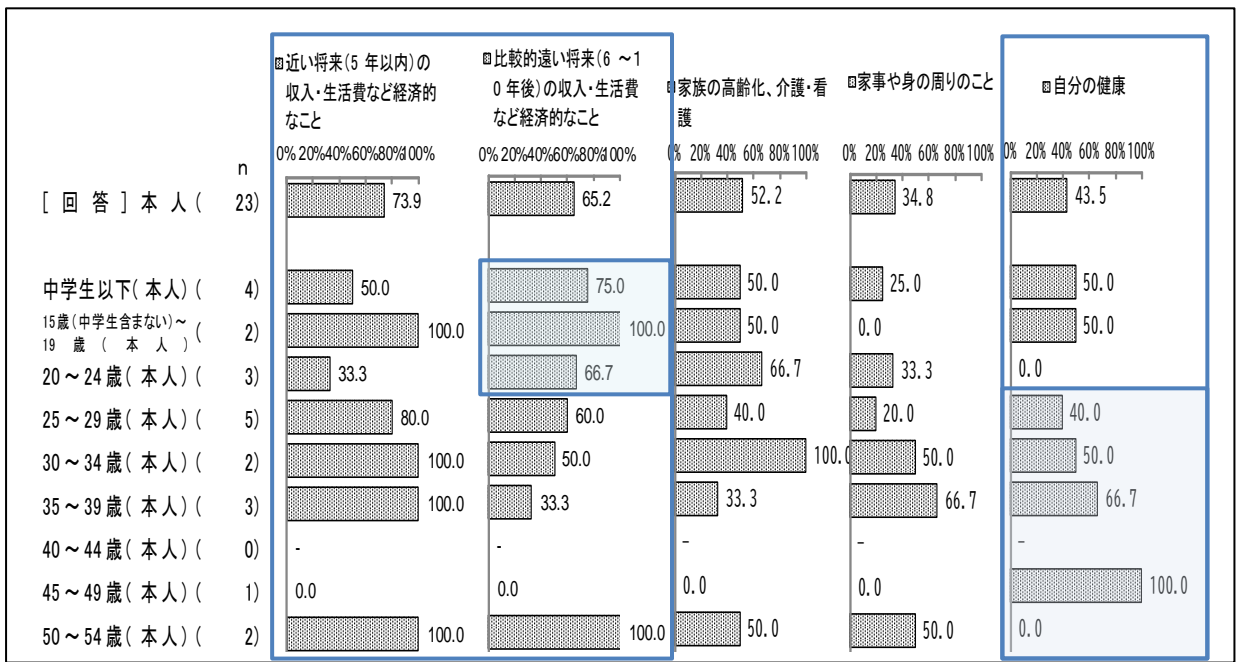
ひきこもりの状態にある（過去にひきこもりの状態だった）本人の回答のみを抜粋し、本人の視点で考察する。

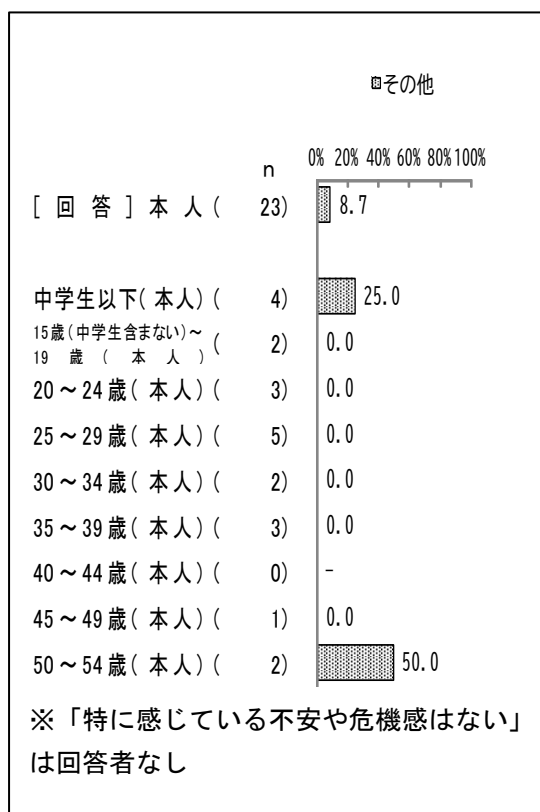
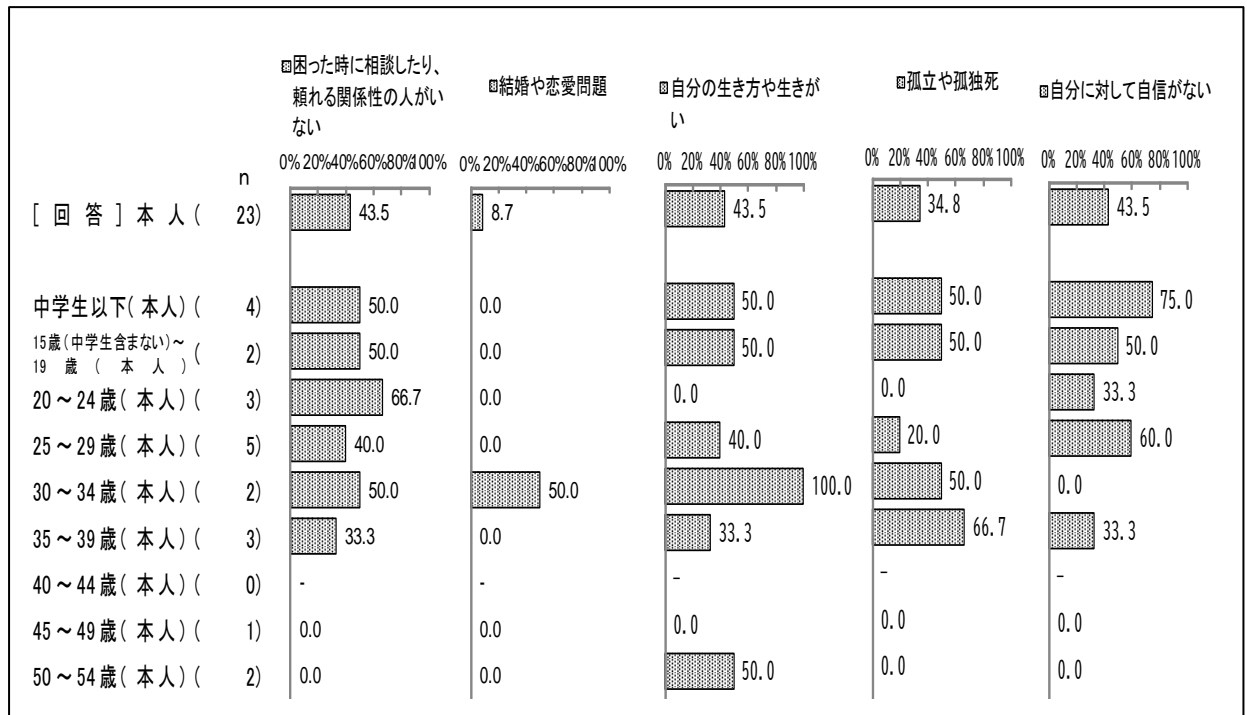
① 感じている不安や危機感

①-1 「本人年齢（Q9）」×「感じている不安や危機感（Q5）」

・全体では、年齢にかかわらず「将来の収入・生活費など経済的なこと」が高い割合を占めており、うち、若年層の方が「比較的遠い将来（6～10年後）」に対する不安を強く感じている傾向にある。

・年齢が高くなるほど、「自分の健康」に対する不安の割合が高くなっている。



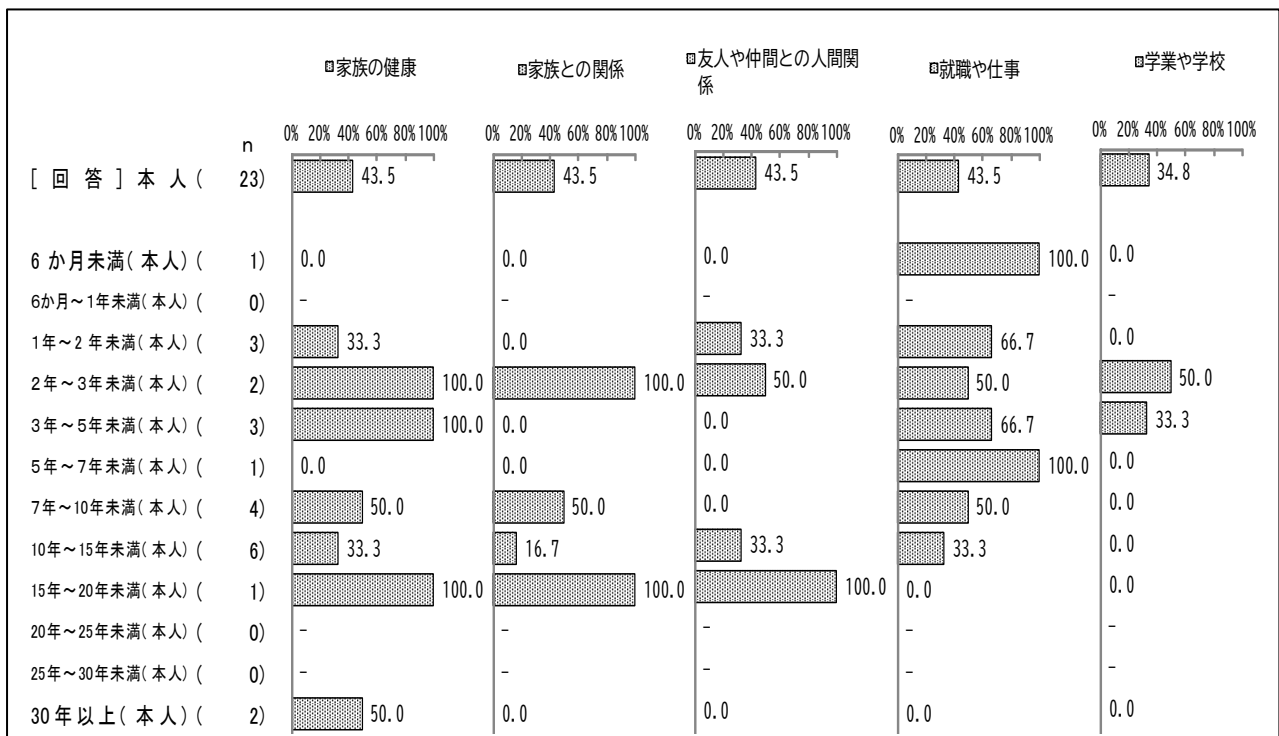
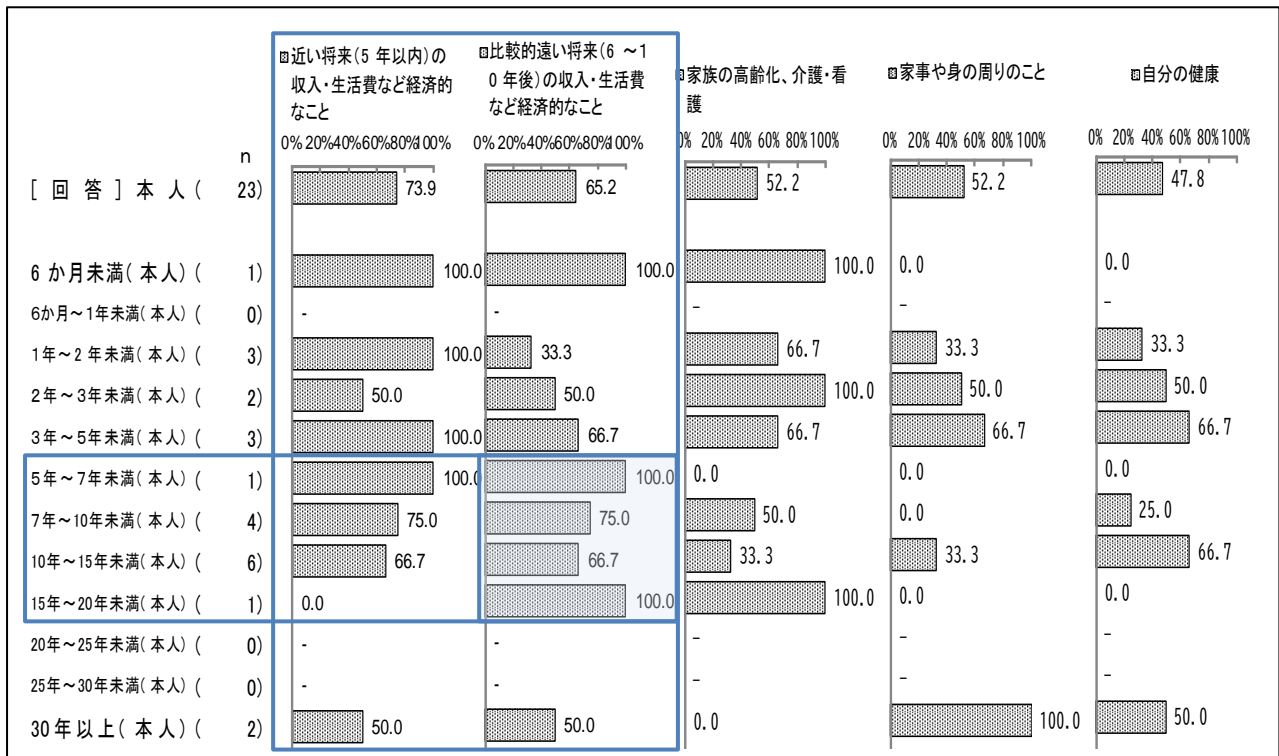


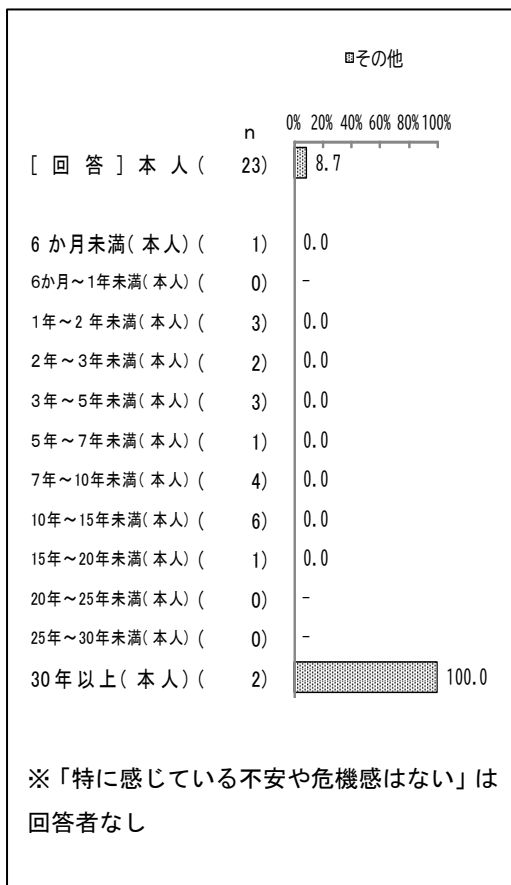
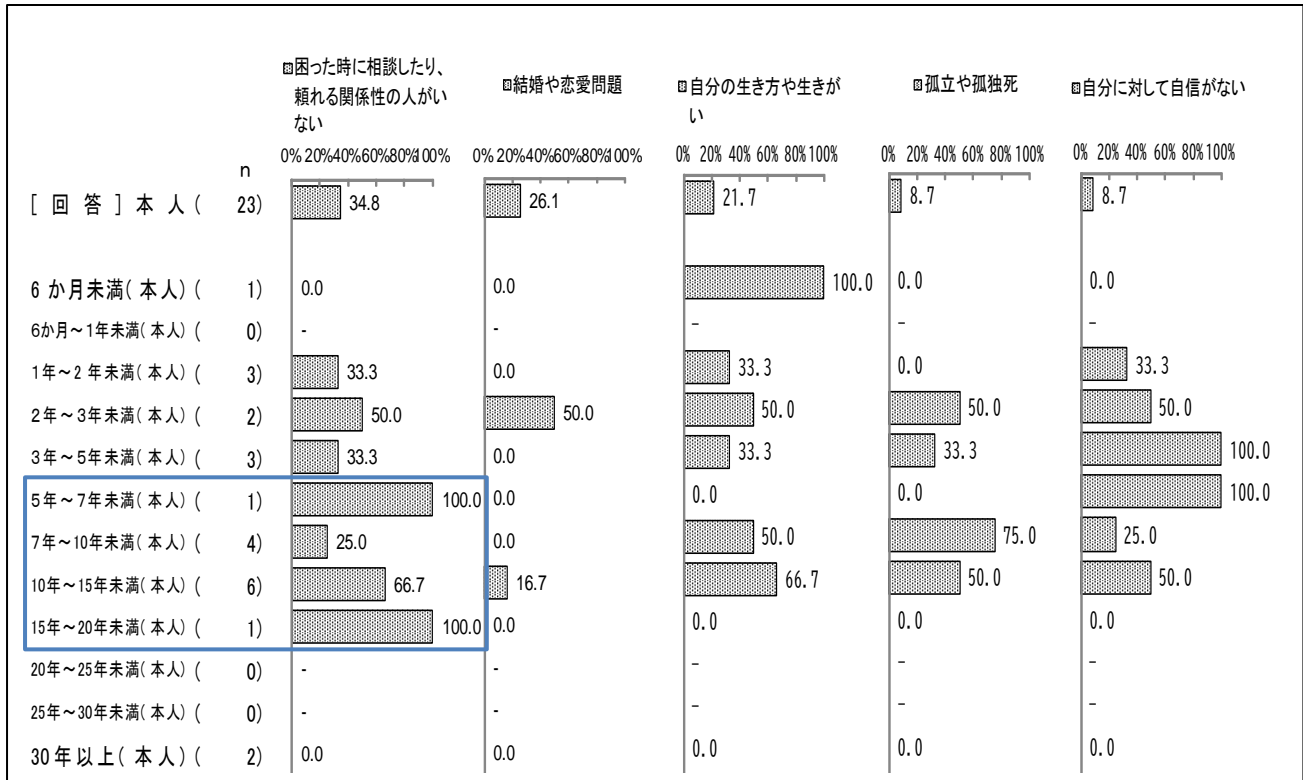
※ 年齢無回答 1 名を除いているため、本人年齢別の内訳の合計数は全体数（n=23）と一致しない。

①-2 「ひきこもりの状態になってからの期間（Q12）」×「本人が感じている不安や危機感（Q5）」

・ひきこもりの期間にかかわらず、「将来の収入・生活費など経済的なこと」が高い割合を占めている。うち、「比較的遠い将来（6～10年後）の収入・生活費など経済的なこと」に対する不安・危機感を感じているのは、ひきこもりの期間が5年以上と長くなる方が高い傾向にある。

・5年以上～20年未満において、「困った時に相談したり、頼れる関係性の人がない」をあげる割合が高くなっている。

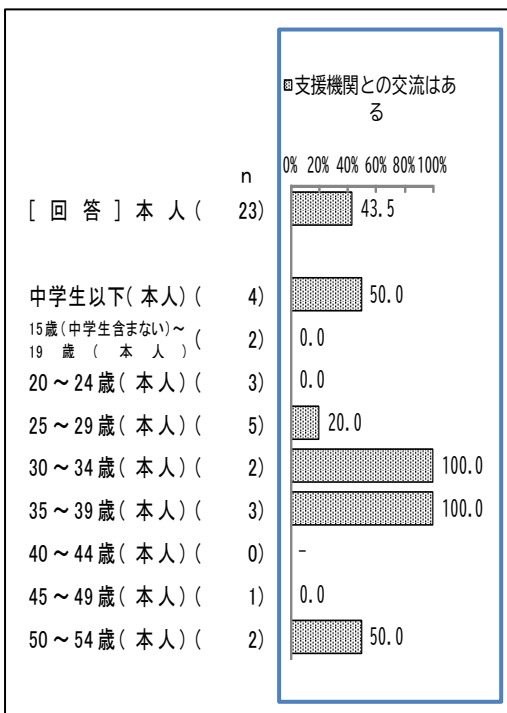
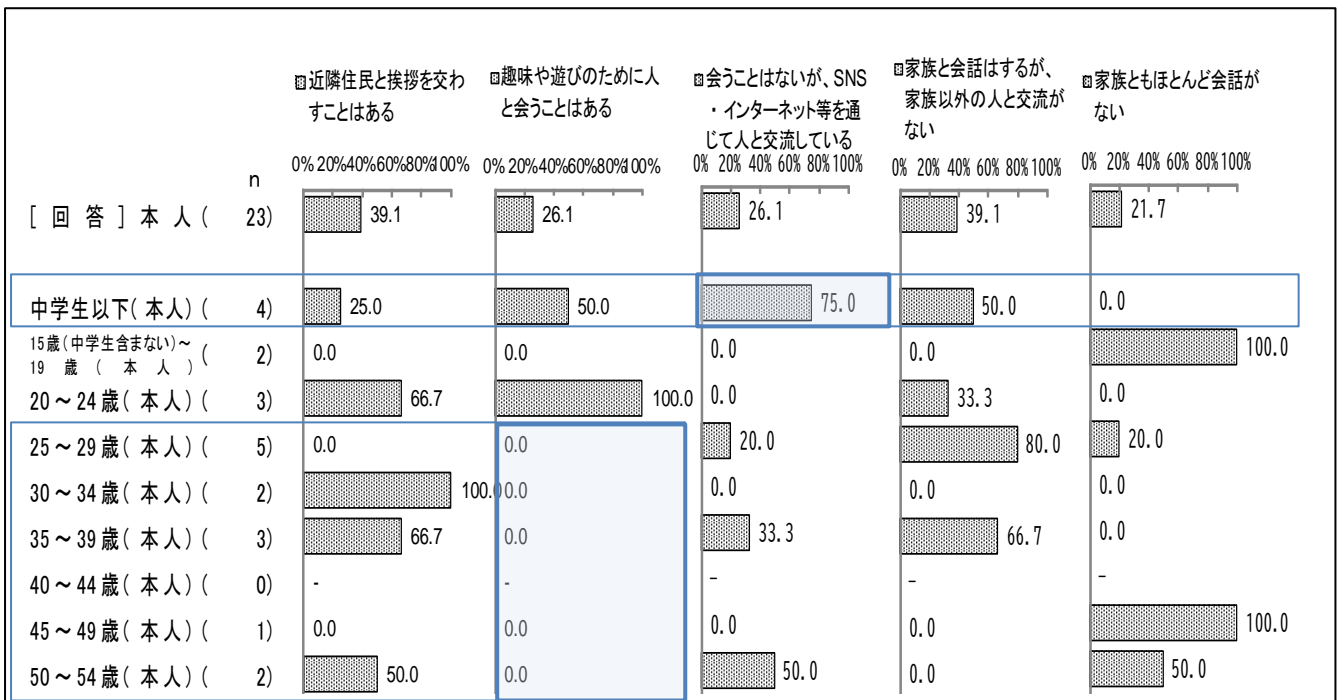




② 人との交流状況

②-1 「本人年齢（Q9）」×「人との交流状況（Q10）」

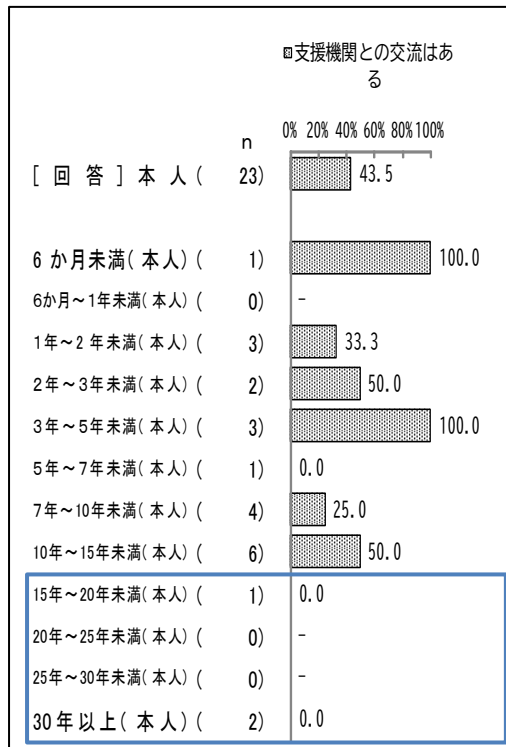
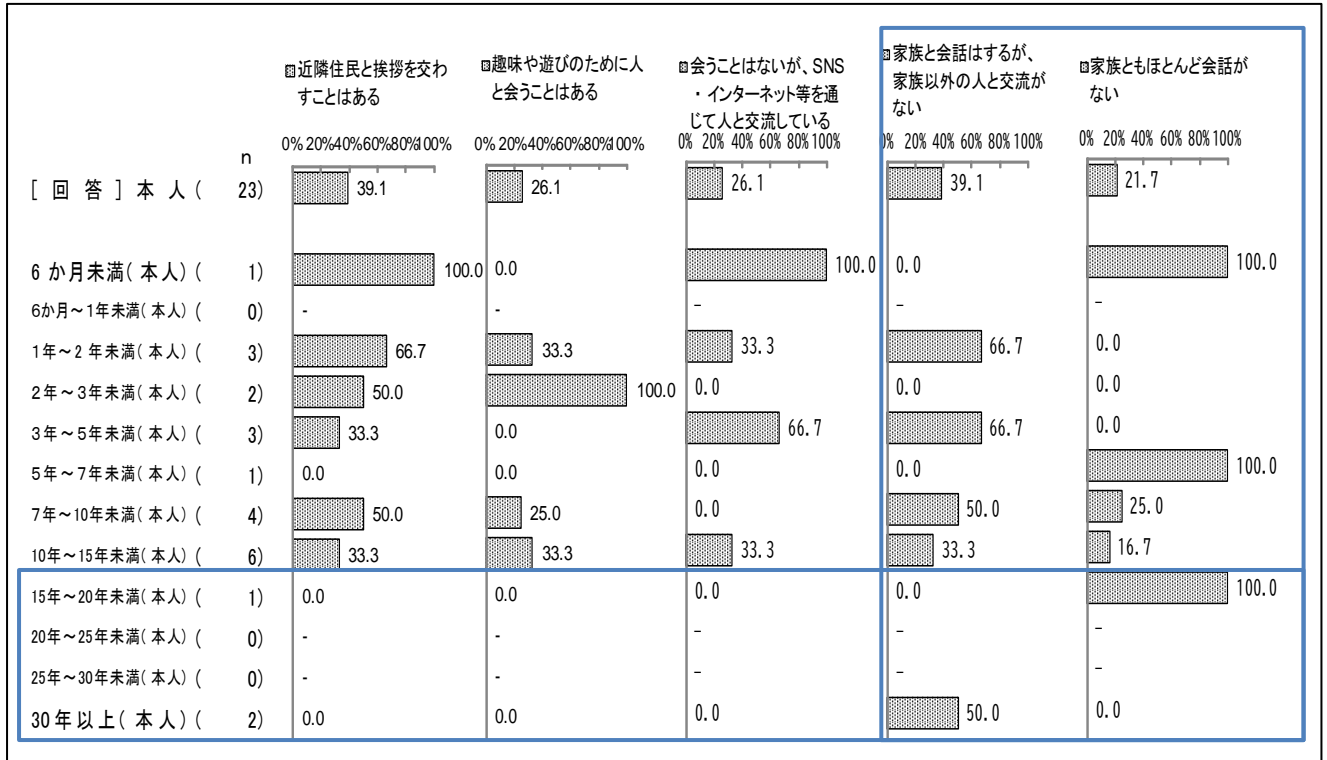
- ・全体では、「支援機関との交流はある」が最も高い割合となっている。
- ・年齢別にみると、「中学生以下」では「会うことはないが、SNS・インターネット等を通じて人と交流している」が最も高い割合であった。
- ・25歳以上は、「趣味や遊びのために人と会うことはある」の状況にあてはまる者はいなかった。



※ 年齢無回答1名を除いているため、本人年齢別の内訳の合計数は全体数（n=23）と一致しない。

②-2 「ひきこもりの状態になってからの期間（Q12）」×「人との交流状況（Q10）」

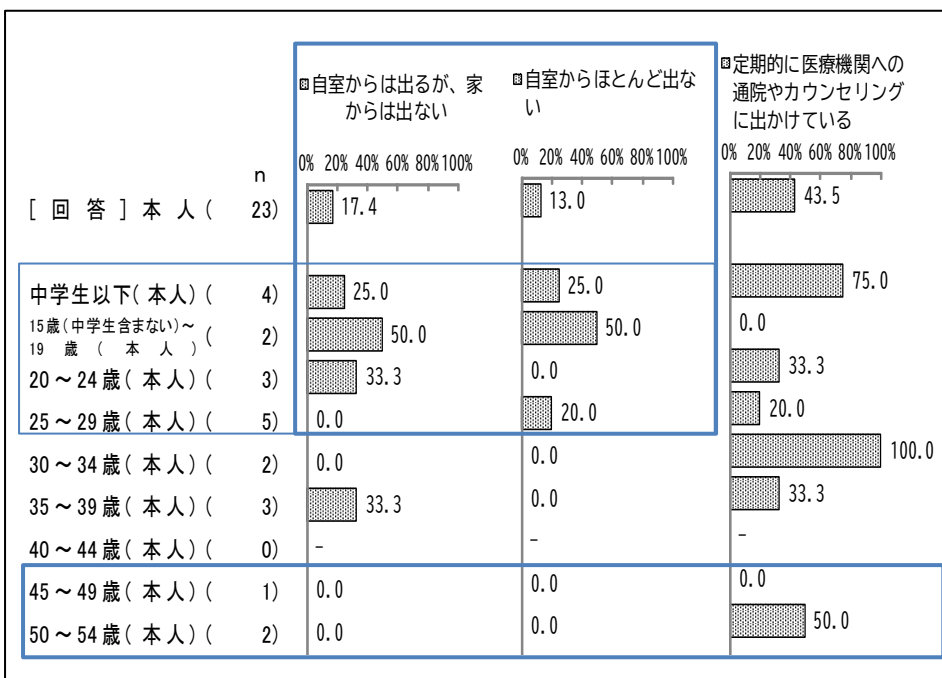
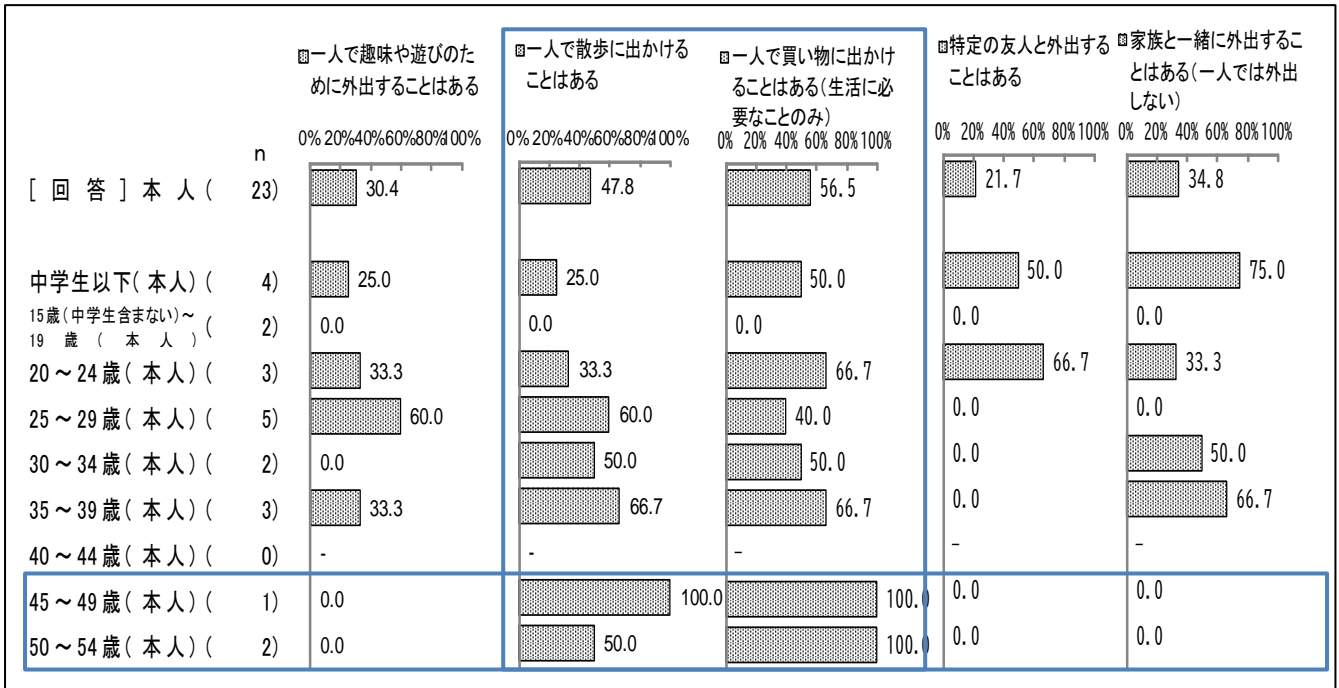
・ひきこもりの期間が15年以上となる者は、「家族と会話はするが、家族以外の人と交流がない」または「家族ともほとんど会話がなない」のみで、外部との交流が少ない状況がうかがえる。



③ 外出状況

③-1 「本人年齢 (Q9)」 × 「外出状況 (Q11)」

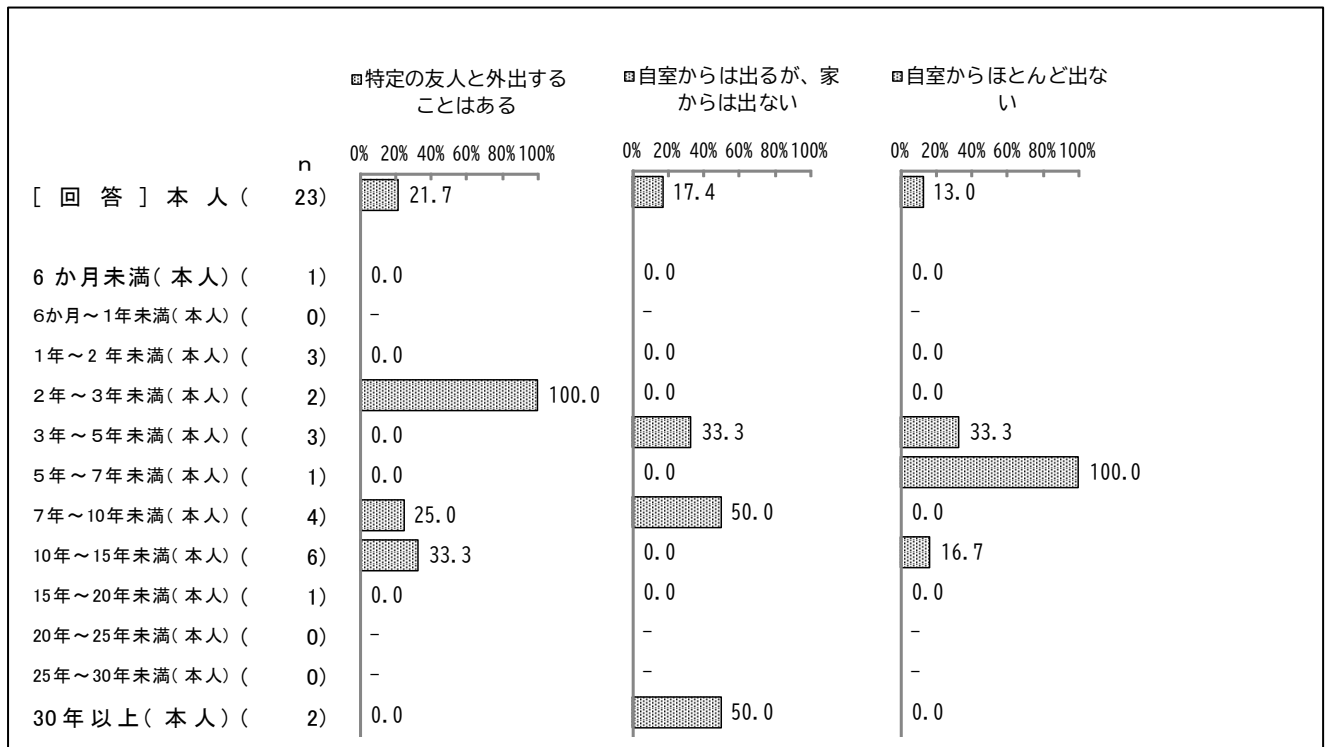
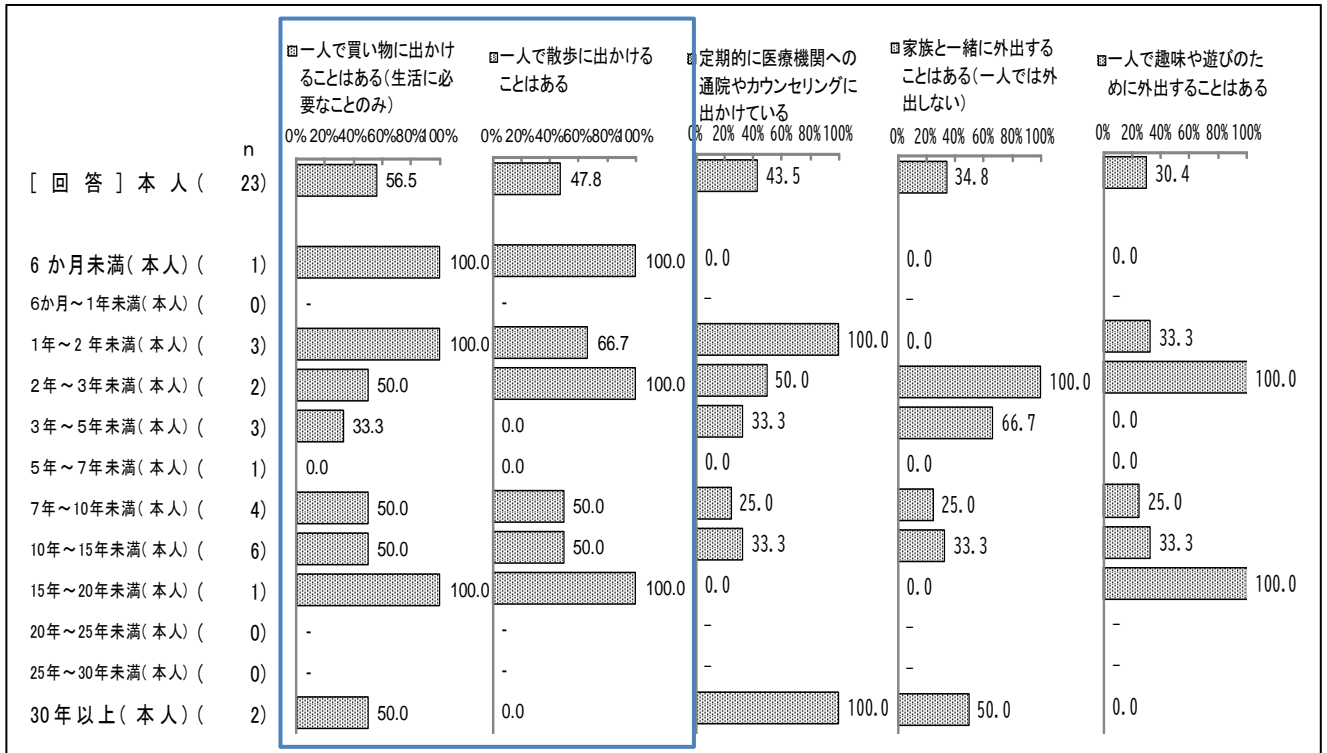
- ・全体では「一人で買い物に出かけることはある（生活に必要なことのみ）」が最も高い割合となっている。
- ・45歳以上では、特定の友人や家族と外出することはなく、一人で散歩や買い物に出かけることが主な外出状況となっている。
- ・「家からは出ない」または「自室からほとんど出ない」は、若年層に多い傾向がみられる。



※ 年齢無回答1名を除いているため、本人年齢別の内訳の合計数は全体数（n=23）と一致しない。

③-2 「ひきこもりの状態になってからの期間（Q12）」×「外出状況（Q11）」

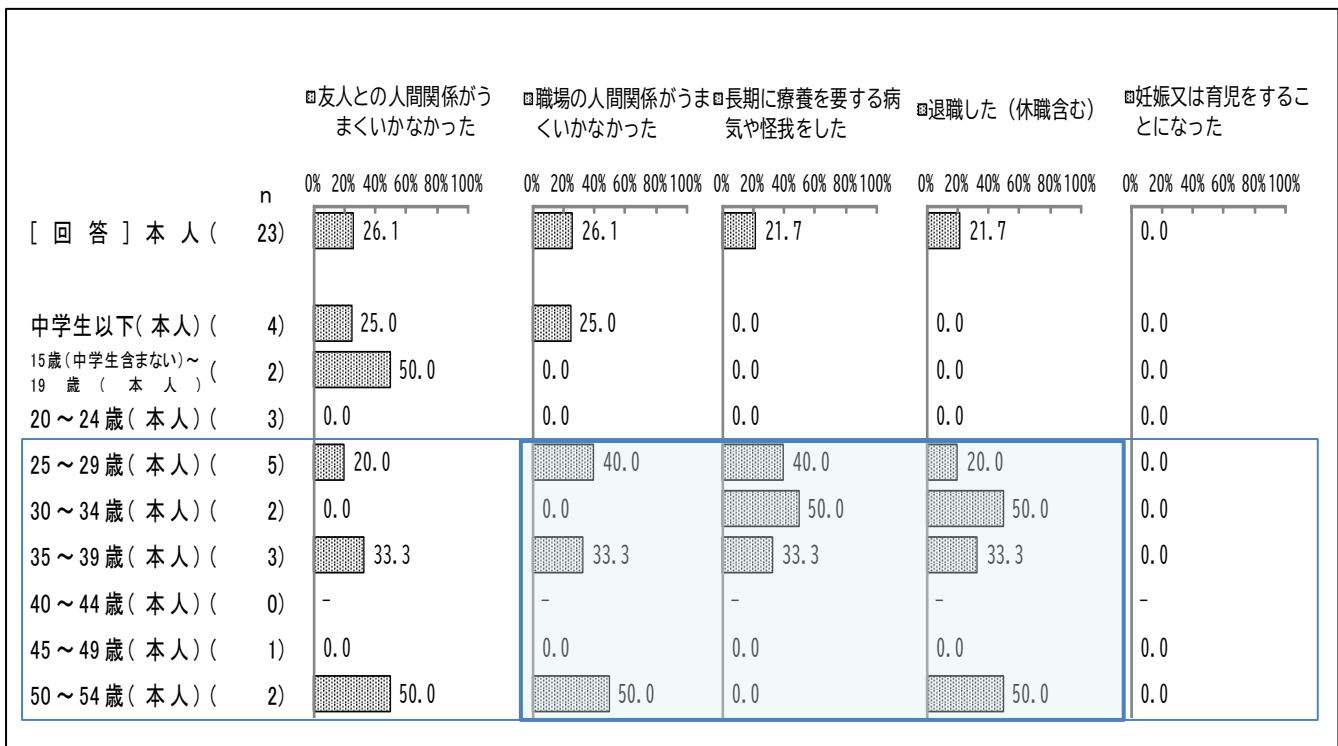
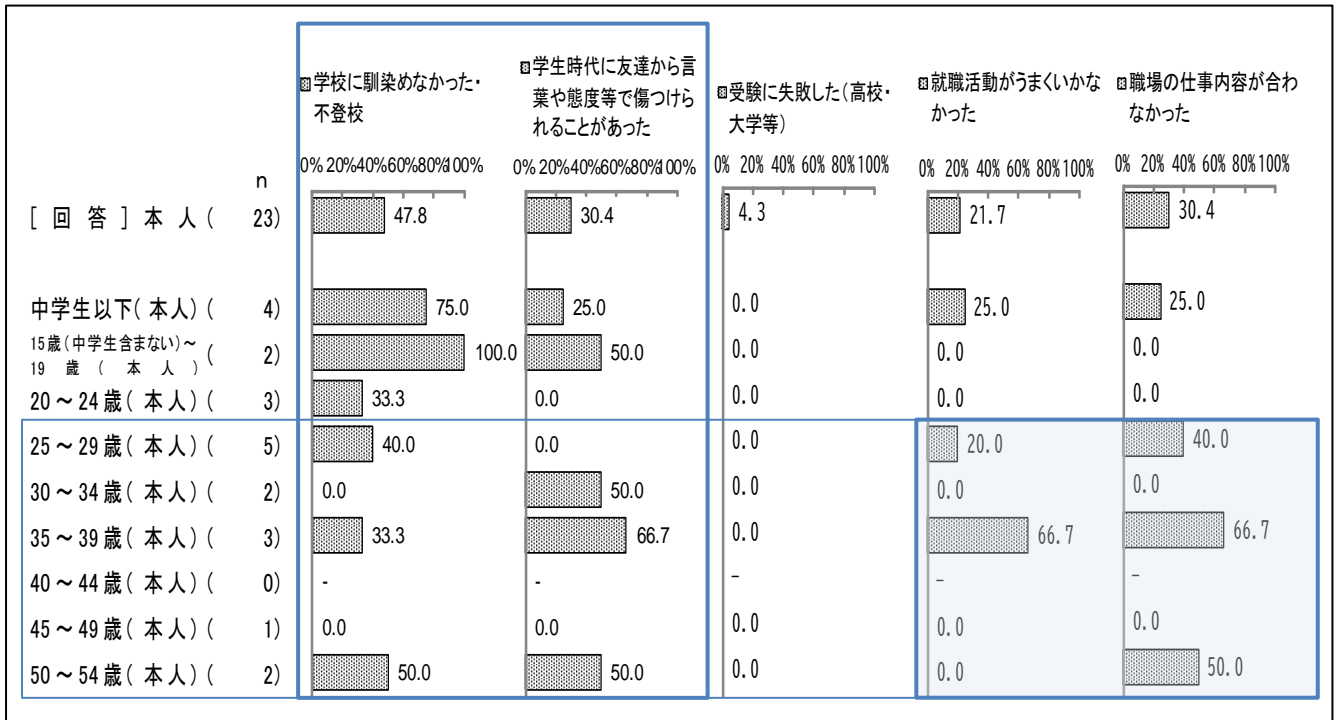
・ひきこもりの期間で、外出状況に大きな差異はみられず、一人での買い物や散歩に出かけることが多い傾向がみられる。

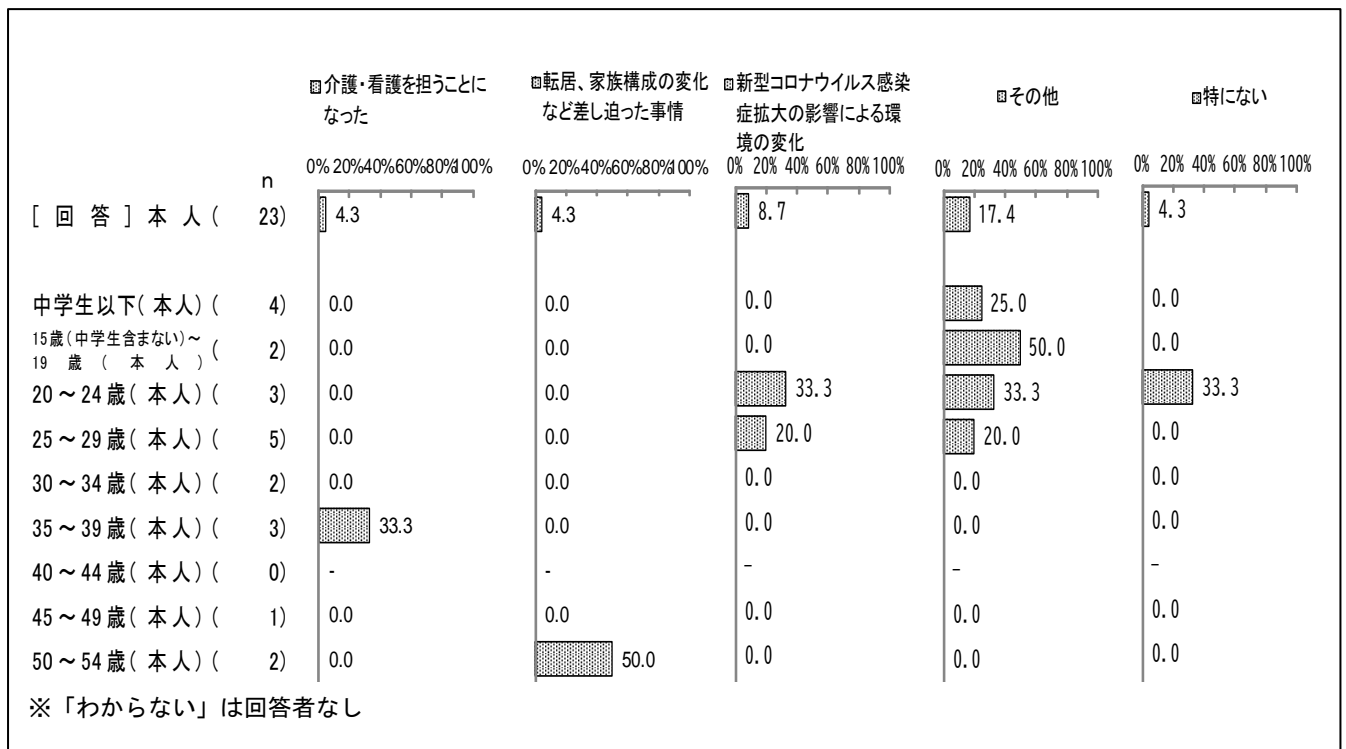


④ ひきこもりの状態になったきっかけ

④-1 「本人年齢（Q9）」×「ひきこもりの状態になったきっかけ（Q13）」

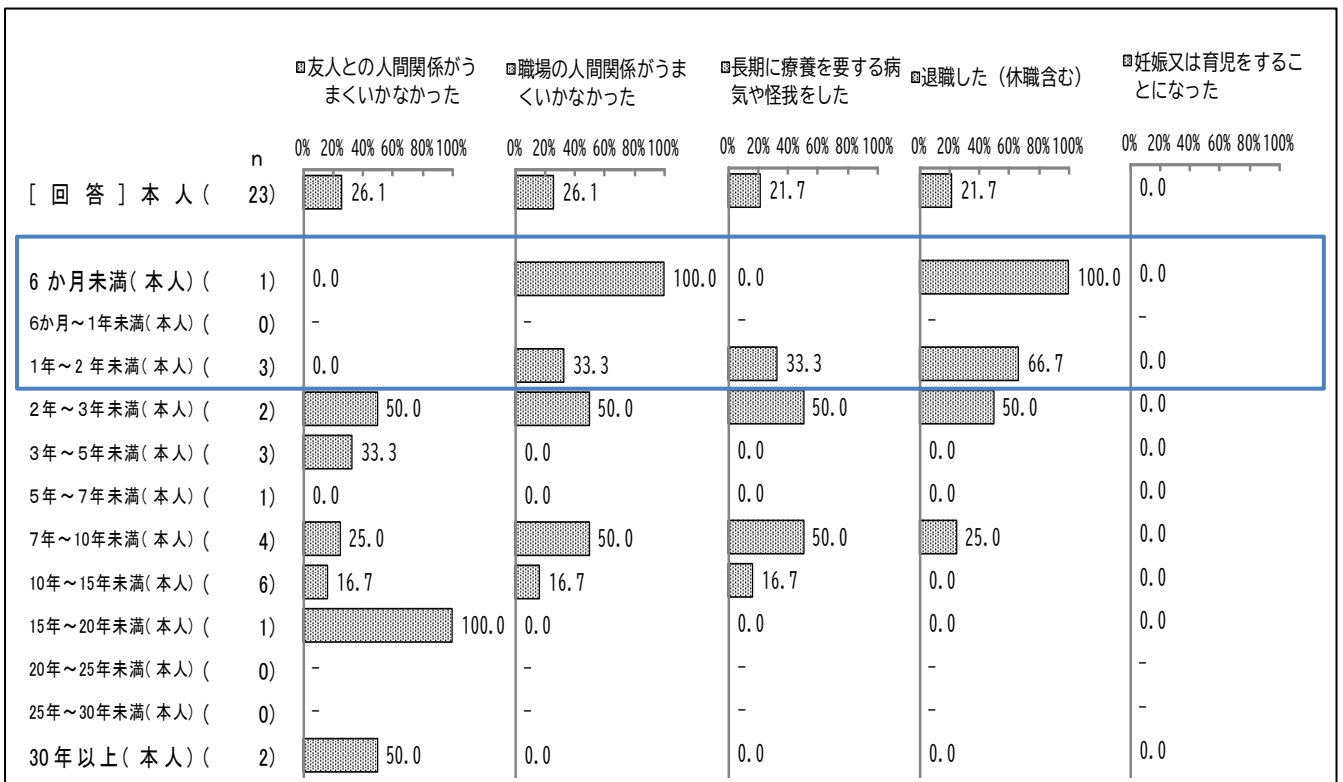
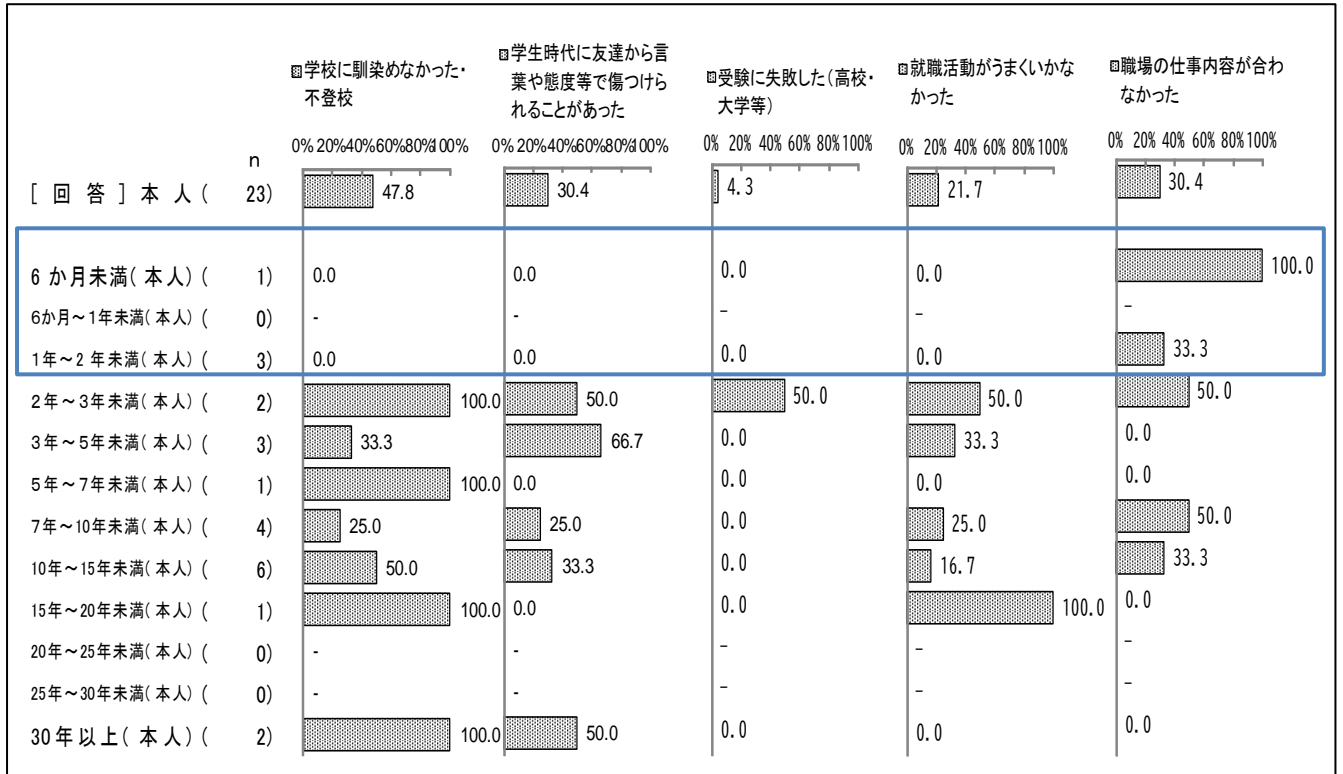
・全年齢層で「学校に馴染めなかった・不登校」や「学生時代に友達から言葉や態度等で傷つけられることがあった」が高い割合となっており、学生時代における体験がひきこもりのきっかけとなることが多い傾向にあることがみてとれる。さらに、25歳以上では、「就業関係（職場の仕事内容や人間関係・退職（休職含む）」と「長期に療養を要する病気や怪我」によるきっかけが、重ねてあげられている。

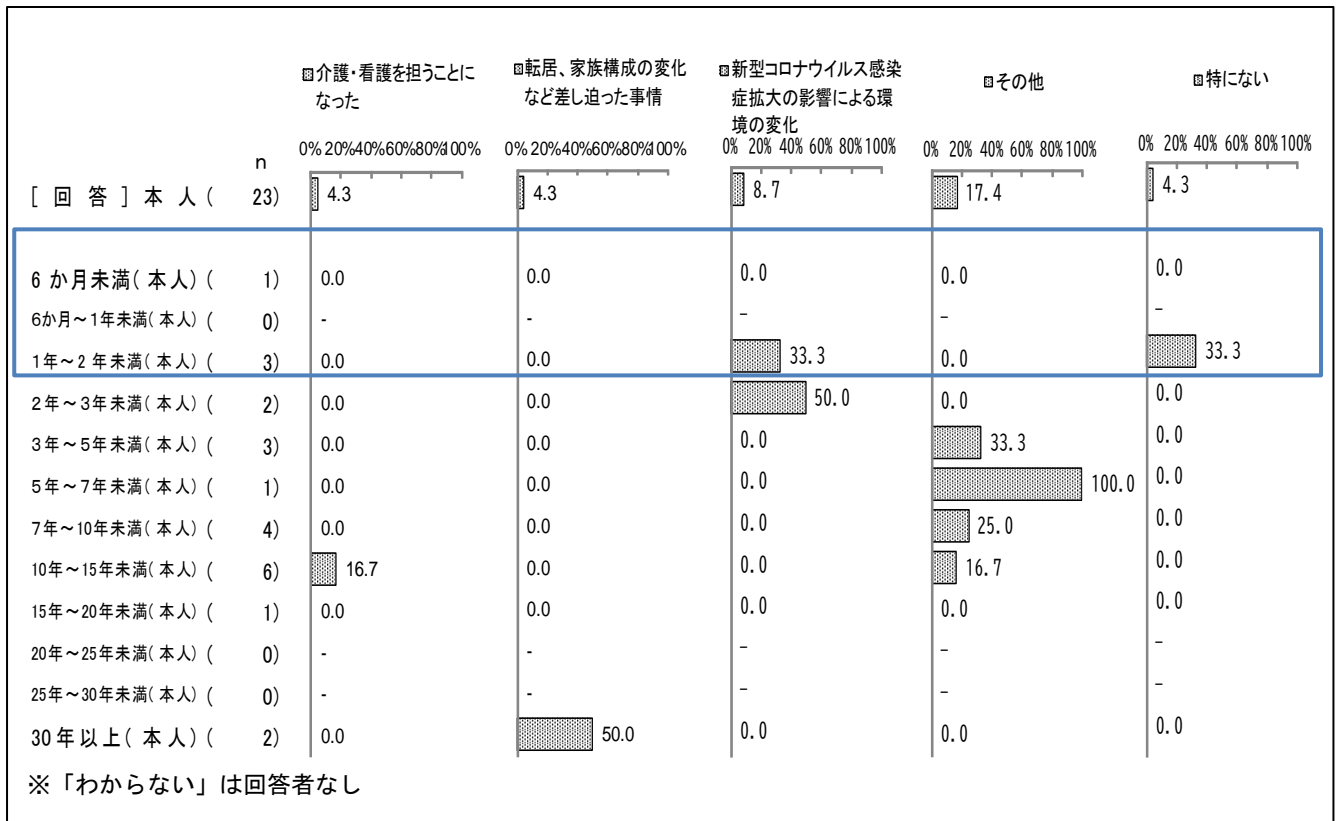




※ 年齢無回答1名を除いているため、本人年齢別の内訳の合計数は全体数（n=23）と一致しない。

④-2 「ひきこもりの状態になってからの期間（Q12）」×「ひきこもりの状態になったきっかけ（Q13）」
 ひきこもりの期間が比較的短い2年未満では、「就業関係（職場の仕事内容や人間関係・退職（休職含む）」と「長期に療養を要する病気や怪我」のみがあげられている。

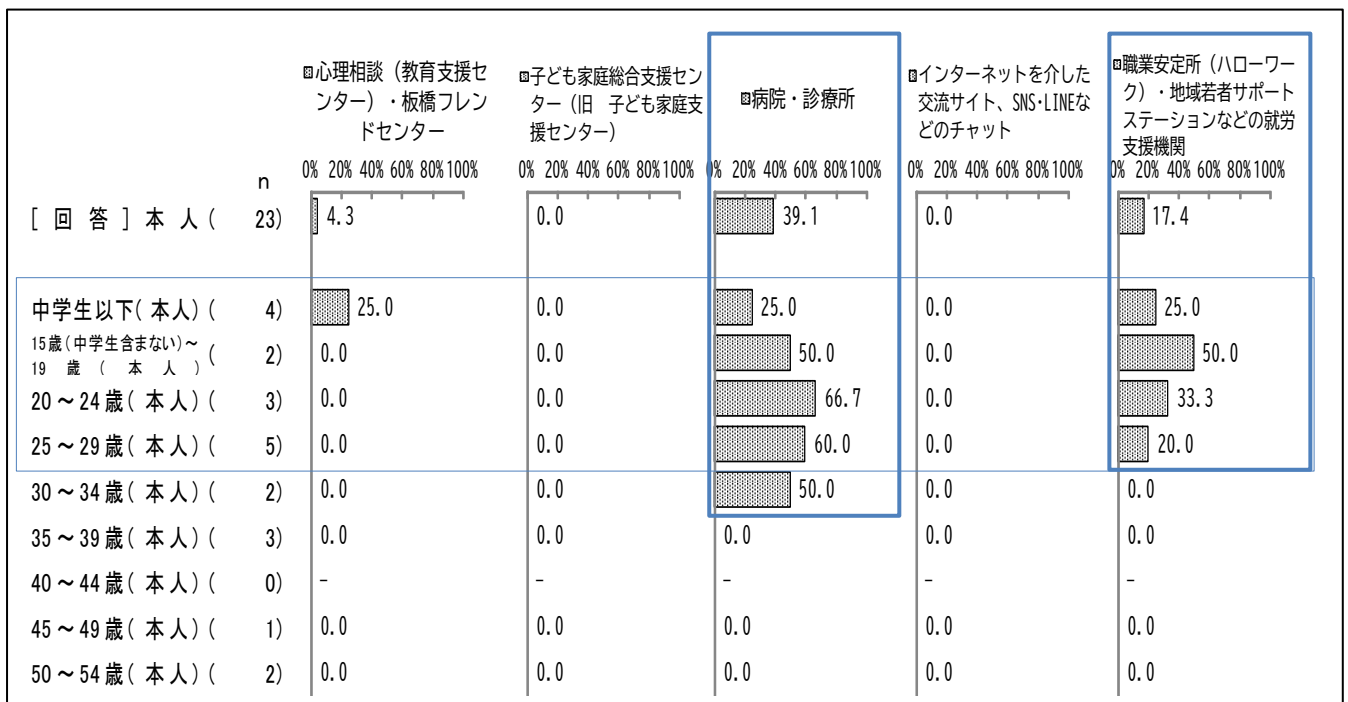
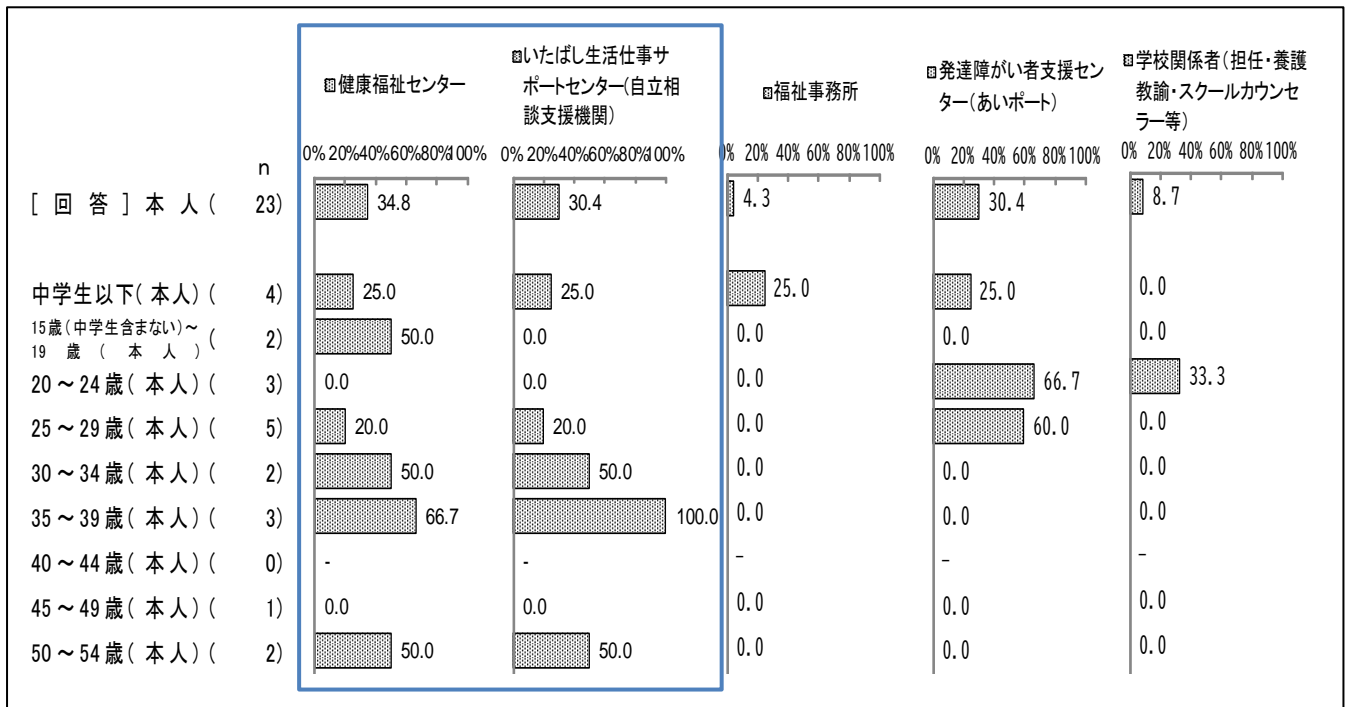


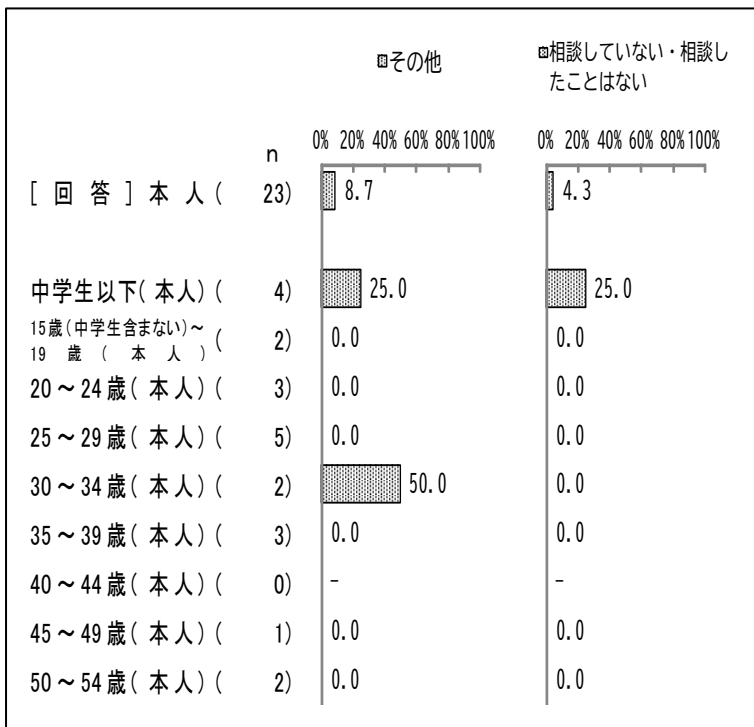
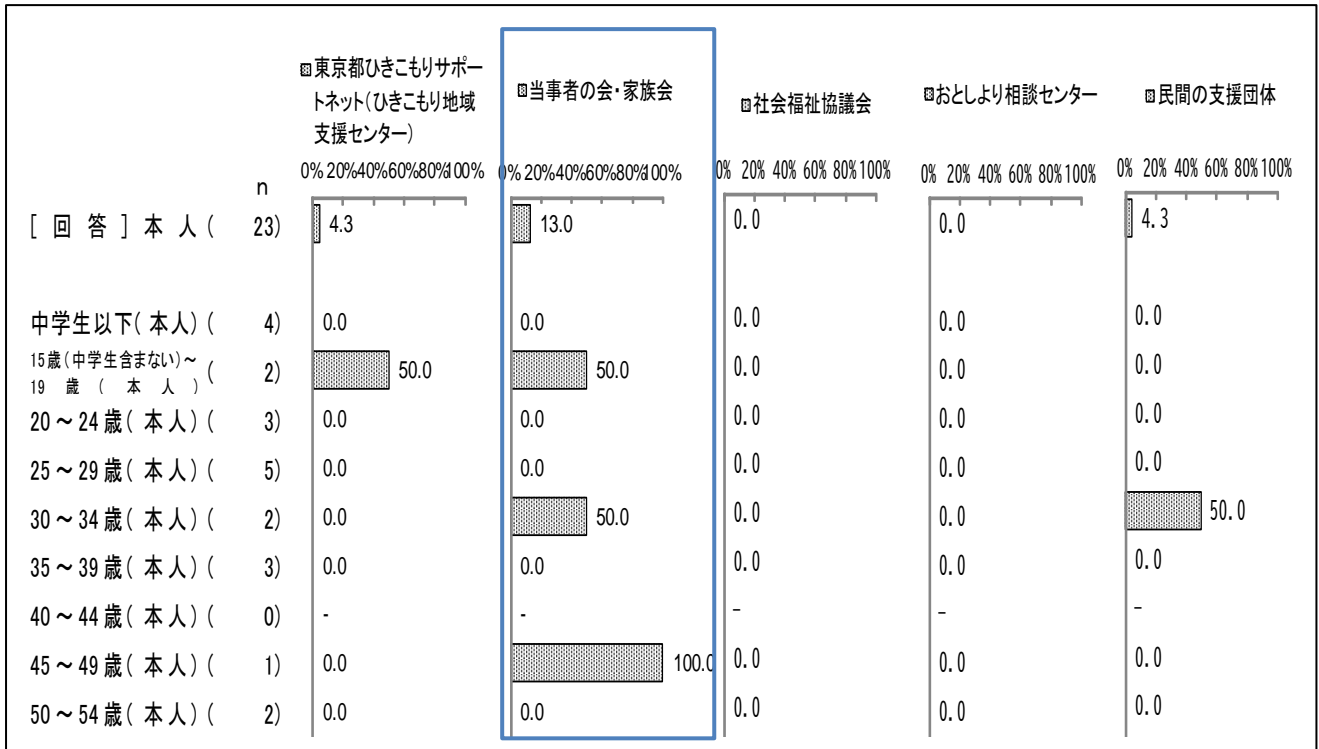


⑤ 相談した機関

⑤-1 「本人年齢（Q9）」×「相談した機関（Q15）」

- ・全体では「病院・診療所」の割合が最も高く、34歳以下の若年層が相談している。
- ・幅広い年齢層が相談しているのは、区立機関「健康福祉センター」「いたばし生活仕事サポートセンター（自立相談支援機関）」や「当事者の会・家族会」であることがみてとれる。
- ・「職業安定所（ハローワーク）・地域若者サポートステーションなどの就労支援機関」は、20代までの相談が多い傾向がみられる。

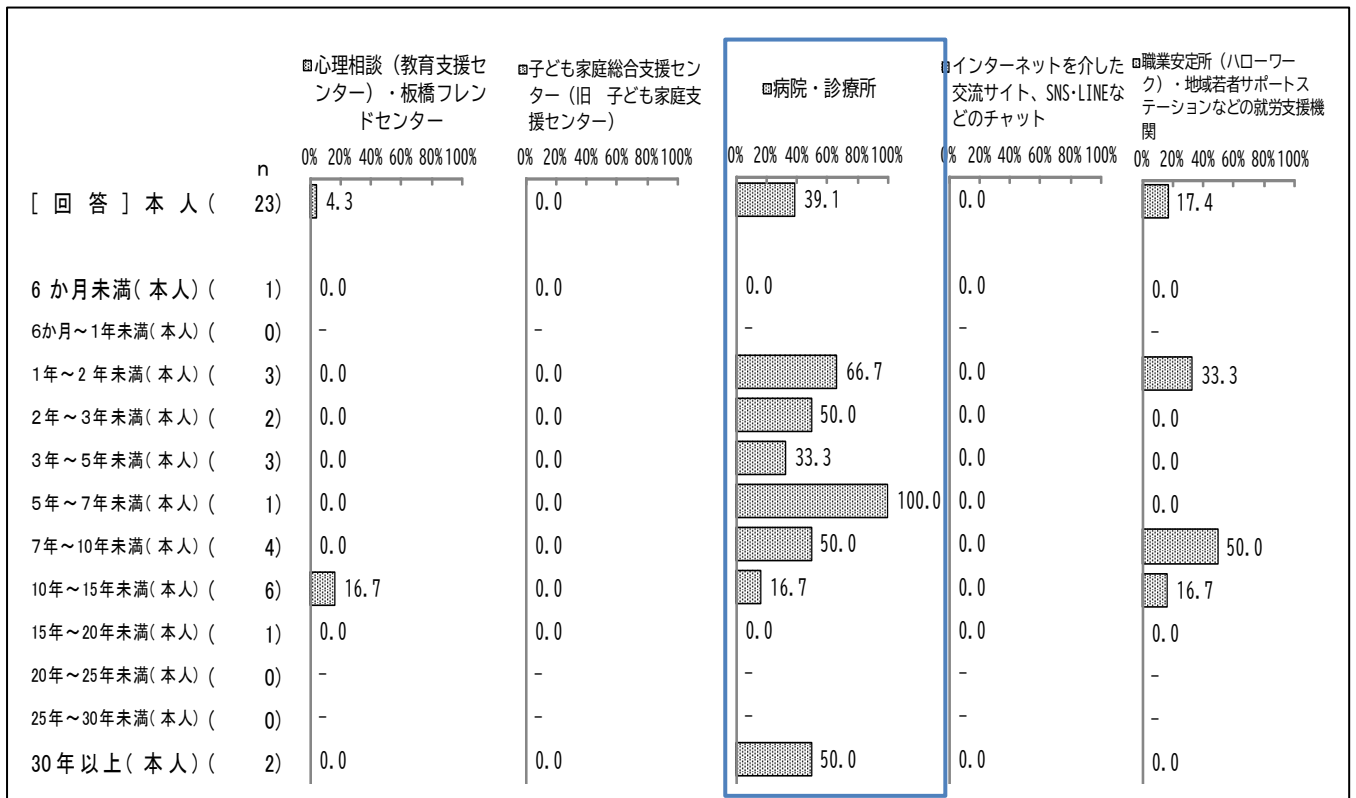
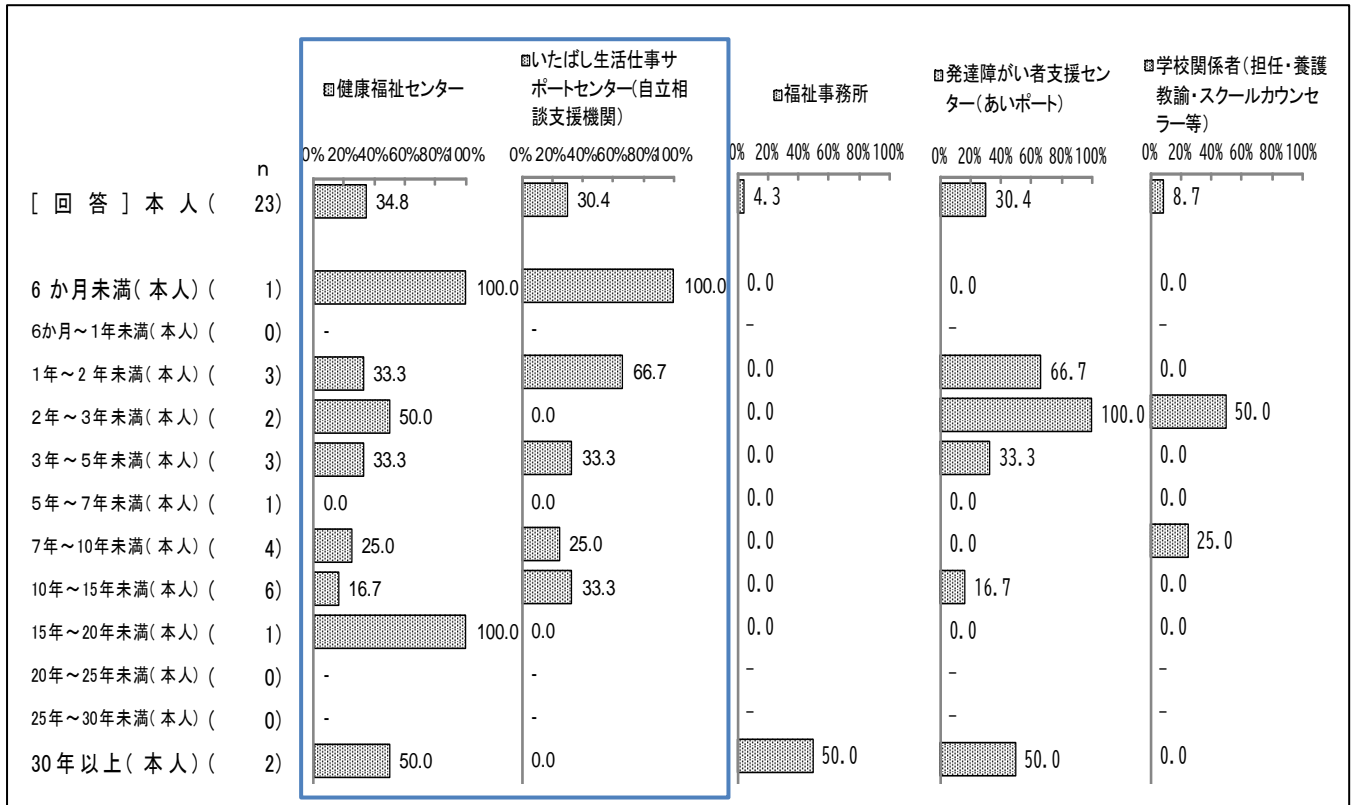


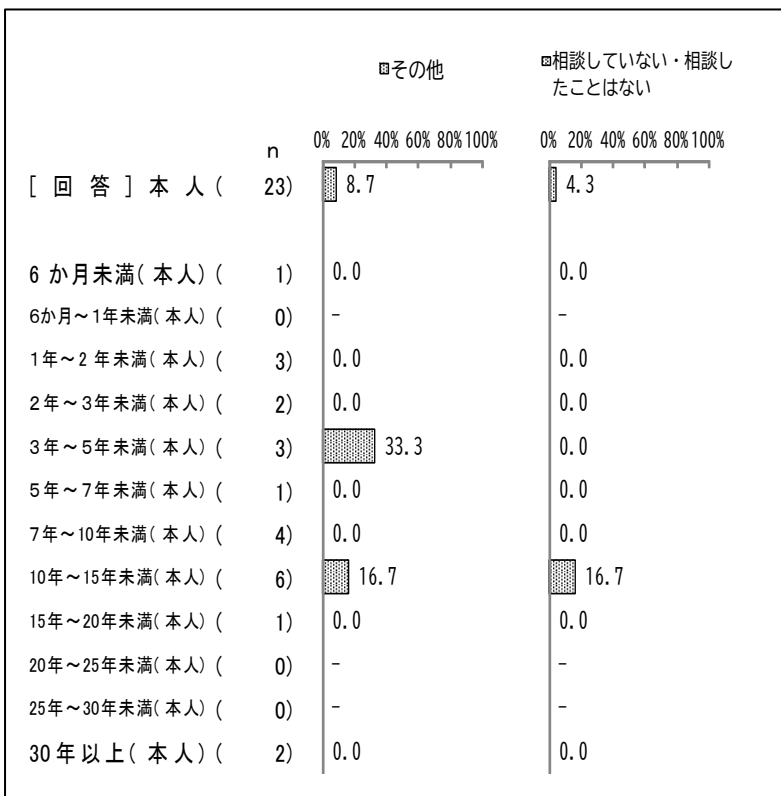
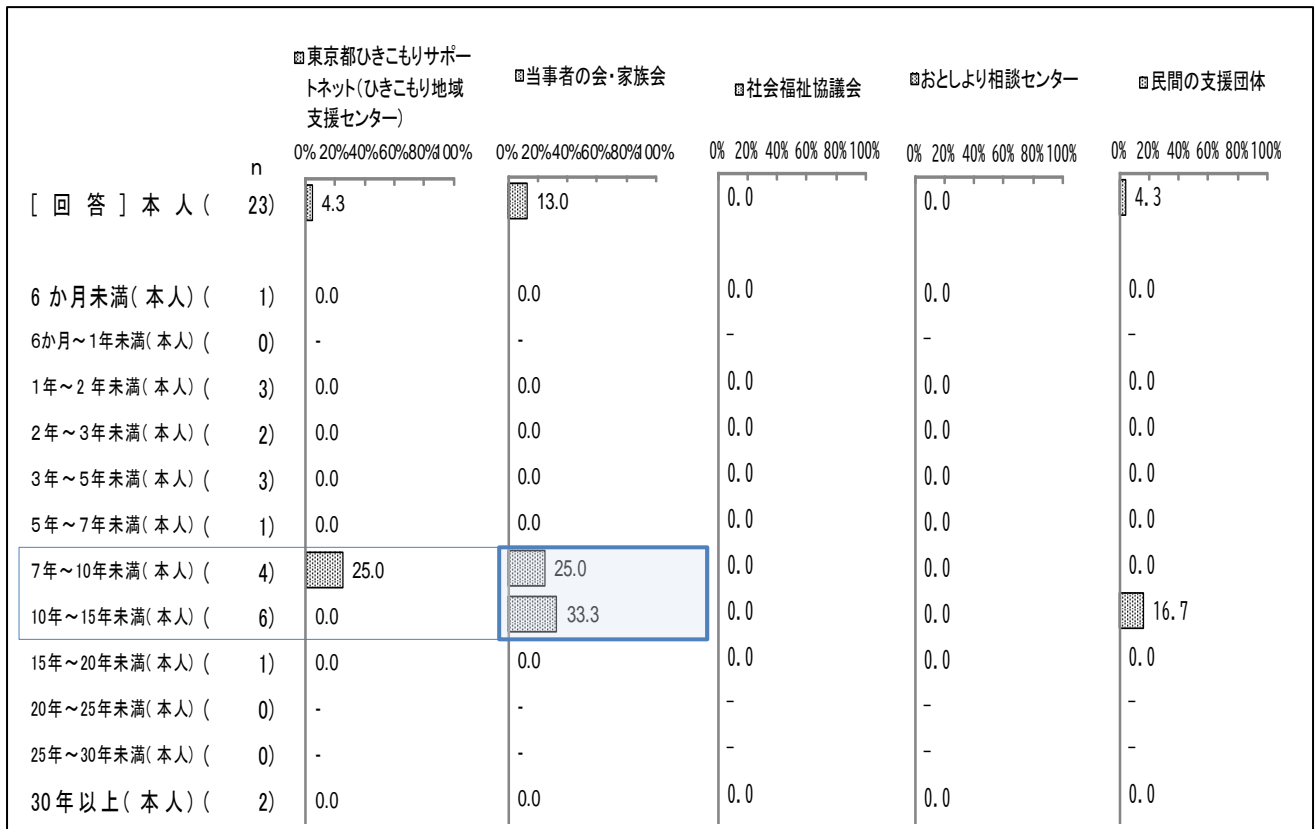


※ 年齢無回答1名を除いているため、本人年齢別の内訳の合計数は全体数（n=23）と一致しない。

⑤-2 「ひきこもりの状態になってからの期間（Q12）」×「相談した機関（Q15）」

- ・ひきこもりの期間にかかわらず、「病院・診療所」「健康福祉センター」「いたばし生活仕事サポートセンター（自立相談支援機関）」へ相談していることがみてとれる。
- ・「当事者の会・家族会」へは、7年～15年未満の者が相談している。

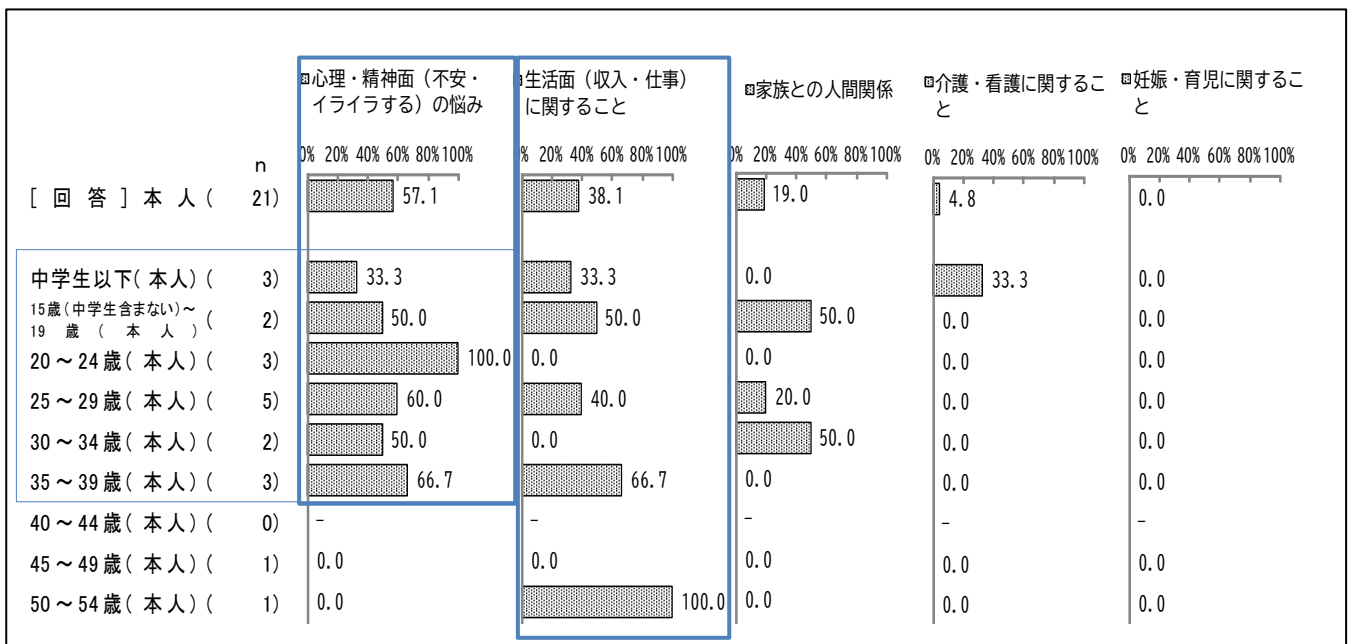
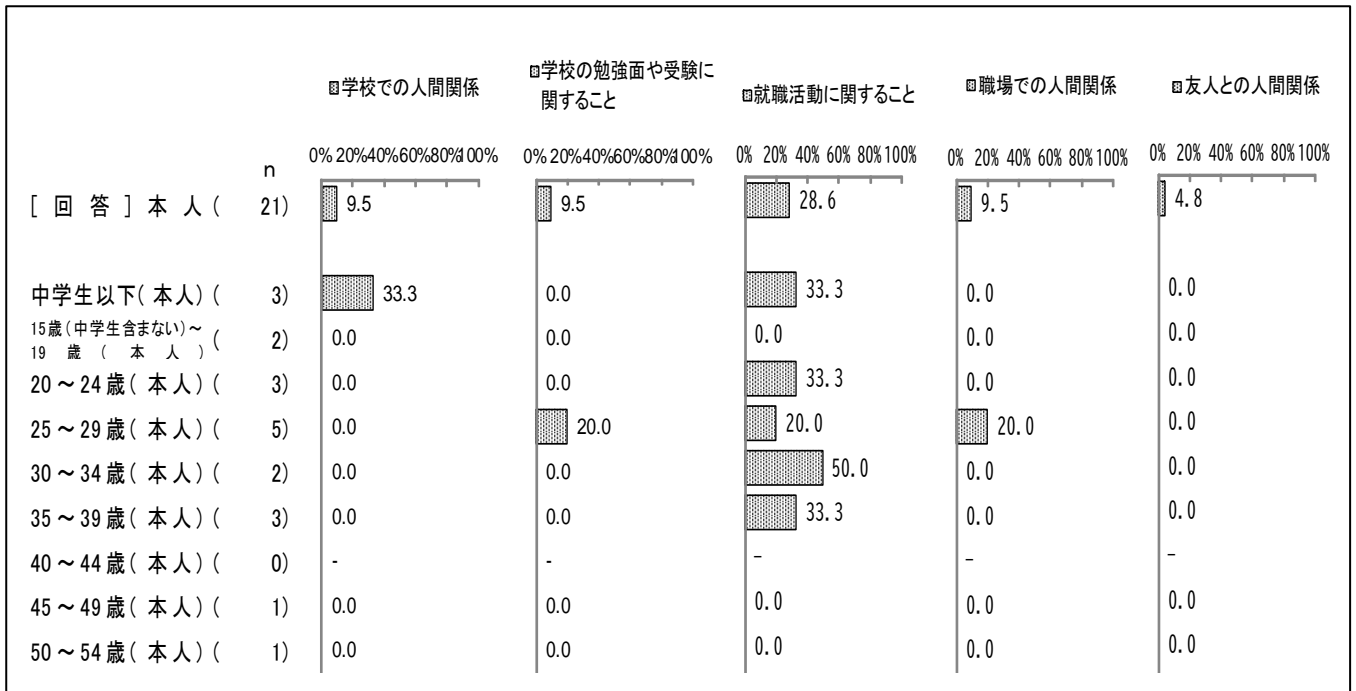


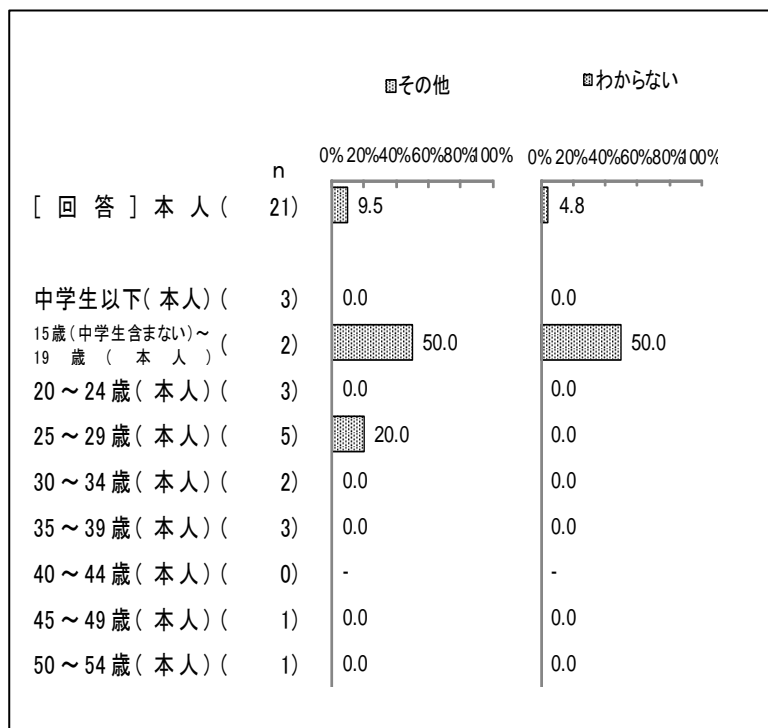


⑥ 相談した内容

⑥-1 「本人年齢（Q9）」×「相談した内容（Q16）」

- ・全体では、「心理・精神面（不安・イライラする）の悩み」の割合が最も高く、39歳以下が相談をしている。
- ・次いで割合の高い「生活面（収入・仕事）に関すること」は、幅広い年齢層が相談している内容である。

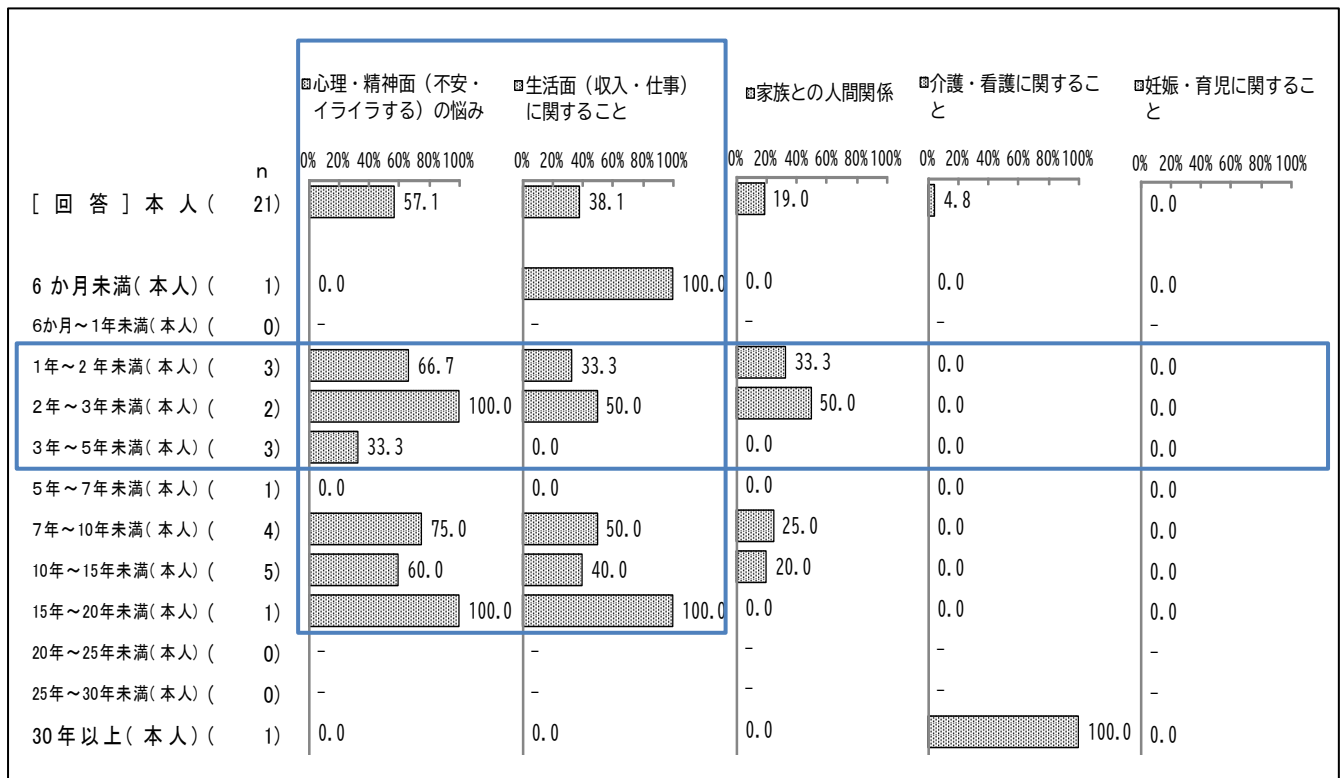
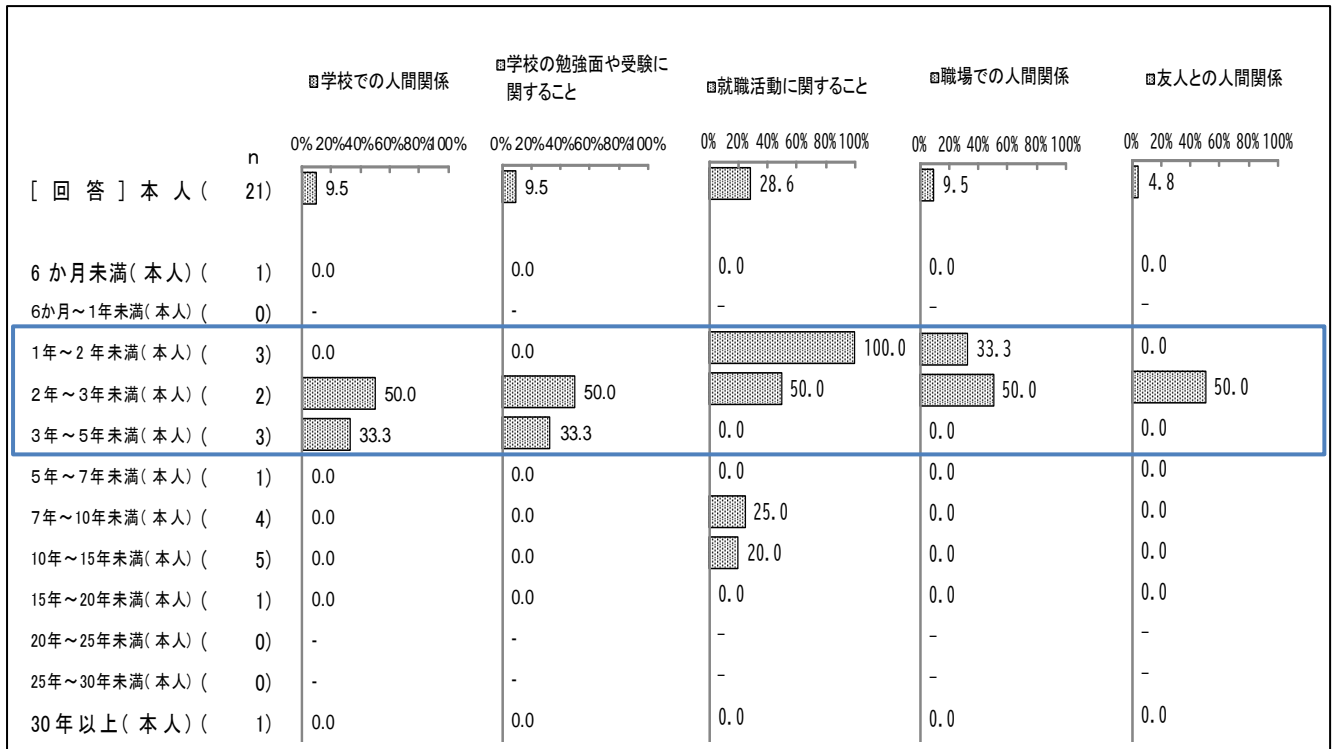


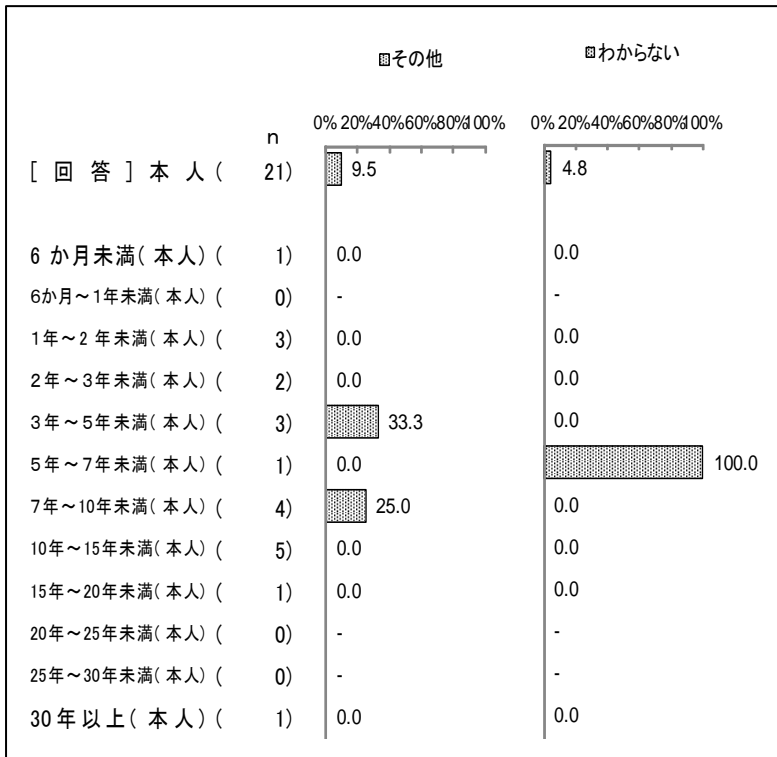


※ 年齢無回答1名を除いているため、本人年齢別の内訳の合計数は全体数（n=21）と一致しない。

⑥-2 「ひきこもりの状態になってからの期間（Q12）」×「相談した内容（Q16）」

・ひきこもりの期間にかかわらず、「心理・精神面（不安・イライラする）の悩み」や「生活面（収入・仕事）に関すること」についての相談が多い傾向にある。なお、その他の相談内容は、1年～5年未満の者が多く相談していることがみてとれる。

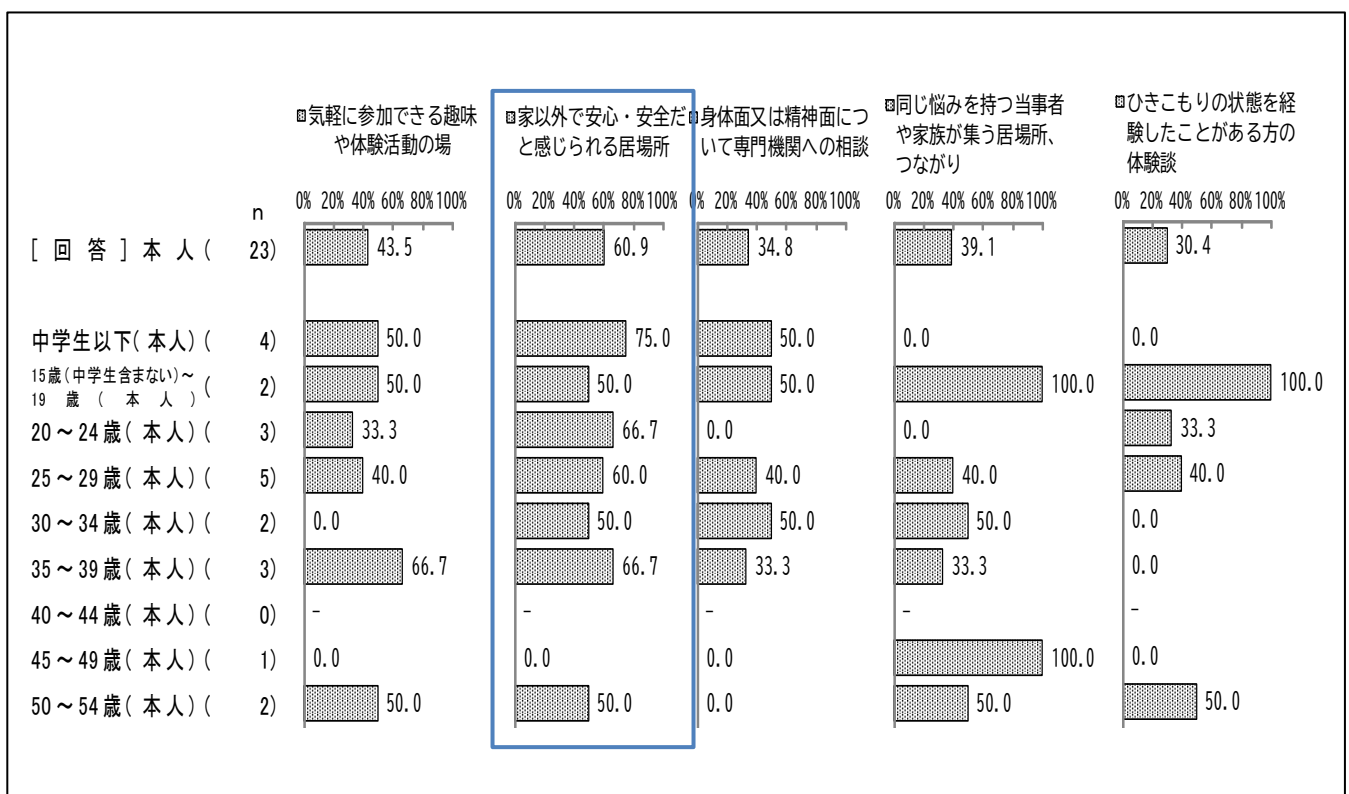
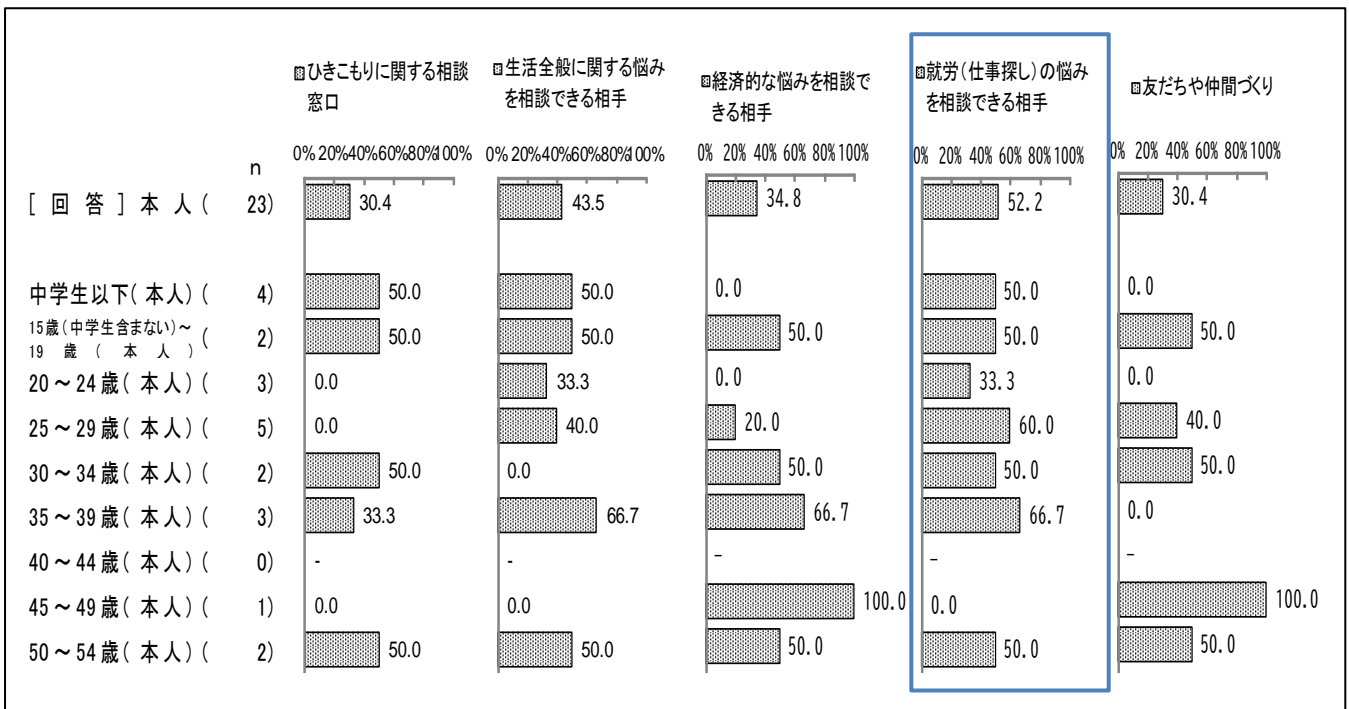


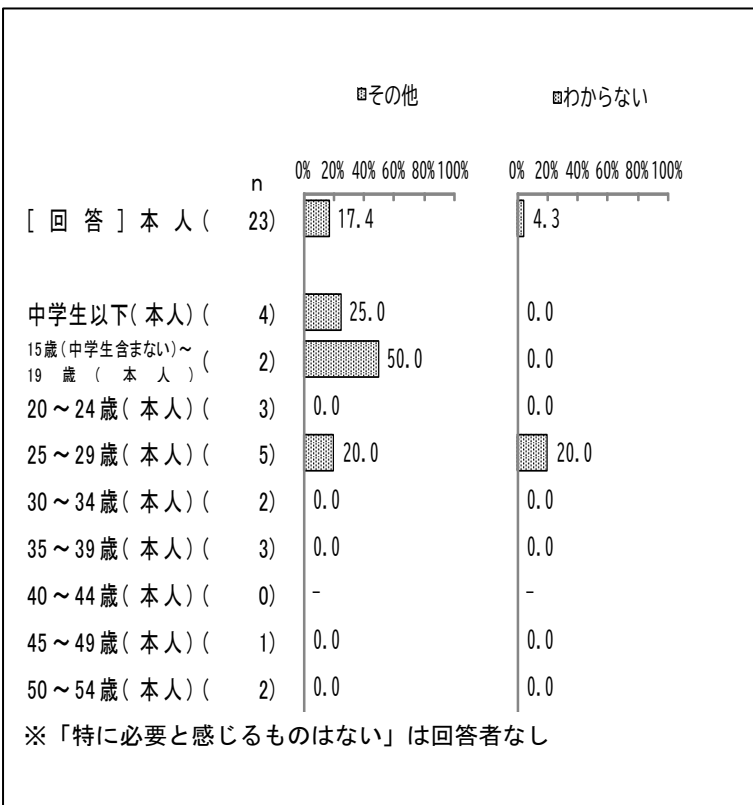
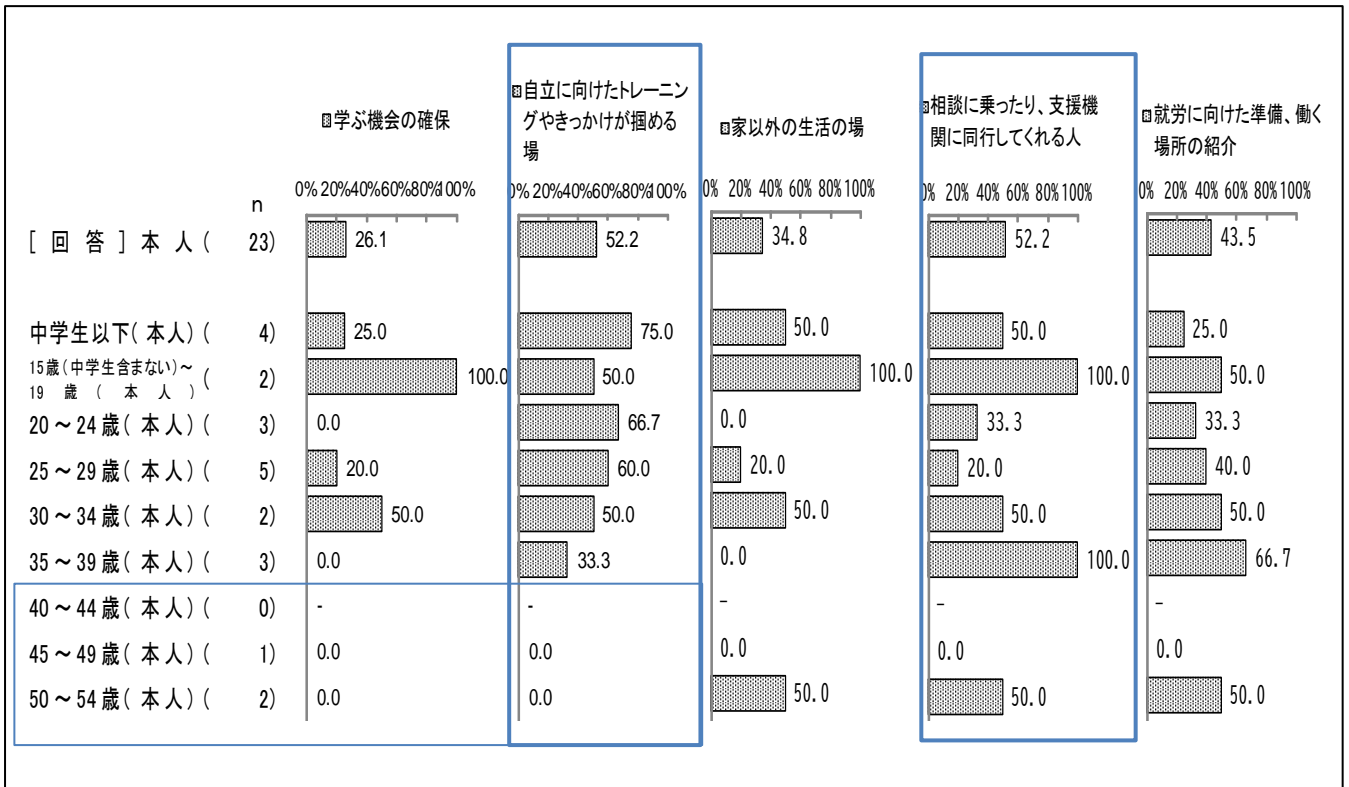


⑦ ひきこもりの状態を変えるために、必要・役立つと思うもの

⑦-1 「本人年齢（Q9）」×「状態を変えるために、必要・役立つと思うもの（Q20）」

・全体の割合が高い「家以外で安心・安全だと感じられる居場所」「就労（仕事探し）の悩みを相談できる相手」「相談に乗ったり、支援機関に同行してくれる人」は、年齢にかかわらず、必要・役立つものとしてあげられている一方、同じく全体の割合が高い「自立に向けたトレーニングやきっかけが掴める場」は40代以上の年齢層の回答はなかった。

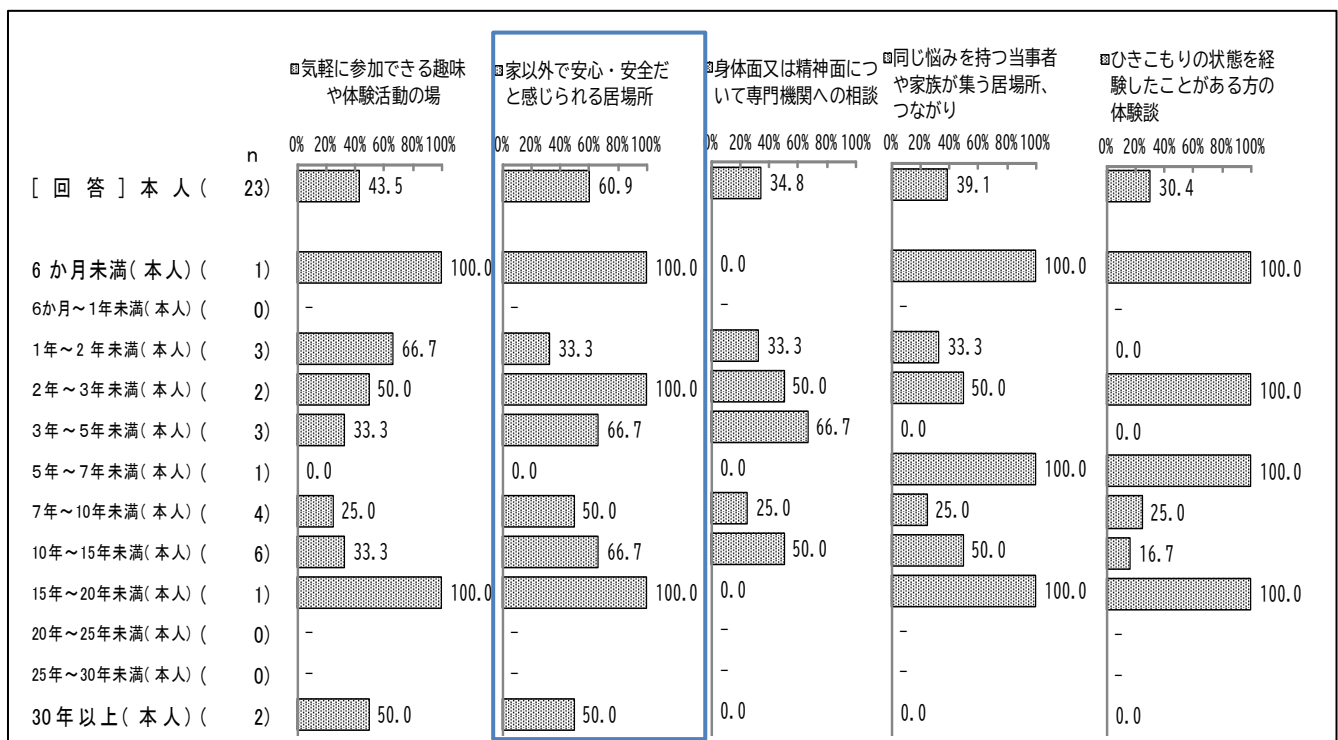
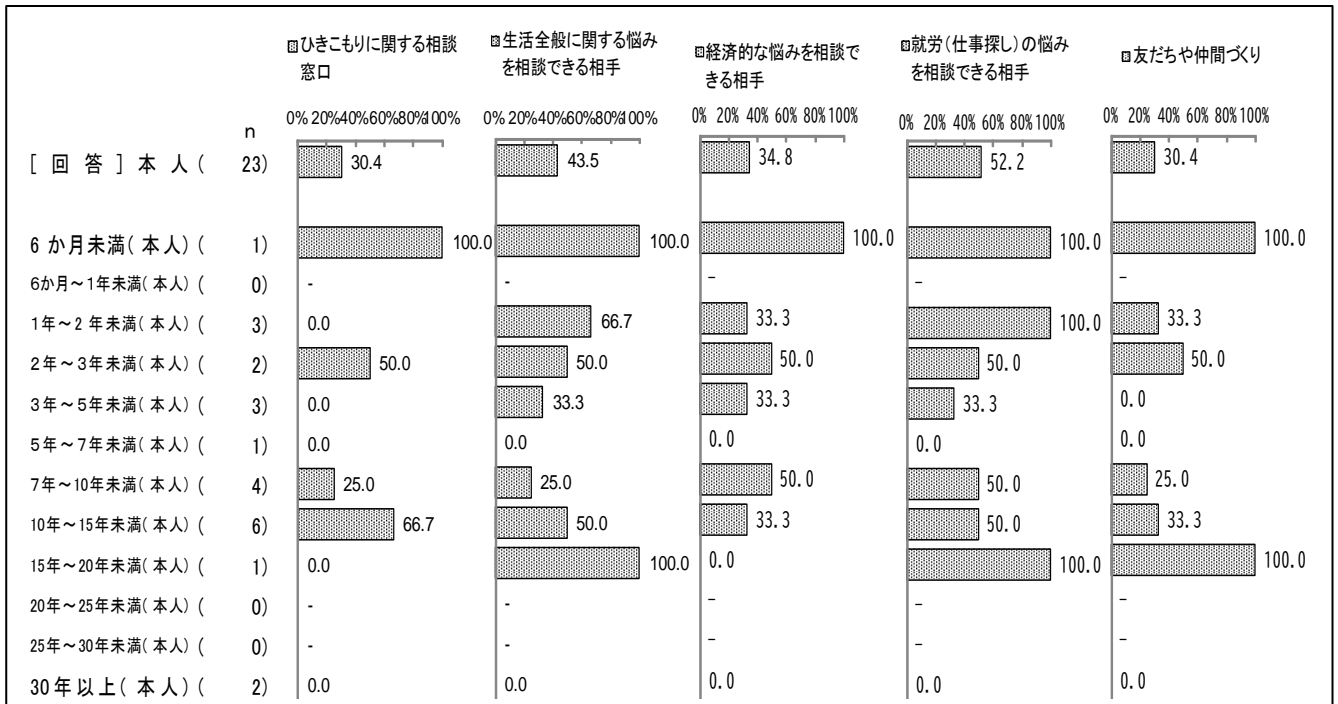


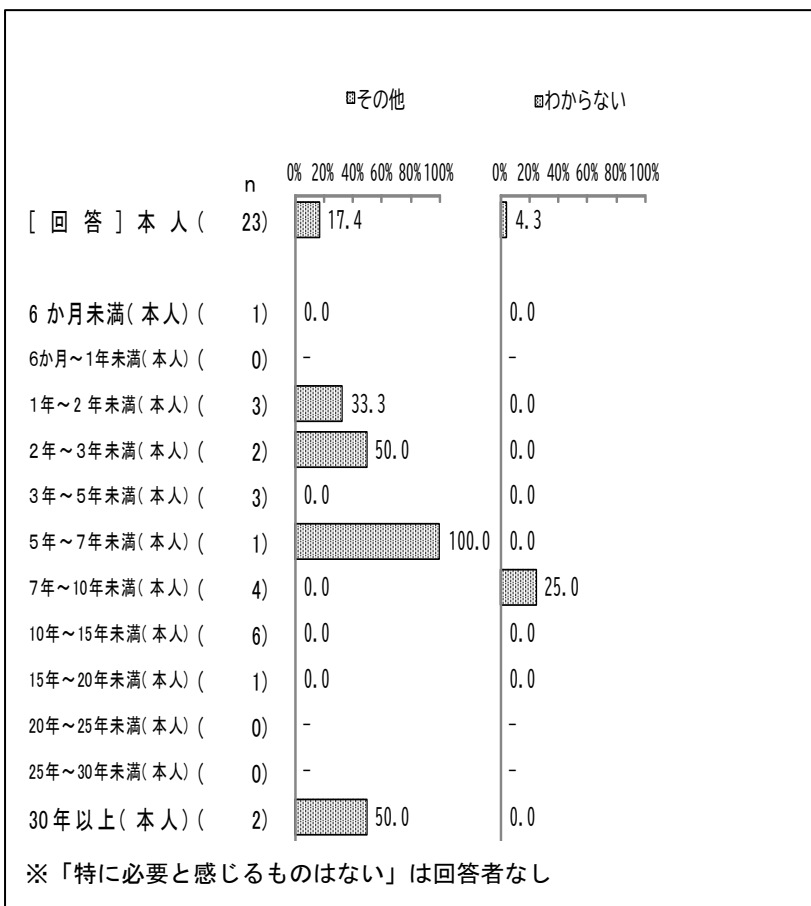
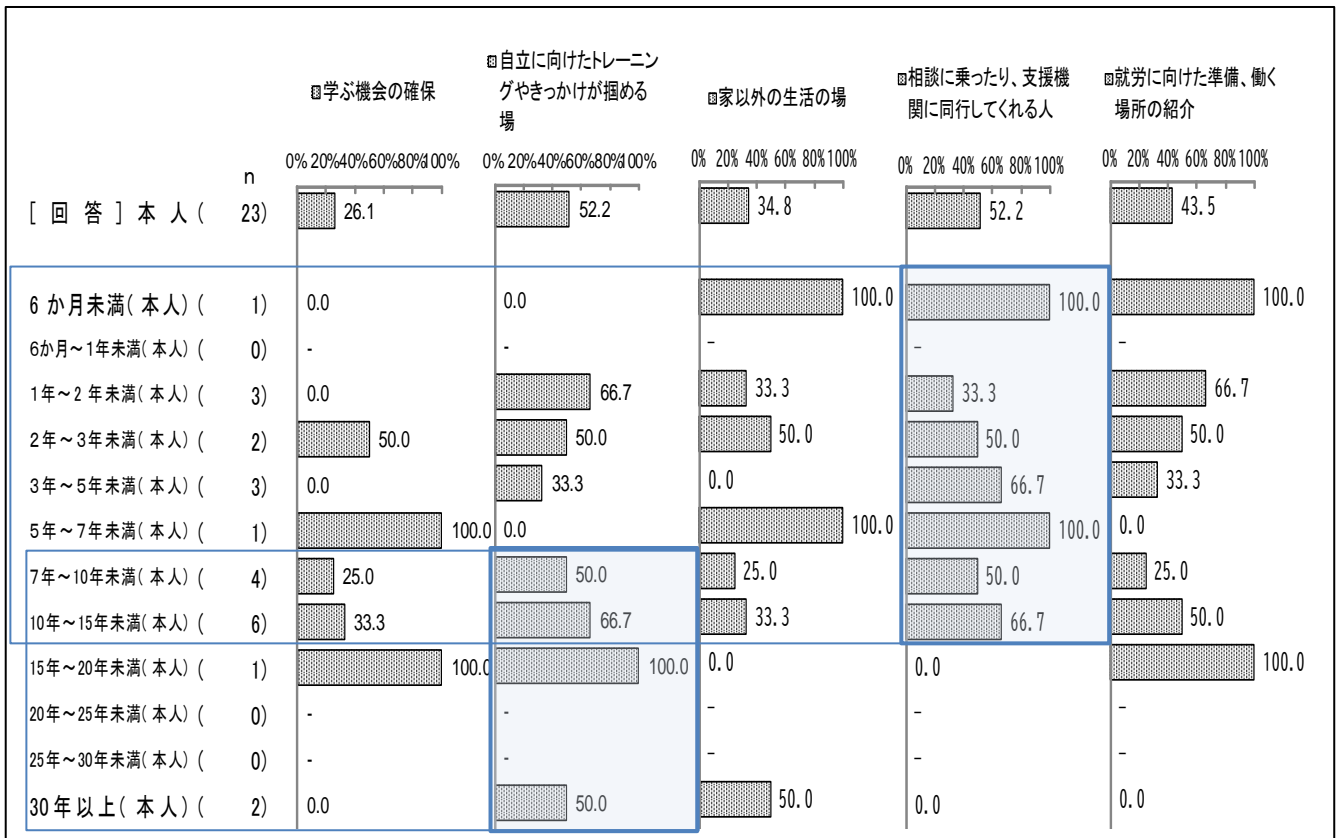


※ 年齢無回答1名を除いているため、本人年齢別の内訳の合計数は全体数（n=23）と一致しない。

⑦-2 「ひきこもりの状態になってからの期間（Q12）」×「状態を変えるために、必要・役立つと思うもの（Q20）」

- ・全体で最も割合が高い「家以外で安心・安全だと感じられる居場所」は、ひきこもりの期間での偏りはなく、必要・役立つものとしてあげられている。
- ・ひきこもりの期間別にみると、「相談に乗ったり、支援機関に同行してくれる人」は15年未満が、「自立に向けたトレーニングやきっかけが掴める場」は7年以上が、多くあげている傾向にある。





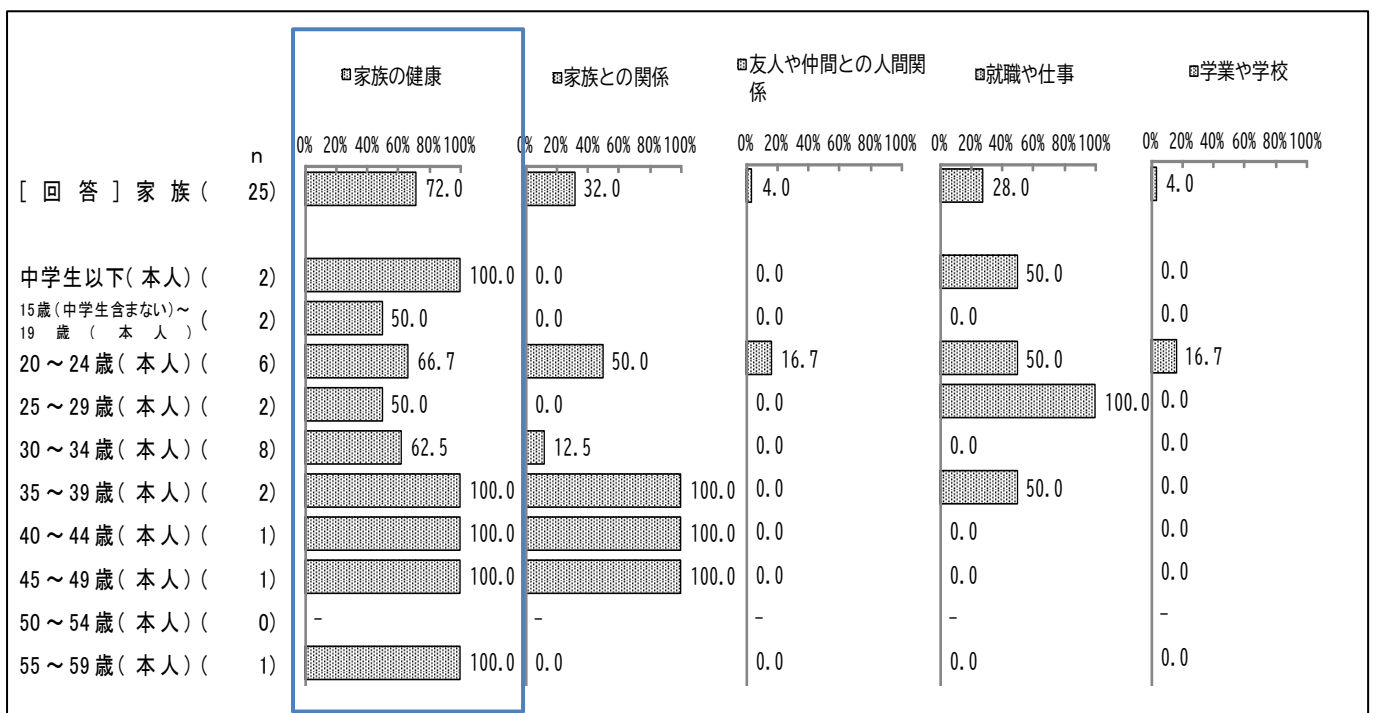
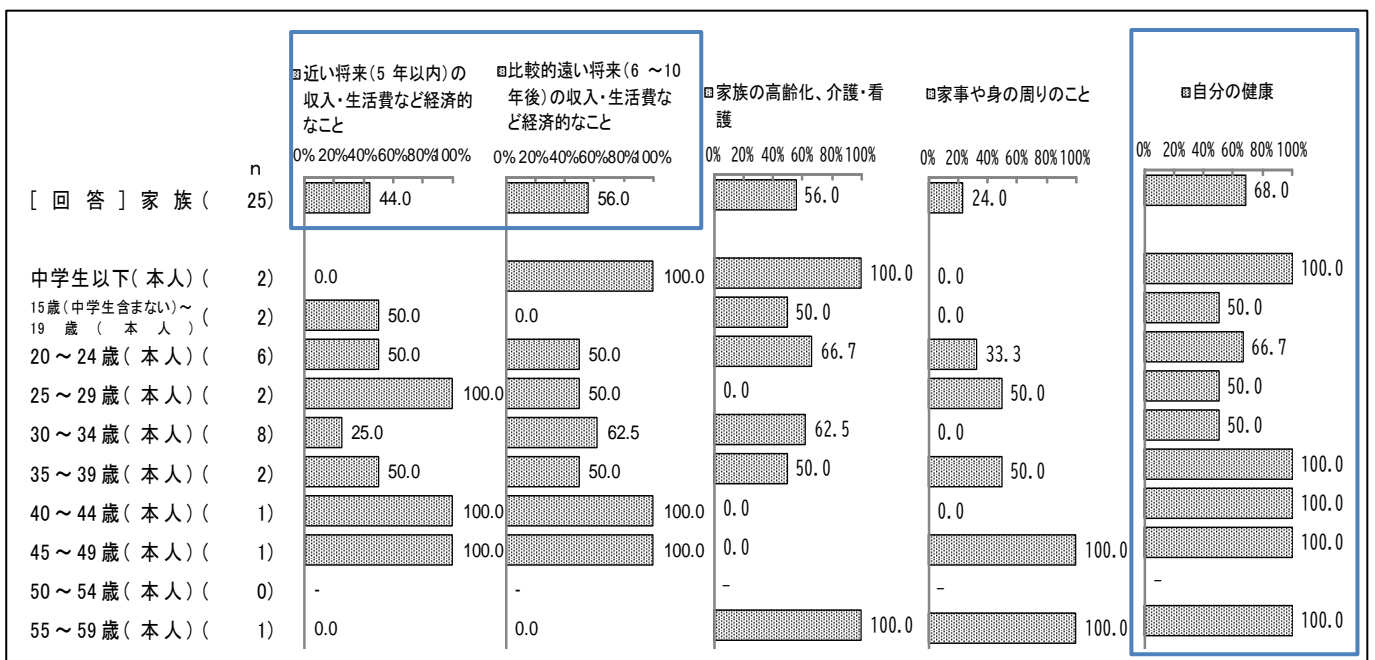
（3）ひきこもりの状態にある（過去にひきこもりの状態であった）方の家族の回答

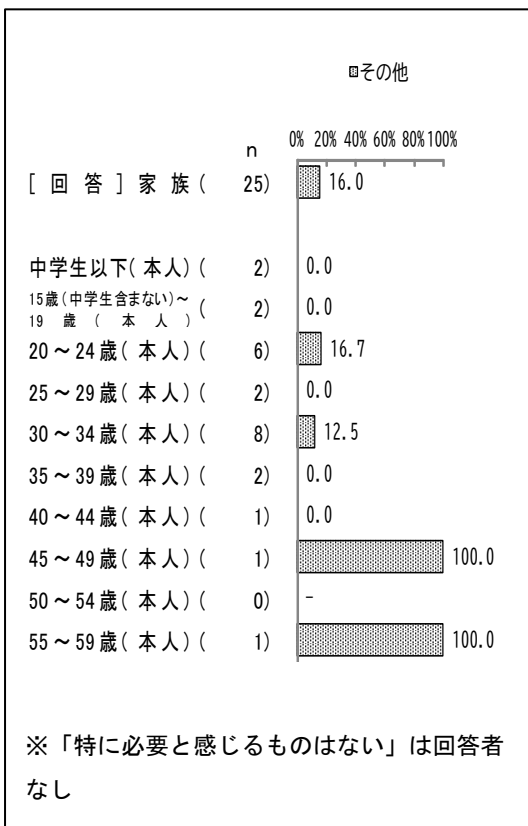
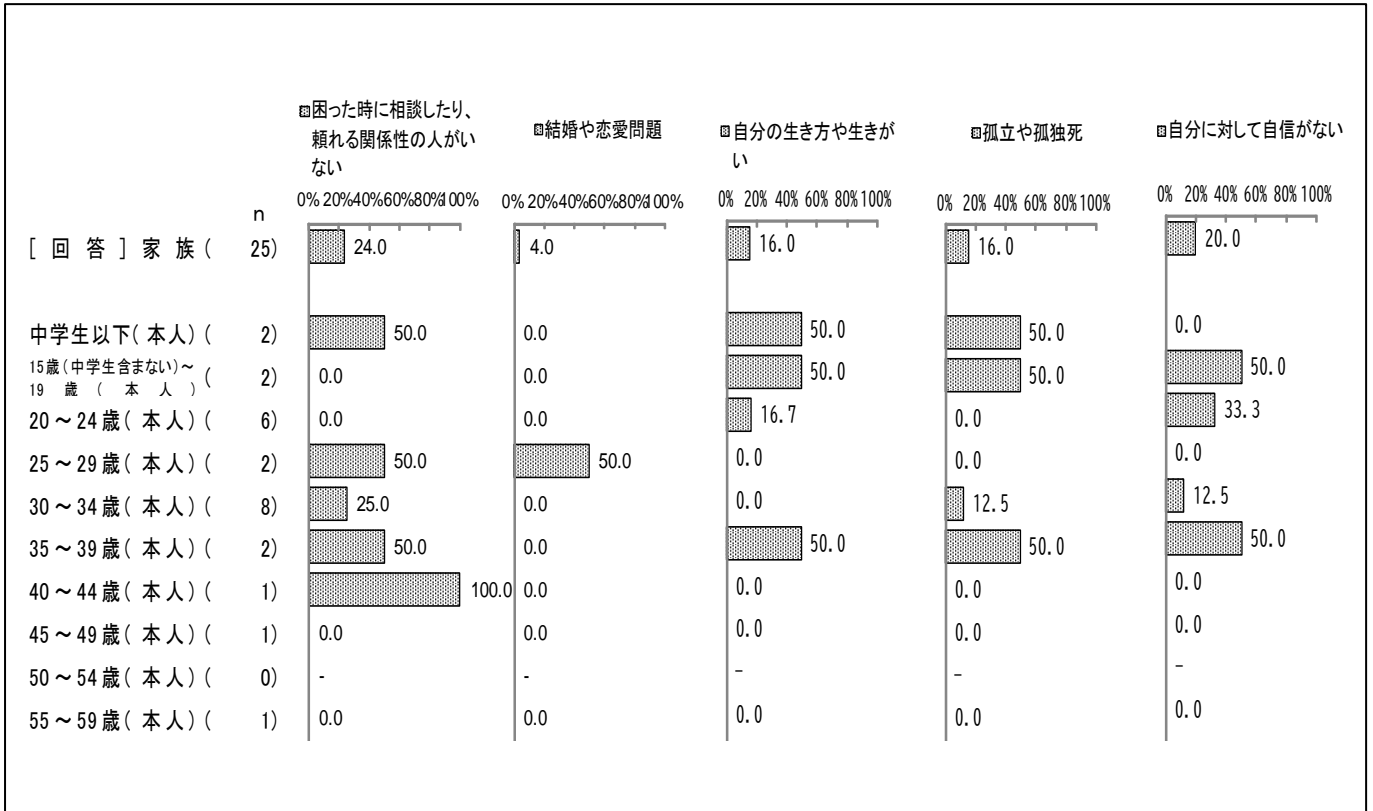
家族等（ひきこもりの状態にある本人以外）の回答のみを抜粋し、家族からの視点で考察する。

① 感じている不安や危機感

①-1 「本人年齢（Q9）」×「家族が感じている不安や危機感（Q5）」

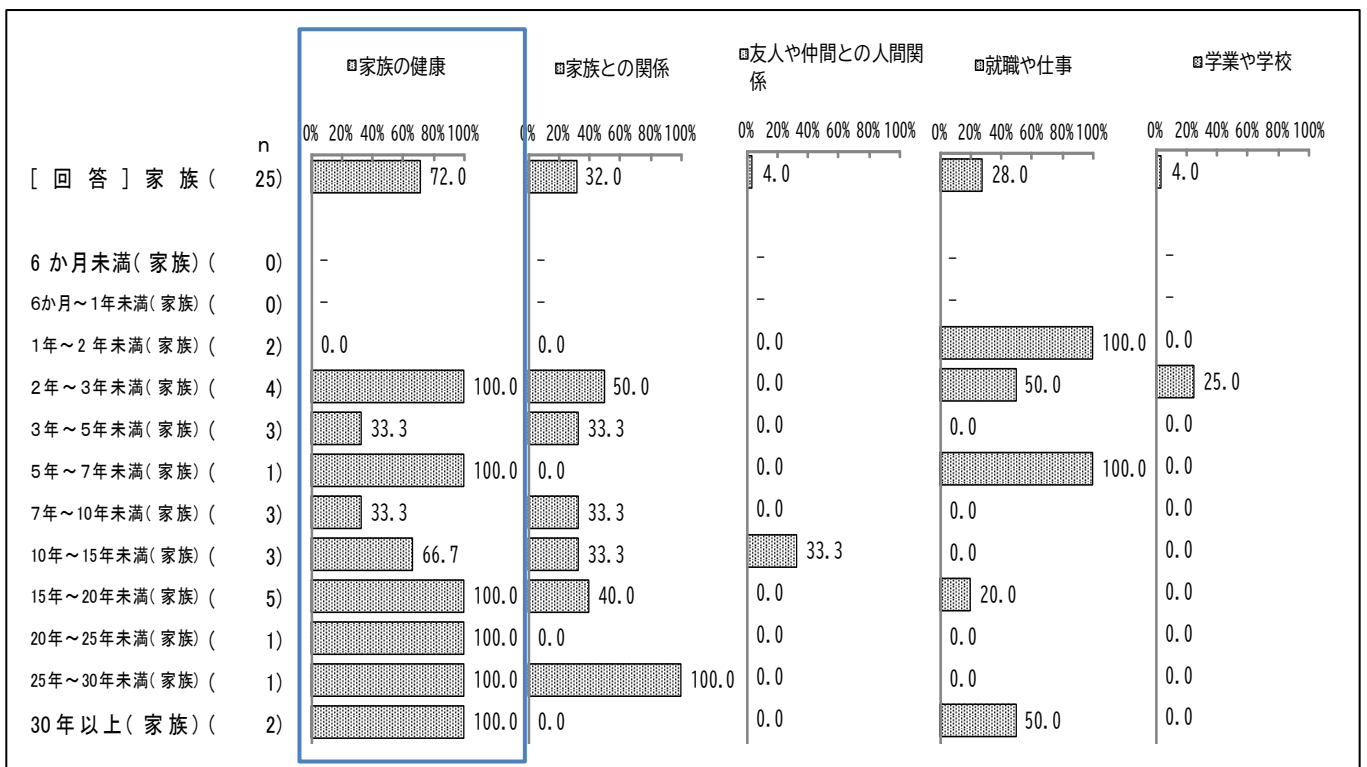
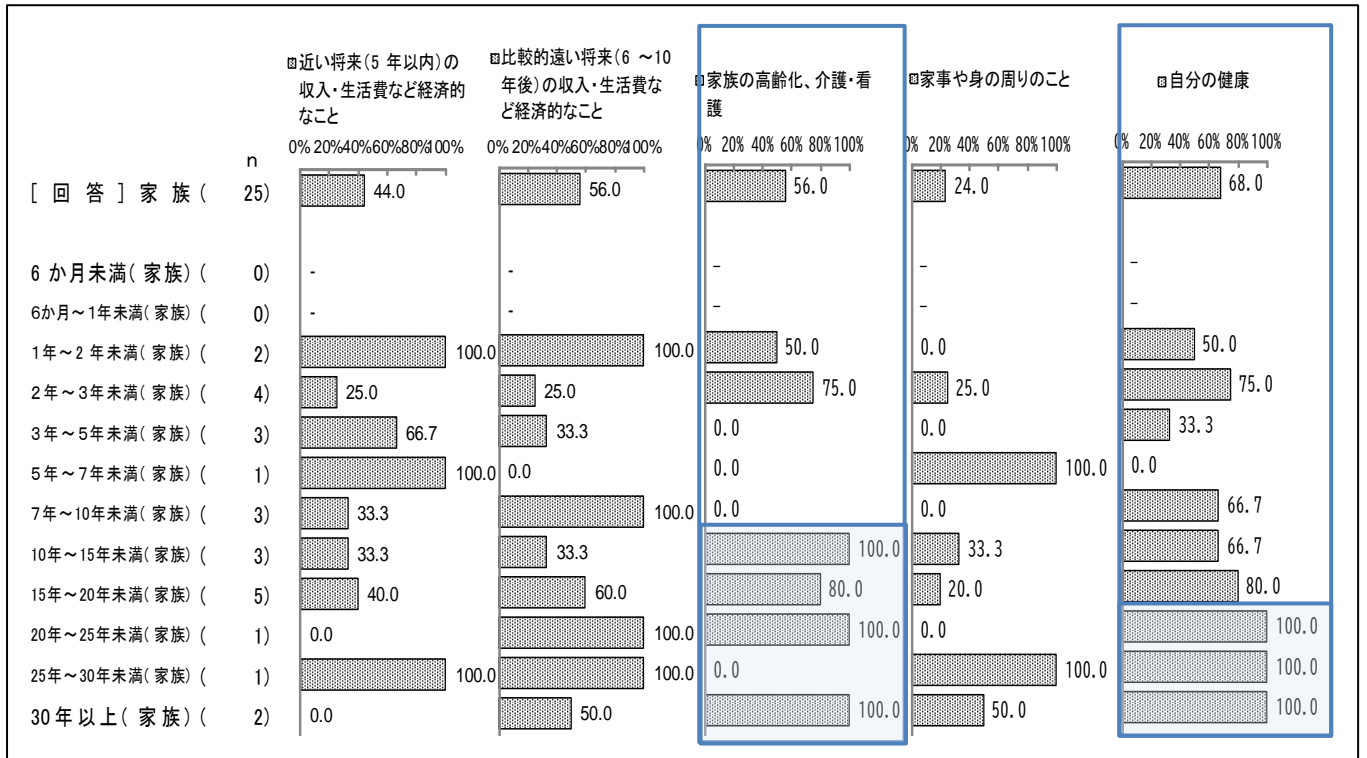
- ・ひきこもりの状態にある本人年齢にかかわらず、「家族の健康」次いで、「自分の健康」に対する不安・危機感をあげる割合が高く、家族の健康をより強く心配している傾向がみてとれる。
- ・「収入・生活費など経済的なこと」については、「近い将来（5年以内）」より「比較的遠い将来（6～10年後）」の割合が高く、先が見えにくい遠い将来に対する不安が強くなっている。

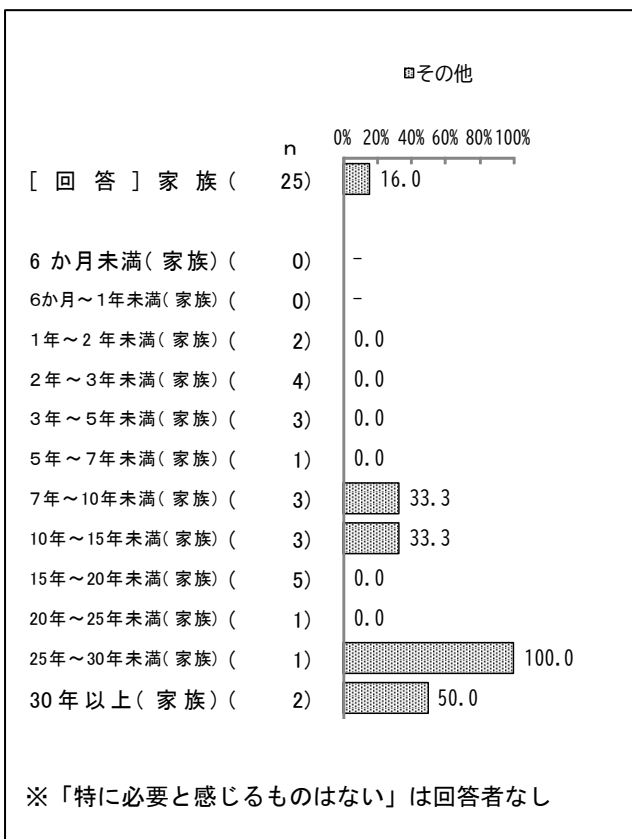
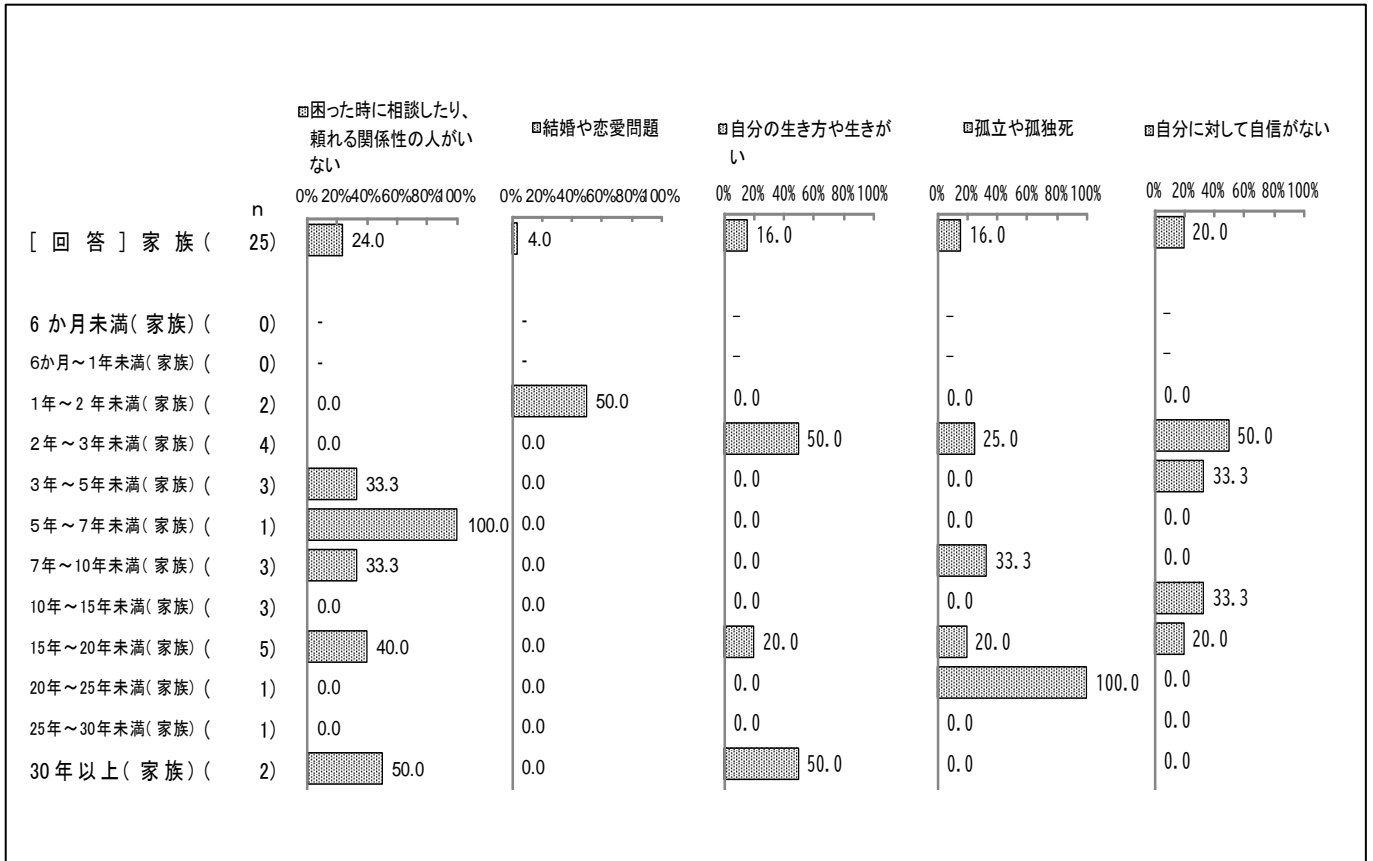




①-2 「ひきこもりの状態になってからの期間（Q12）」×「家族が感じている不安や危機感（Q5）」

・「家族の高齢化、介護・看護」と「自分の健康」は、ひきこもりの期間が長くなるほど、割合が高くなり、不安・危機感を感じている傾向がみられる一方で、「家族の健康」はひきこもりの期間にかかわらず、不安・危機感を感じている。

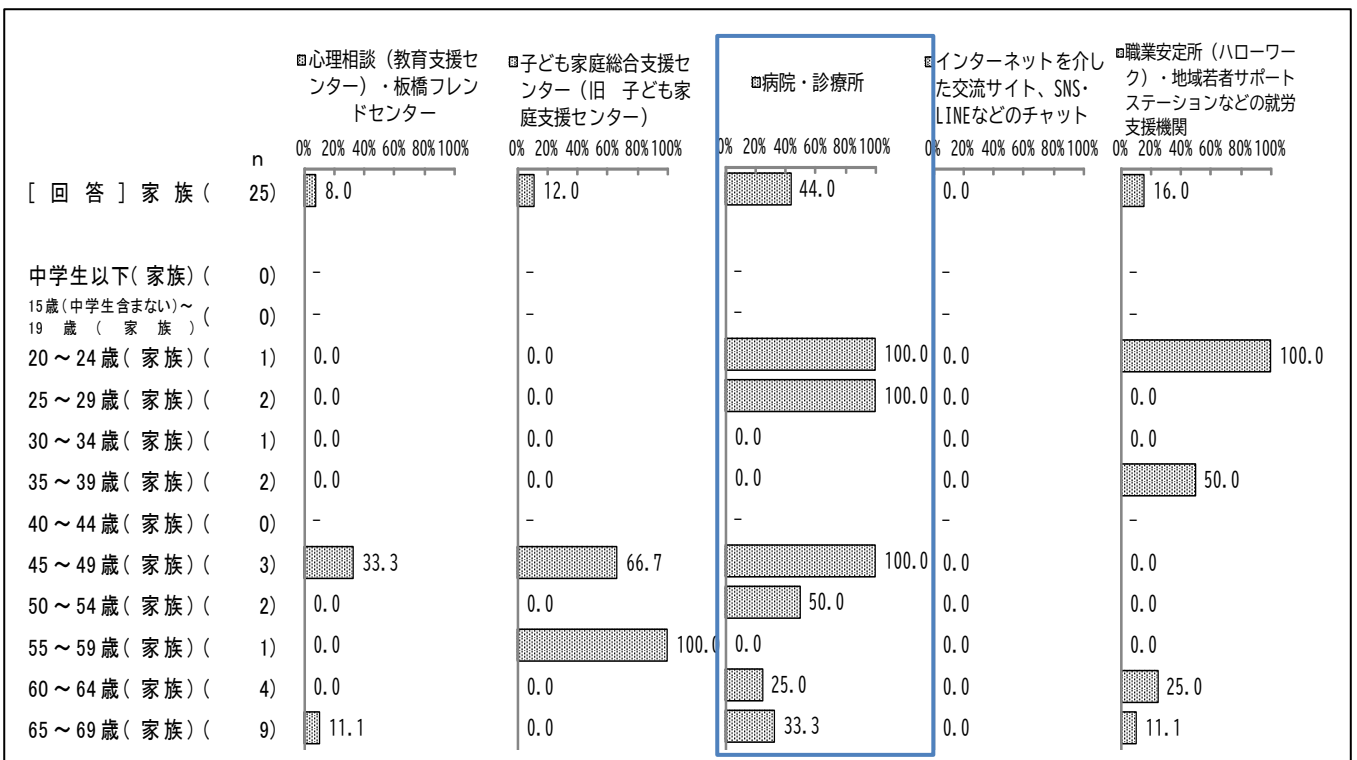
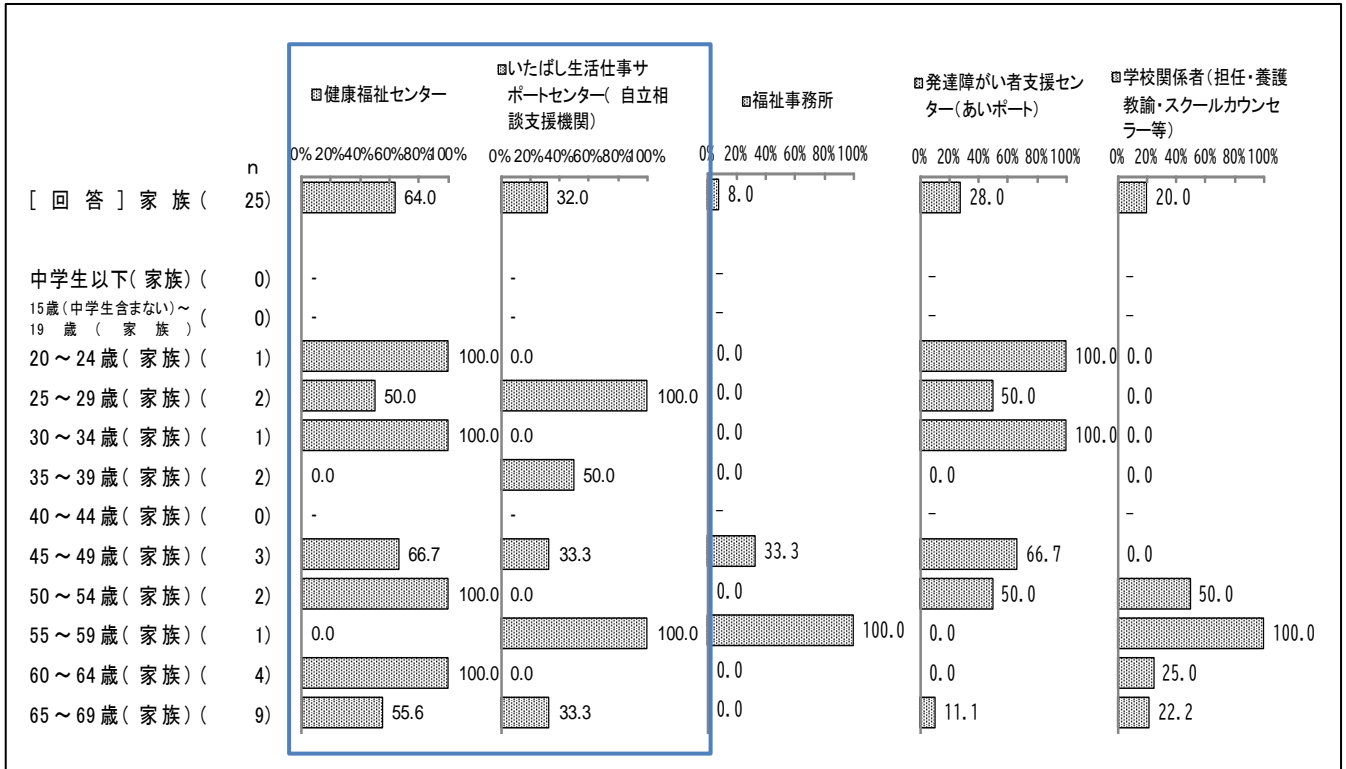


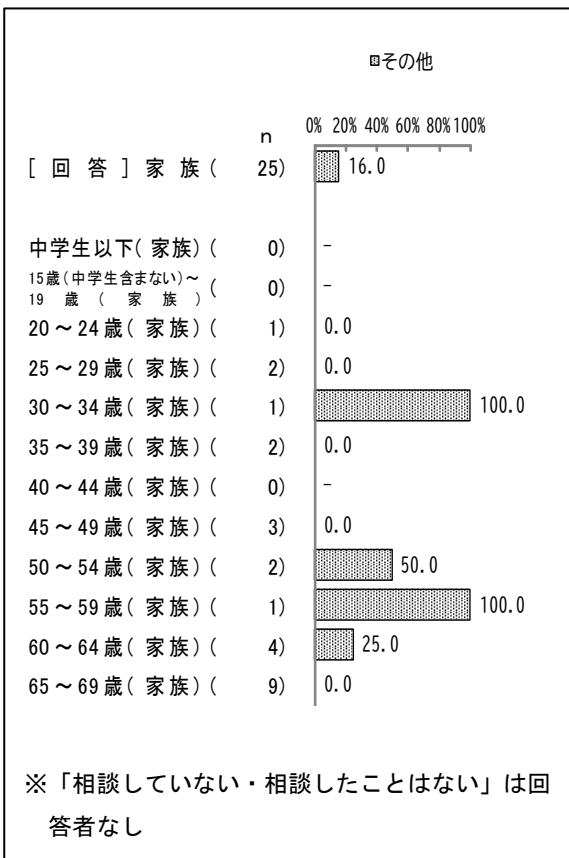
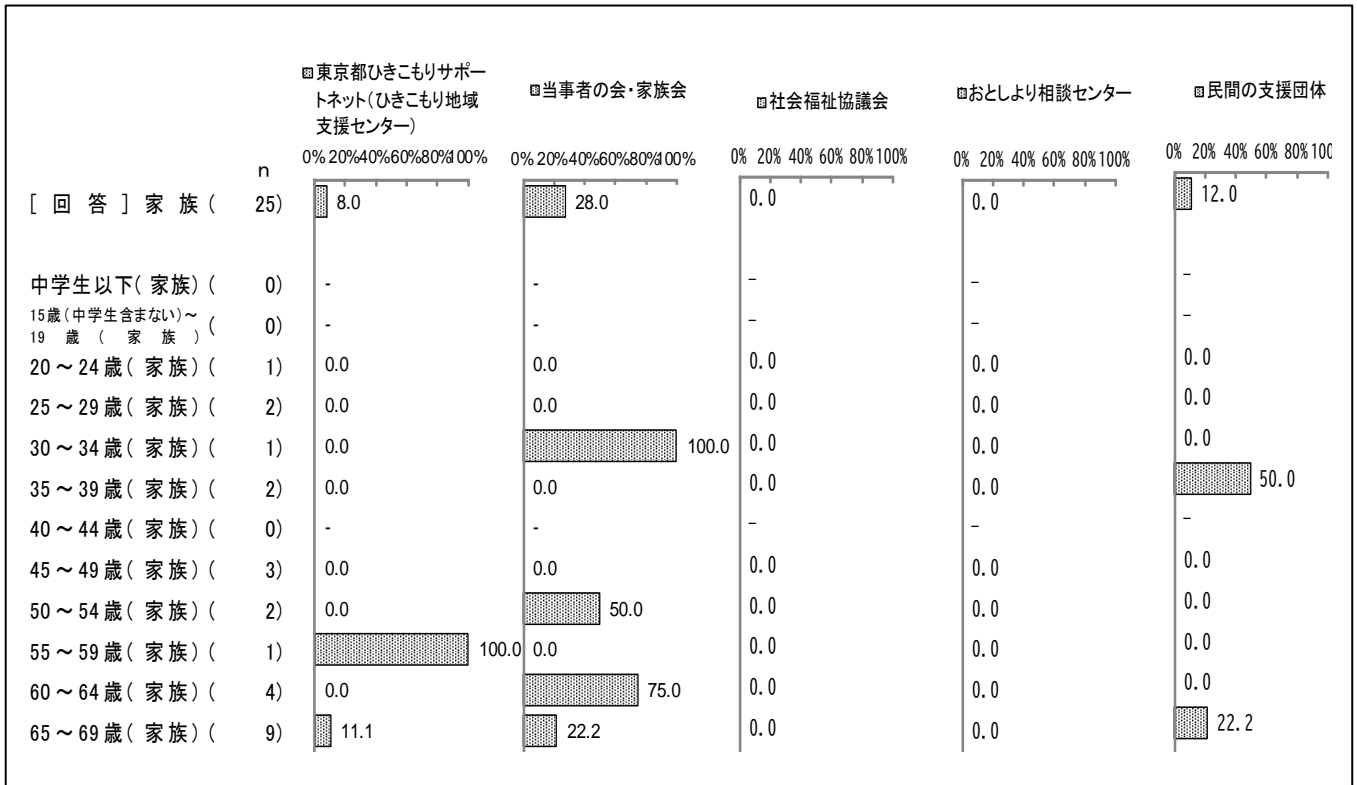


② 相談した機関

②-1 「家族年齢（Q2）」×「相談した機関（Q15）」

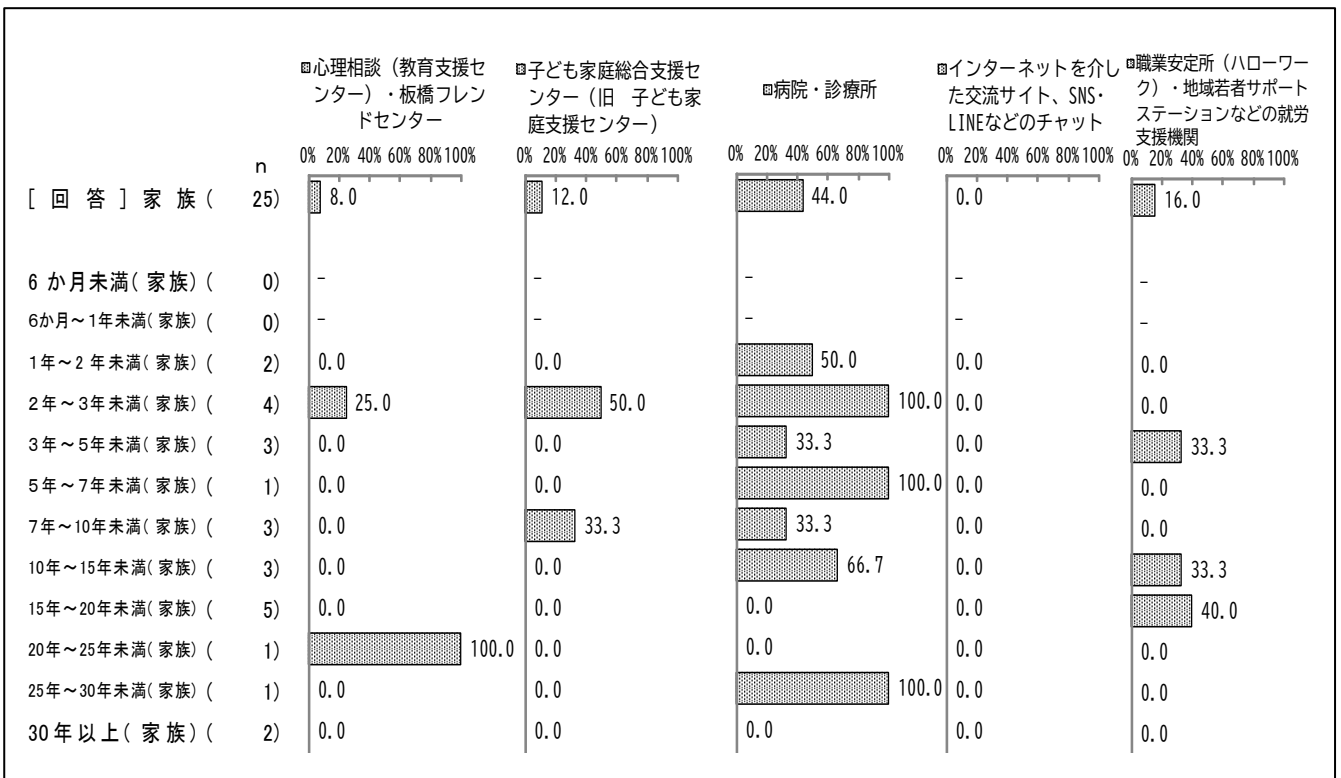
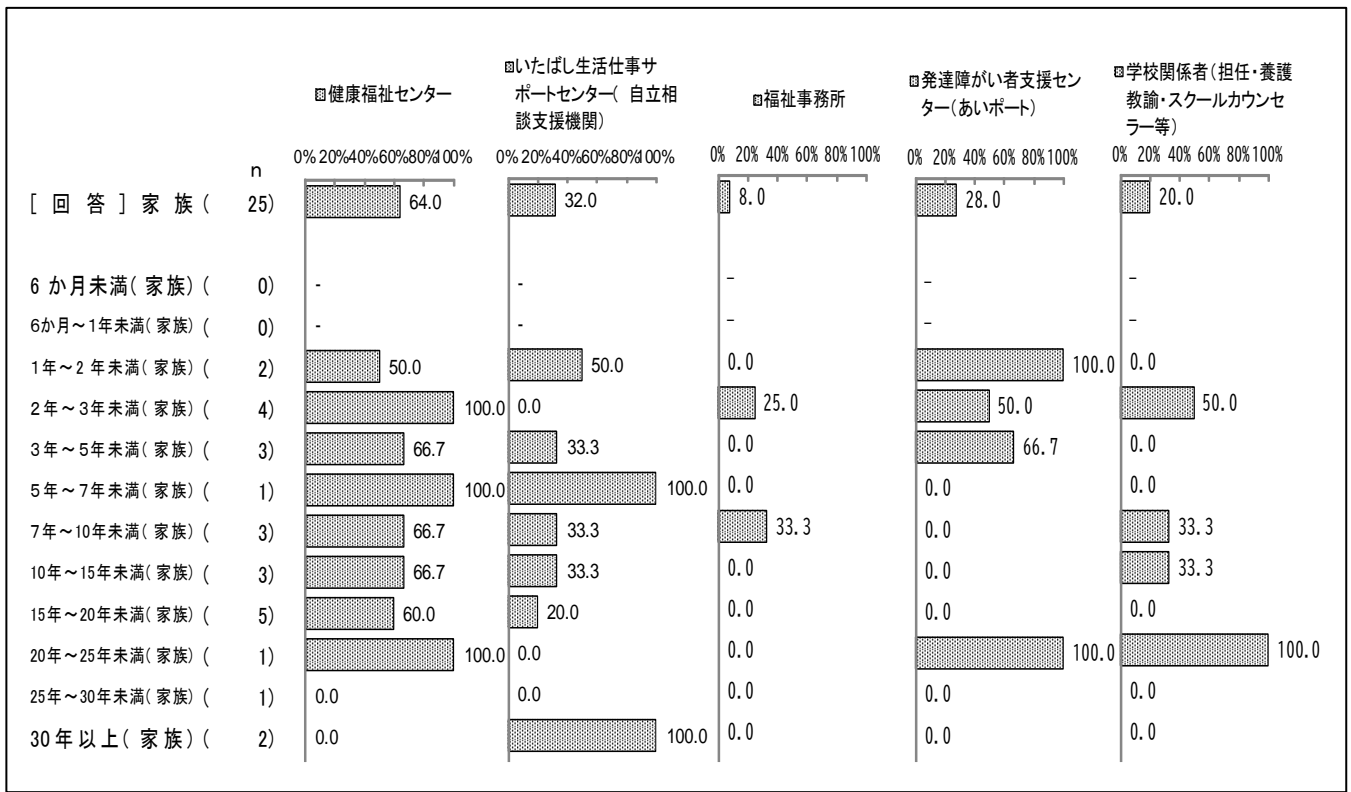
・全体では「健康福祉センター」、「病院・診療所」、「いたばし生活仕事サポートセンター（自立相談支援機関）」の順で割合が高くなっており、家族年齢別における大きな差異はみられなかった。

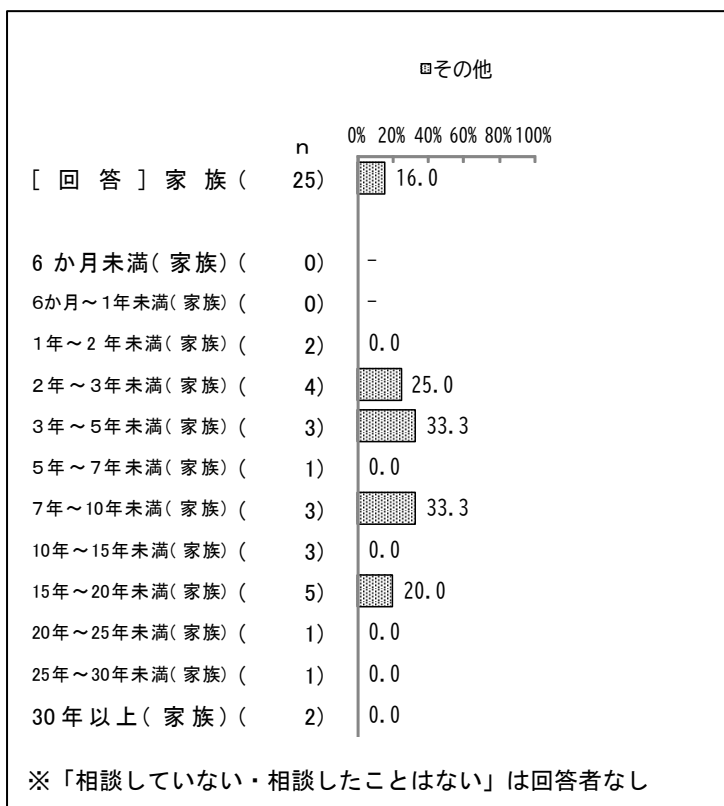
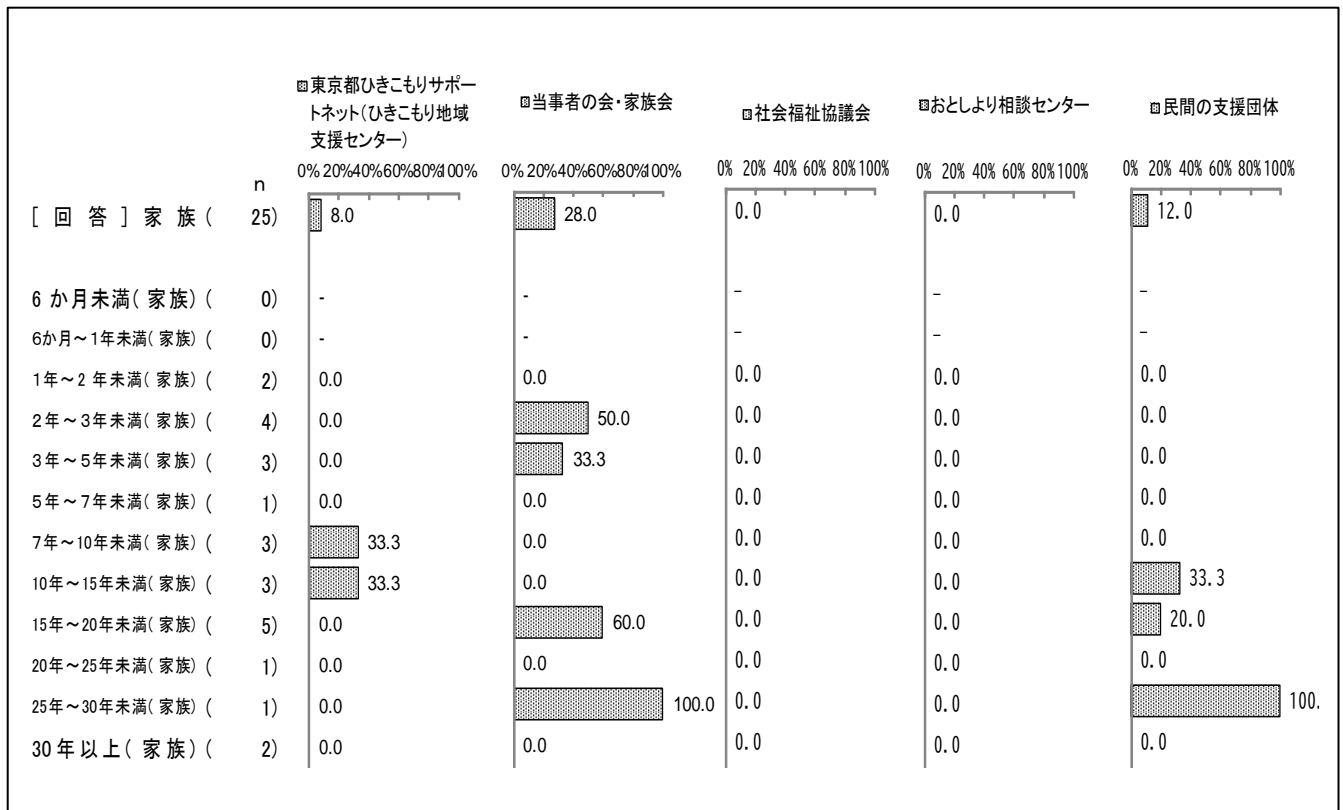




②-2 「ひきこもりの状態になってからの期間（Q12）」×「相談した機関（Q15）」

・ひきこもりの期間別において、大きな差異は見られなかった。



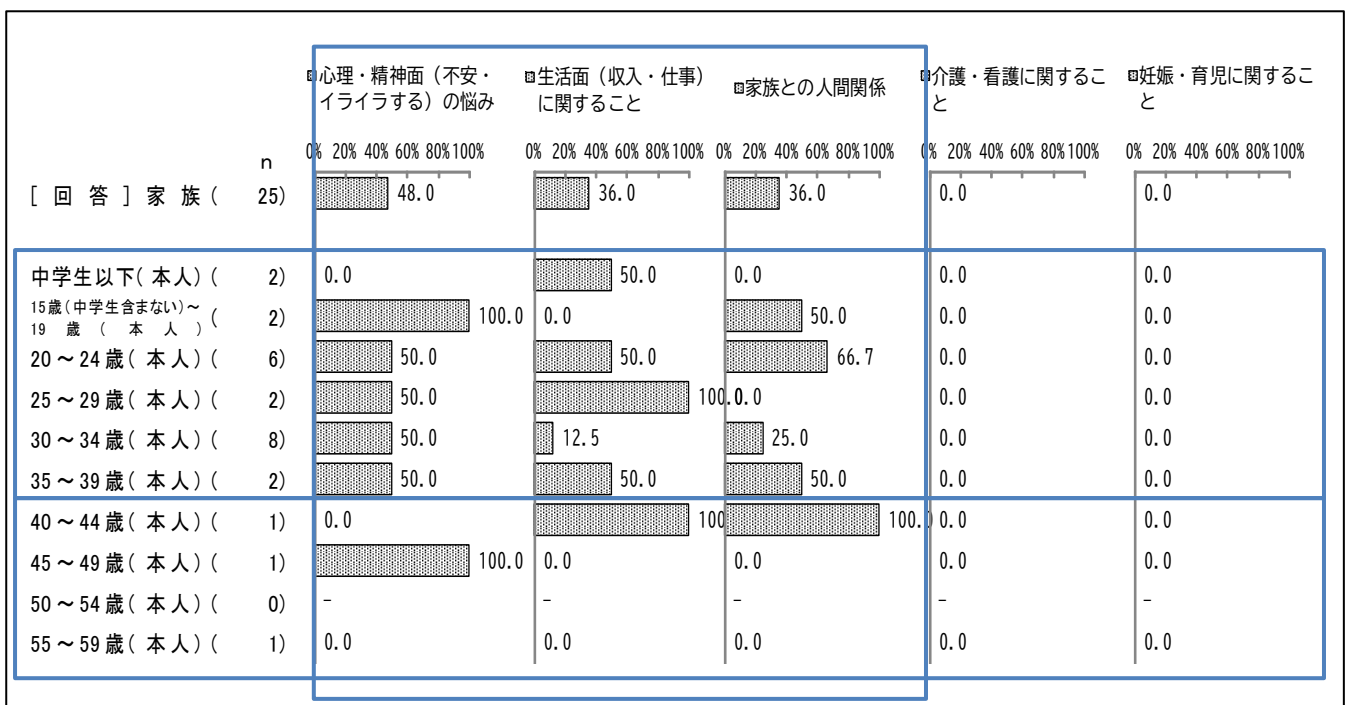
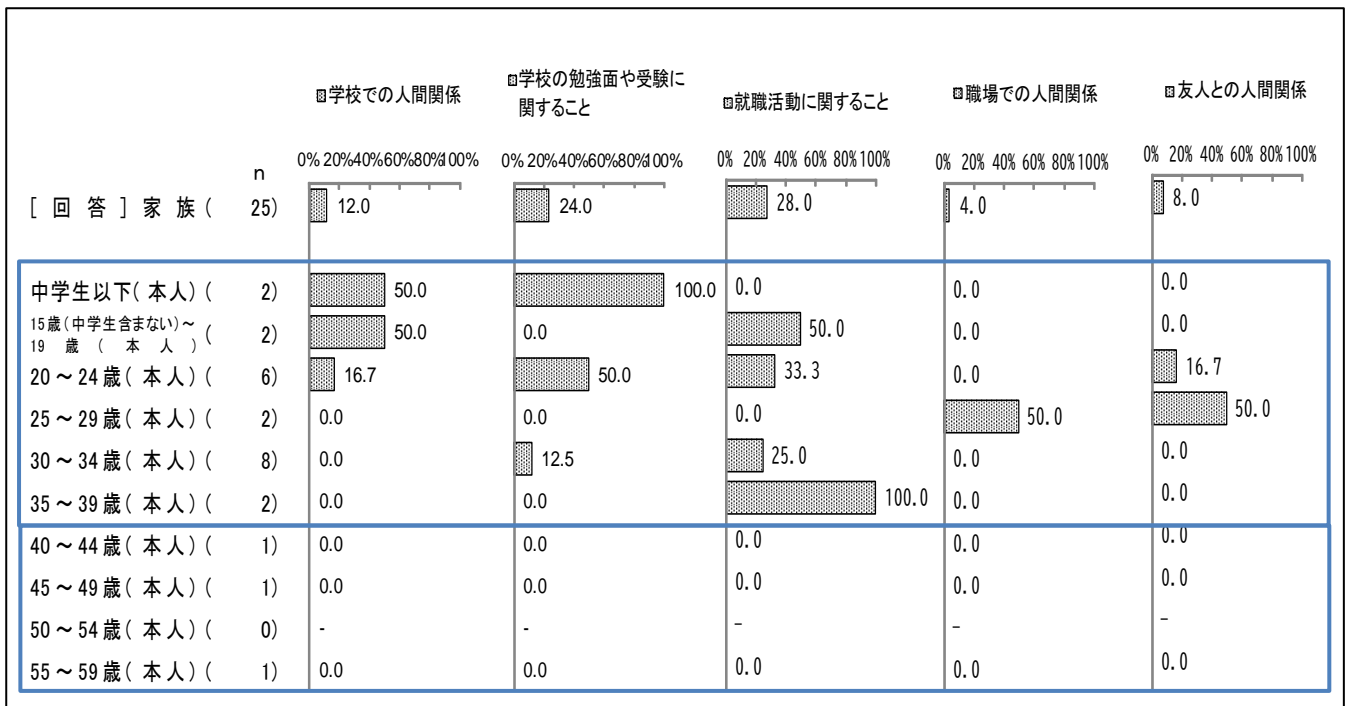


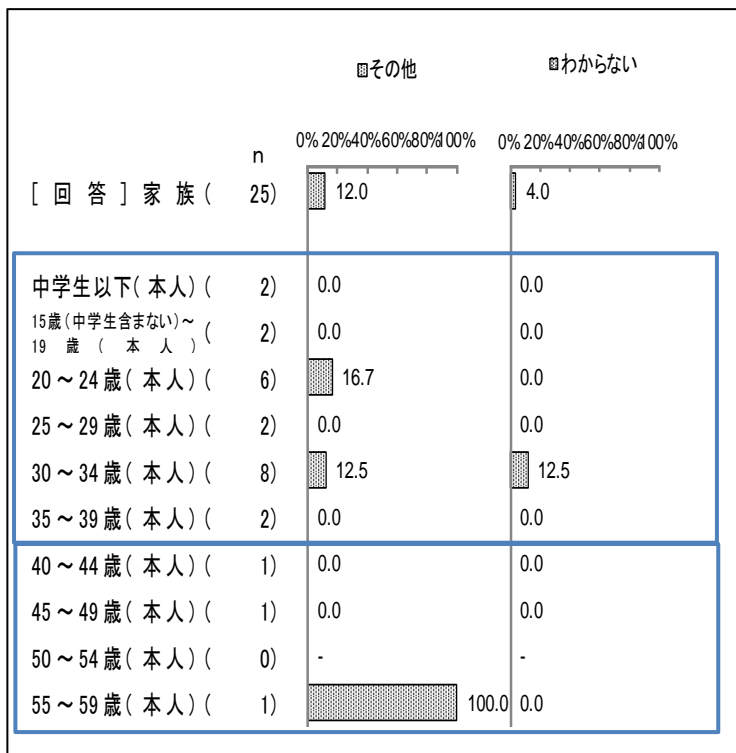
③ 相談した内容

③-1 「本人年齢 (Q9)」 × 「相談した内容 (Q16)」

・全体では「心理・精神面（不安・イライラする）の悩み」の割合が最も高く、次いで「生活面（収入・仕事）に関すること」「家族との人間関係」があげられており、ひきこもりの状態にある本人との関係についても、相談していることが推察される。

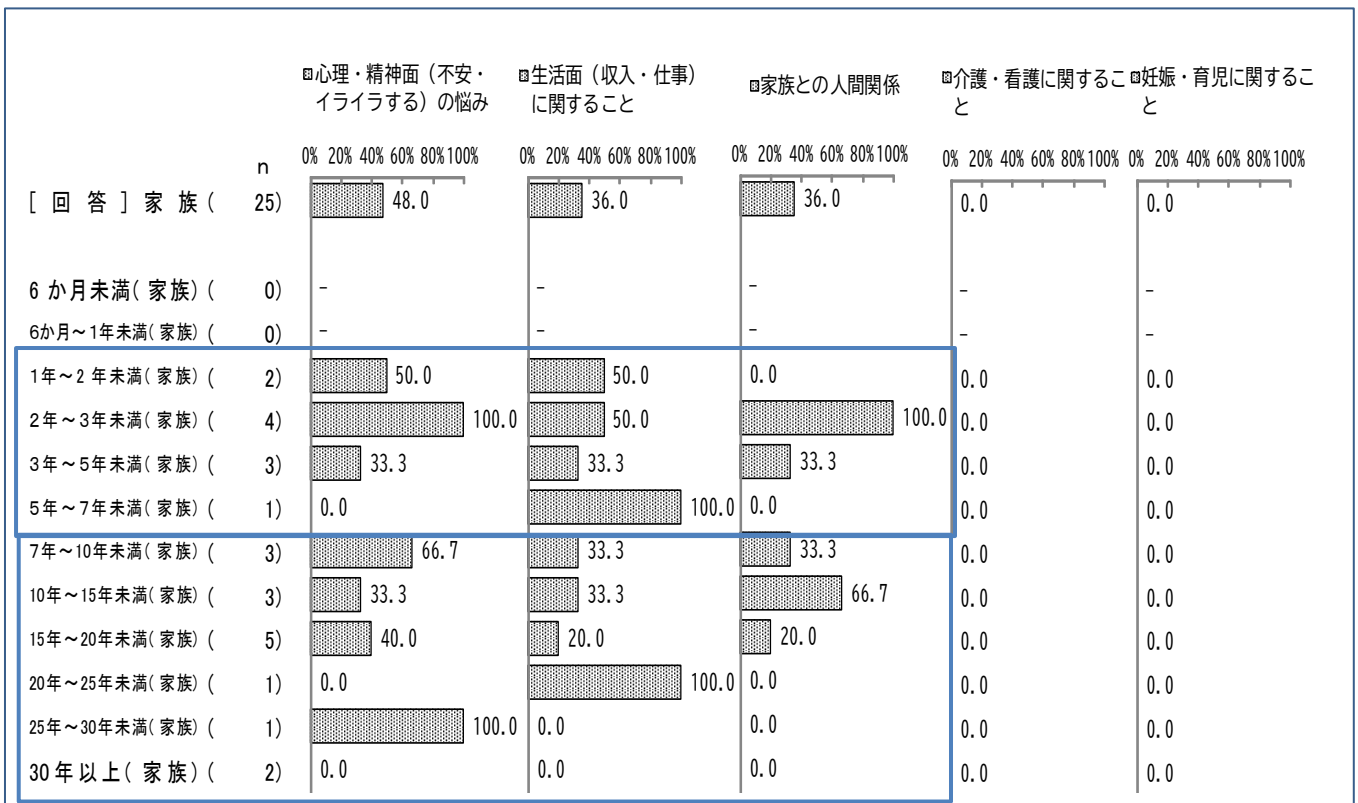
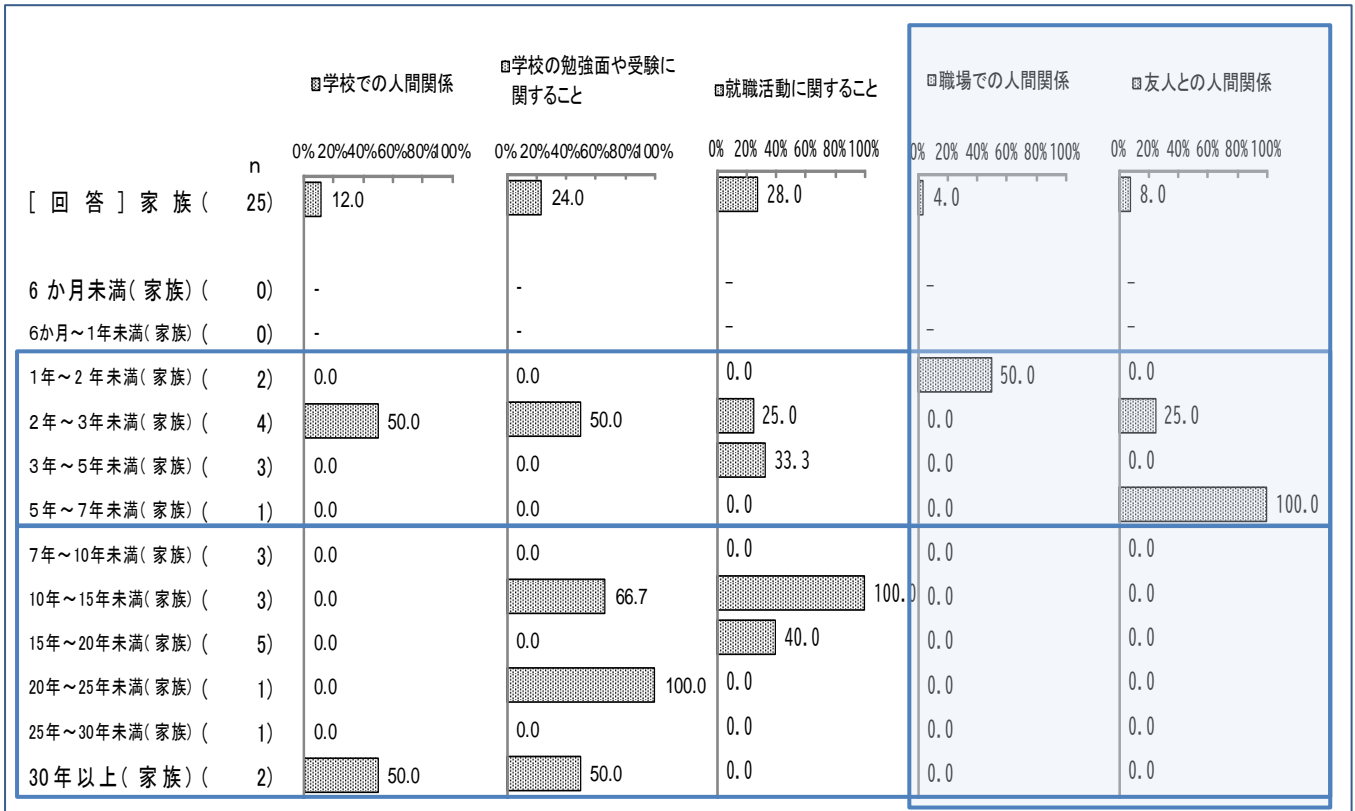
・本人年齢が39歳以下は、相談内容が学校や友人との関係・就業など多岐にわたっているが、40歳以上は「心理・精神面（不安・イライラする）の悩み」「生活面（収入・仕事）に関すること」「家族との人間関係」に絞られている。

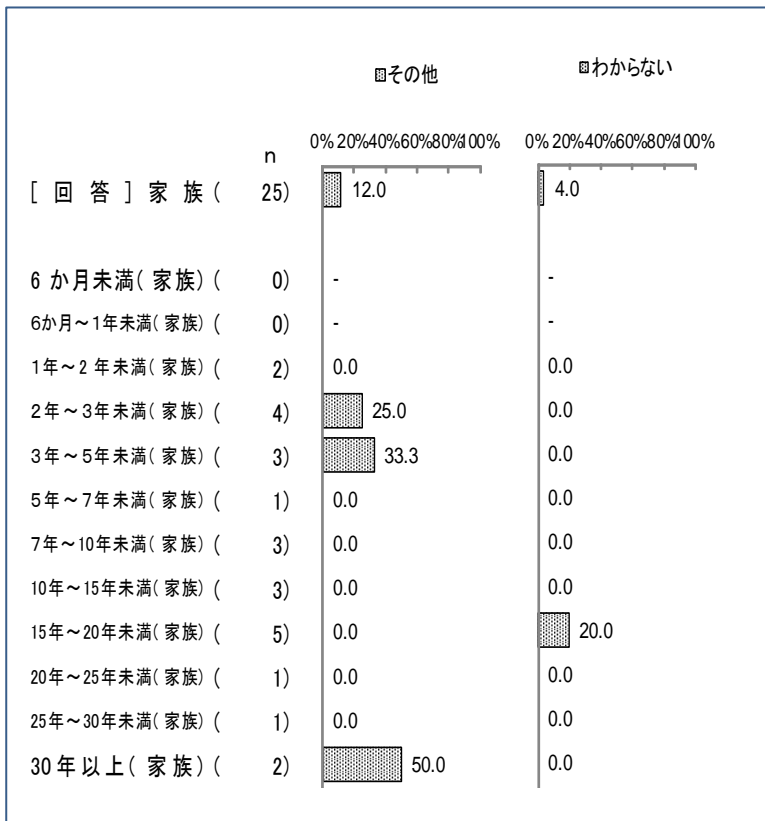




③-2 「ひきこもりの状態になってからの期間（Q12）」×「相談した内容（Q16）」

・ひきこもりの期間「7年未満」と「7年以上」で区切ると、「7年以上」では、職場又は友人との人間関係に関する相談がなくなっている。

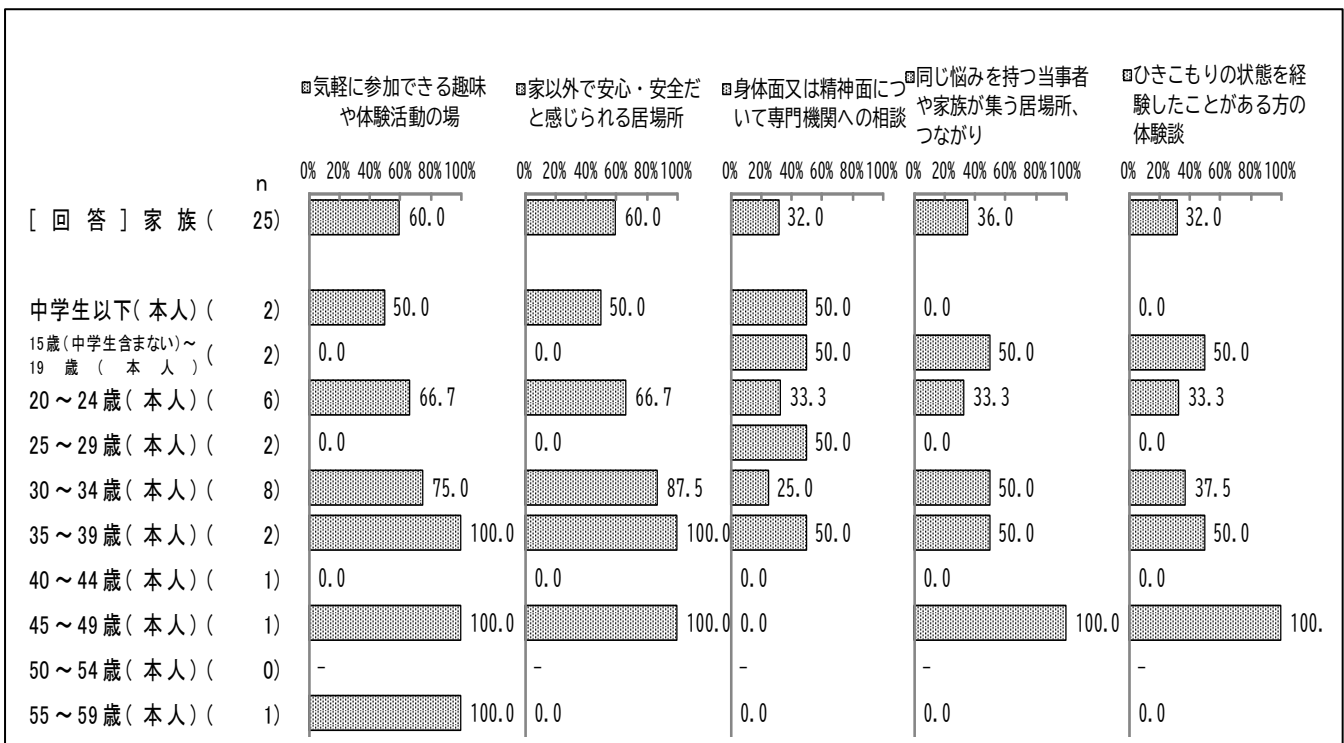
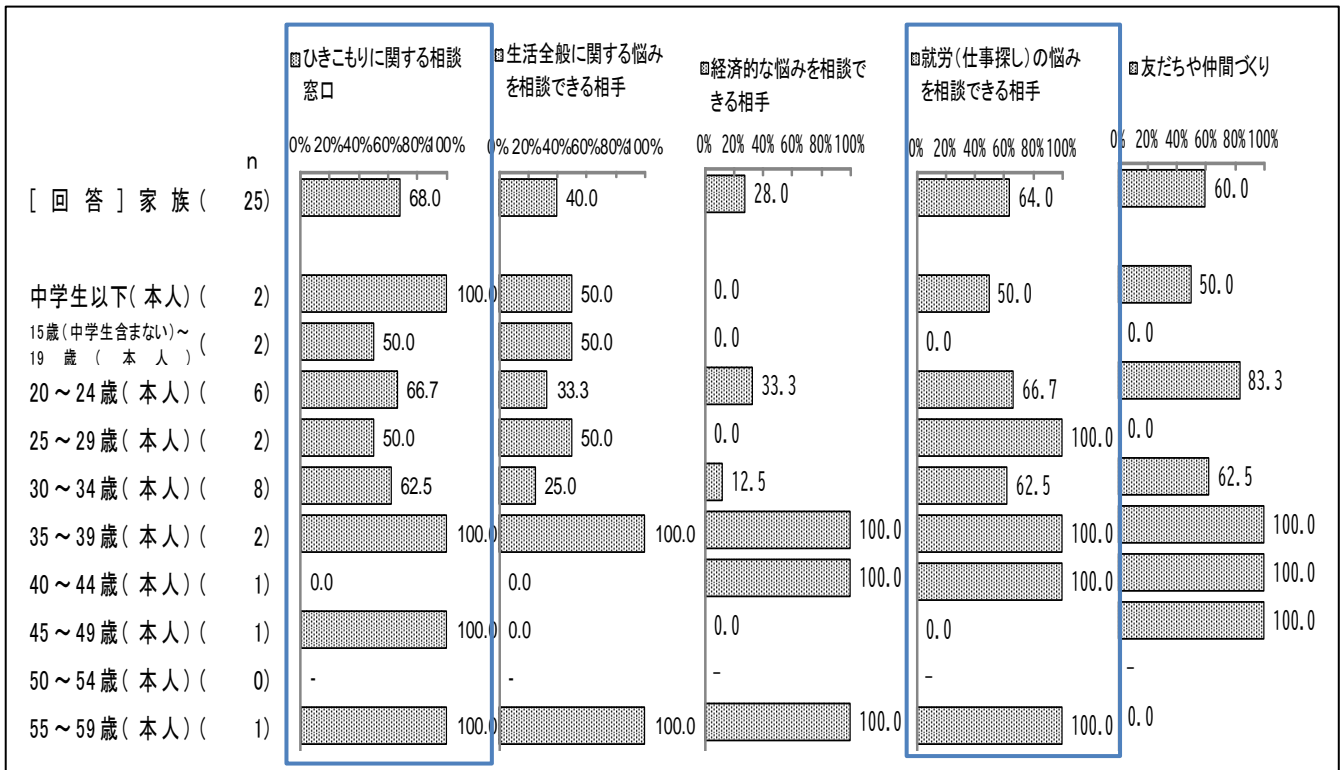


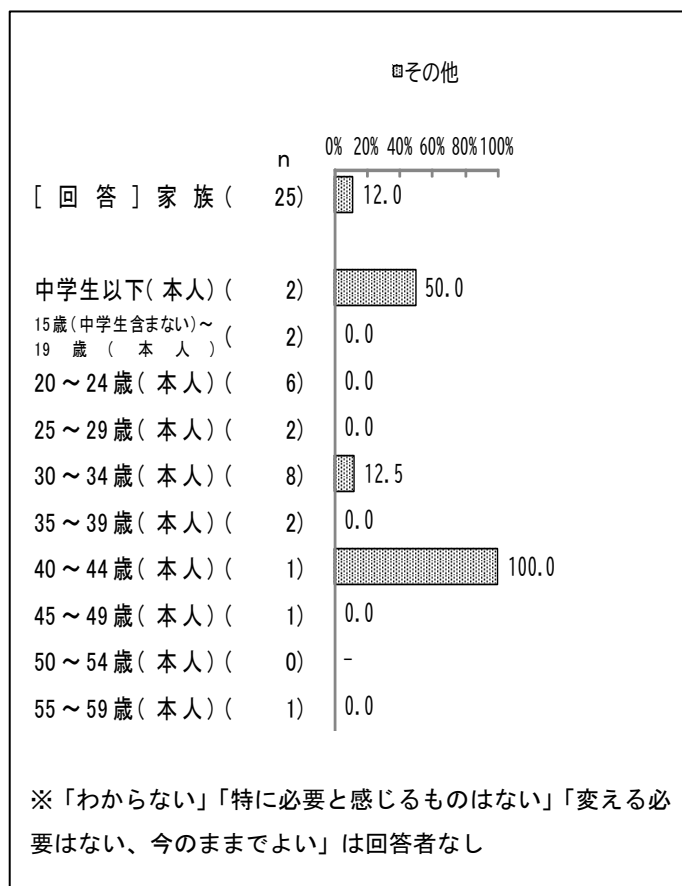
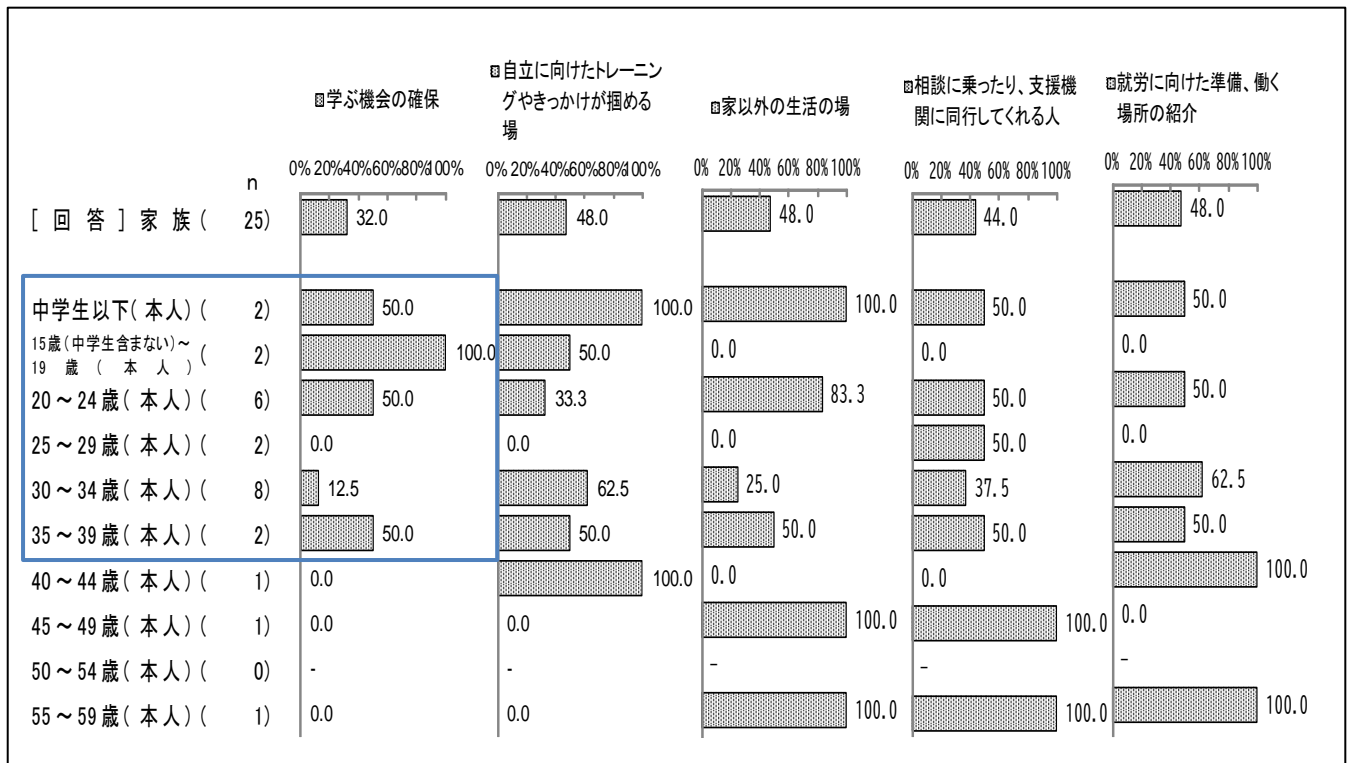


④ ひきこもりの状態を変えるために、本人に必要・役立つと思うもの

④-1 「本人年齢（Q9）」×「状態を変えるために、必要・役立つと思うもの（Q20）」

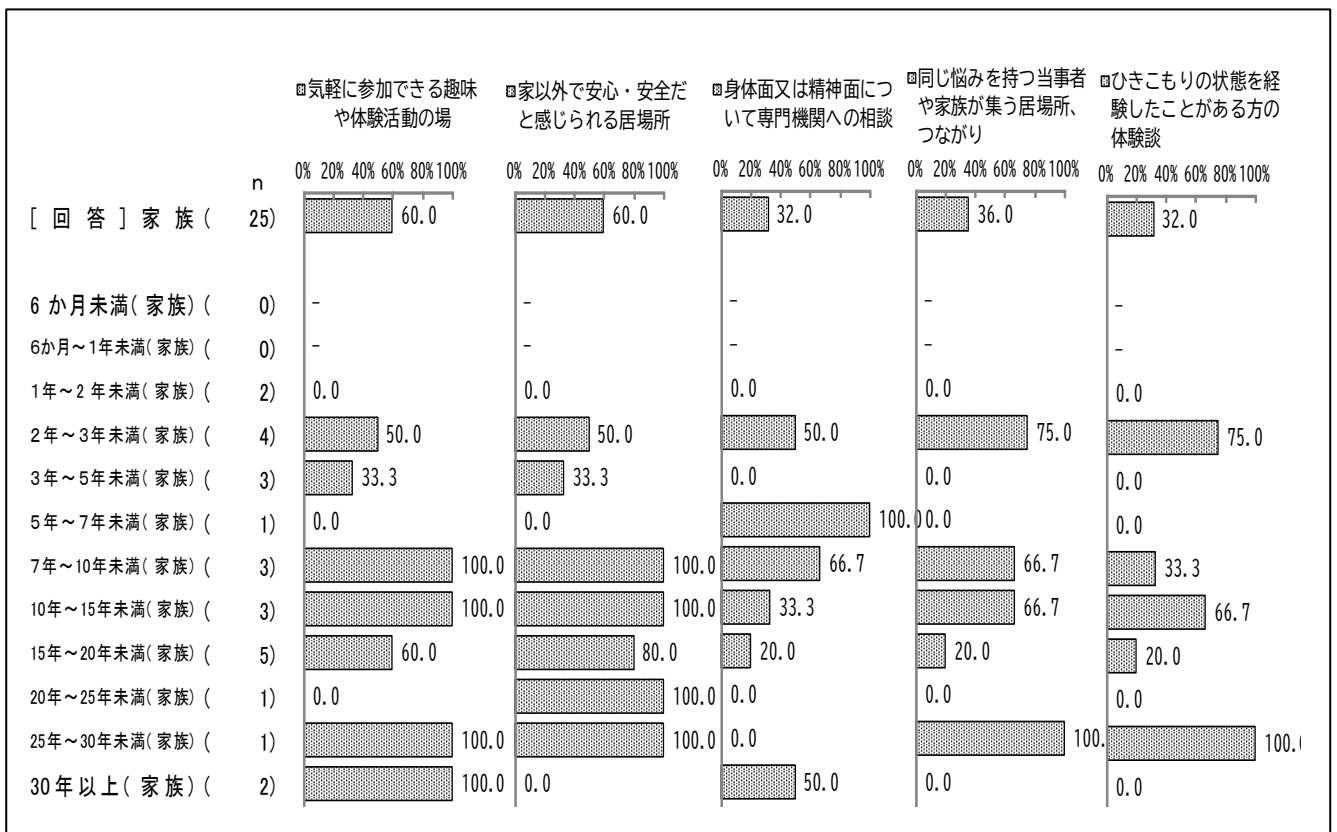
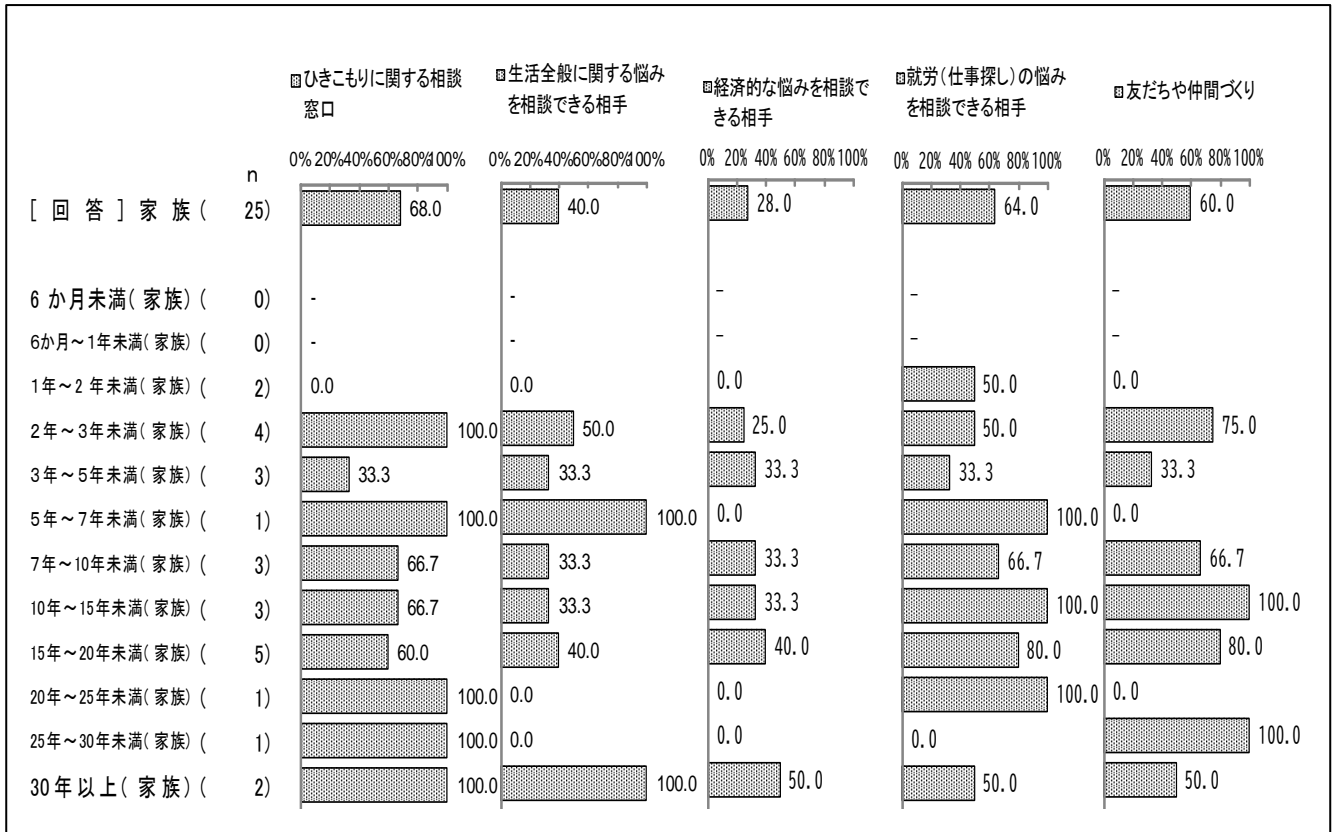
- ・全体では「ひきこもりに関する相談窓口」の割合が最も高く、次いで「就労（仕事探し）の悩みを相談できる相手」となっており、幅広い年齢層から必要・役立つものとしてあげられている。
- ・「学ぶ機会の確保」は、39歳以下の年齢層からあげられている。

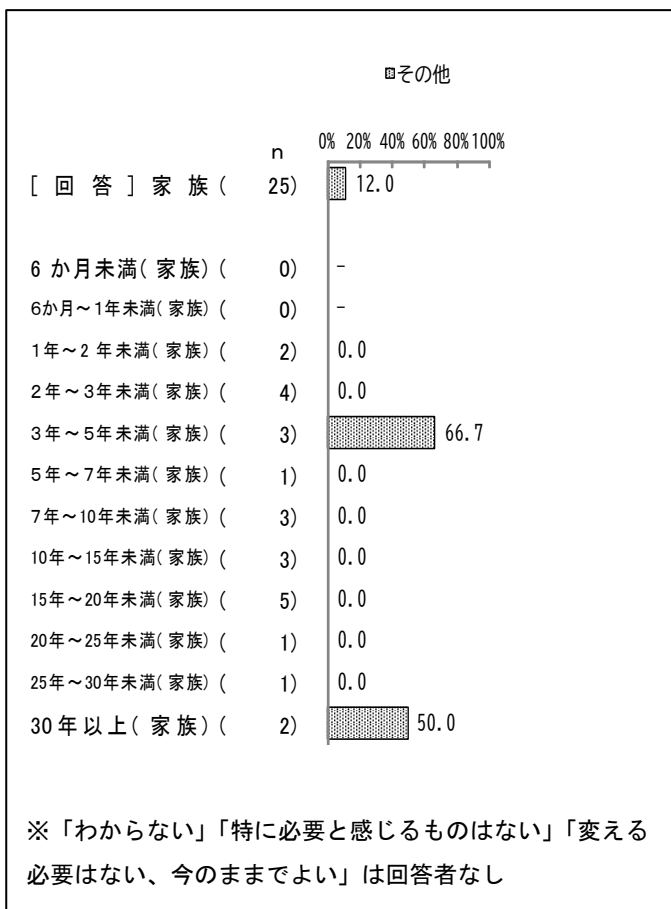
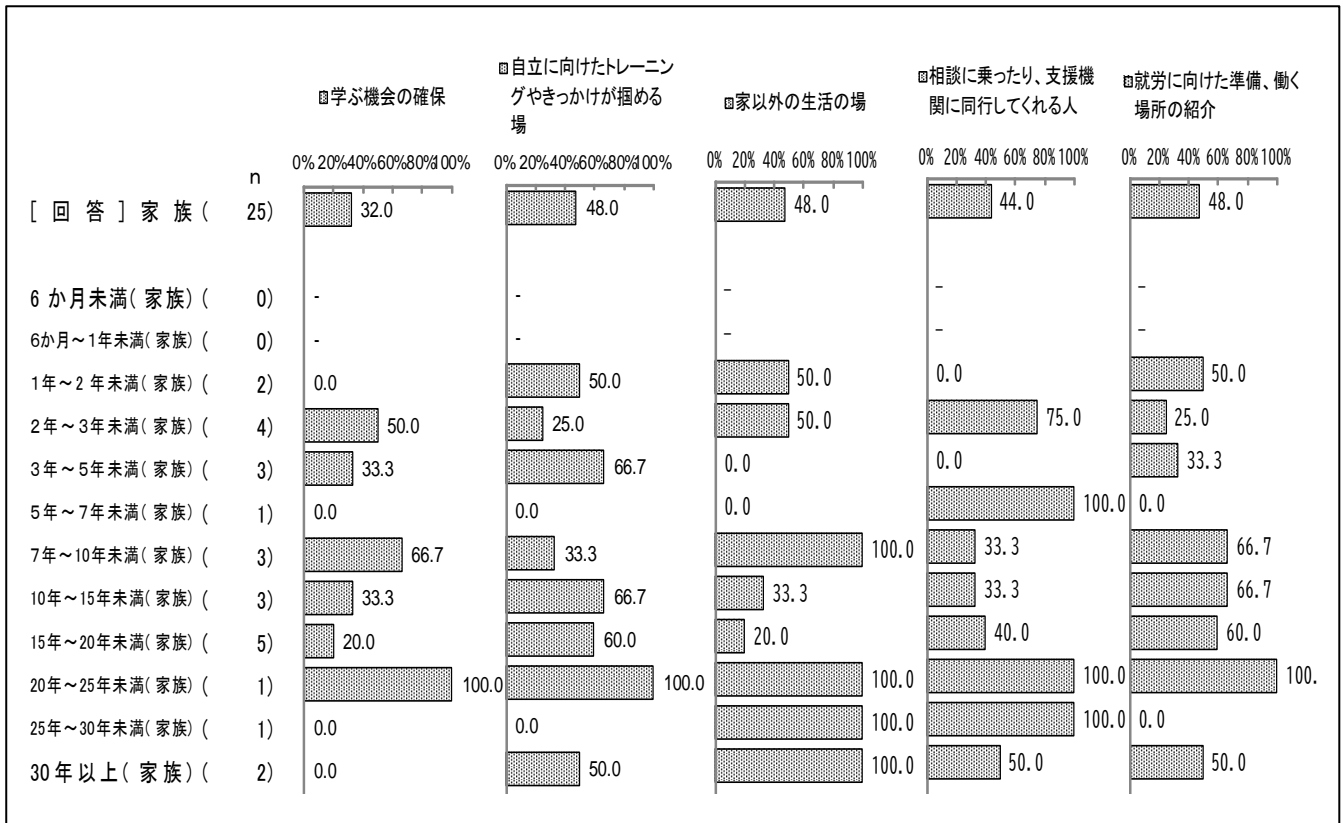




④-2 「ひきこもりの状態になってからの期間（Q12）」×「状態を変えるために、必要・役立つと思うもの（Q20）」

・ひきこもりの期間にかかわらず、必要・役立つと思うものは多岐にわたってあげられている。





（４）本人と家族の回答比較

下記①～④の設問で、回答の割合が高かった上位項目について、本人と家族の回答を比較した。

① 感じている不安や危機感（Q5）

	本人回答	家族回答
1	<u>近い将来（5年以内）の収入・生活費など経済的なこと</u>	家族の健康
2	<u>比較的遠い将来（6～10年後）の収入・生活費など経済的なこと</u>	自分の健康
3	家族の健康	比較的遠い将来（6～10年後）の収入・生活費など経済的なこと
	家族の高齢化、介護・看護	家族の高齢化、介護・看護

本人は「収入・生活費など経済的なこと」に対する不安・危機感が多いのに対して、家族は「家族及び自分の健康」が多い傾向がみられる。

また、本人・家族ともに「家族の高齢化、介護・看護」についても、不安・危機感を感じていることが分かる。

② 相談した機関（Q15）

	本人回答	家族回答
1	病院・診療所	健康福祉センター
2	健康福祉センター	病院・診療所
3	いたばし生活仕事サポートセンター （自立相談支援機関）	いたばし生活仕事サポートセンター （自立相談支援機関）
	発達障がい者支援センター（あいポート）	
4	職業安定所（ハローワーク）・地域若者サ ポートステーションなどの就労支援機関	発達障がい者支援センター（あいポート）
		当事者の会・家族会

本人・家族ともに「病院・診療所」と「健康福祉センター」を多くあげており、次項③「相談した内容」における「心理・精神面の悩み」を相談していることがうかがえる。

次いで多かったのは、「いたばし生活仕事サポートセンター（自立相談支援機関）」と「発達障がい者支援センター（あいポート）」である。

また、本人は「職業安定所（ハローワーク）・地域若者サポートステーションなどの就労支援機関」に相談しているのに対し、家族は「当事者の会・家族会」へ参加している。

③ 相談した内容（Q16）

	本人回答	家族回答
1	心理・精神面(不安・イライラする)の悩み	心理・精神面(不安・イライラする)の悩み
2	生活面(収入・仕事)に関すること	生活面(収入・仕事)に関すること 家族との人間関係
3	就職活動に関すること	就職活動に関すること
4	家族との人間関係	学校の勉強面や受験に関すること

本人・家族ともに「心理・精神面(不安・イライラする)の悩み」、「生活面(収入・仕事)に関すること」、「就職活動に関すること」の順に高い割合となっている。

なお、家族の方が「家族との人間関係」「学校の勉強面や受験に関すること」を相談内容にあげている割合が高かった。

④ ひきこもりの状態を変えるために、本人に必要・役立つと思うもの（Q20）

	本人回答	家族回答
1	<u>家以外で安心・安全だと感じられる居場所</u>	<u>ひきこもりに関する相談窓口</u>
2	就労(仕事探し)の悩みを相談できる相手 <u>自立に向けたトレーニングやきっかけが掴める場</u> <u>相談に乗ったり、支援機関に同行してくれる人</u>	就労(仕事探し)の悩みを相談できる相手
3	生活全般に関する悩みを相談できる相手 気軽に参加できる趣味や体験活動の場 就労に向けた準備、働く場所の紹介	友だちや仲間づくり 気軽に参加できる趣味や体験活動の場 家以外で安心・安全だと感じられる居場所

本人は「家以外で安心・安全だと感じられる居場所」、家族は「ひきこもりに関する相談窓口」を、最も多くあげている。

次いで、本人・家族ともに「就労(仕事探し)の悩みを相談できる相手」となっているが、本人ではこのほか、「自立に向けたトレーニングやきっかけが掴める場」と「相談に乗ったり、支援機関に同行してくれる人」を同率であげている。

このことから、就労に関する相談相手以外で、自立に向かうためのきっかけや、寄り添いながら相談に乗ってくれる相手が必要であることがみてとれる。

（5）調査から見てきた課題と支援ニーズ

- 当事者調査 本人年齢 = 30代以下が85%を占める

（当事者調査は、相談支援機関等へつながっている方を対象としている。）

- 無作為抽出調査 板橋区広義のひきこもり群の年齢 = 40代以上が57%を占める



40代以上の中高年層は、相談支援機関へつながっていない方が多いことが考えられる。

「相談支援を必要としていない」、「ひきこもりの状態ではあるが放っておいてほしい」等の様々なケースが考えられるが、「相談支援を必要としていながら、声をあげられていない状態」である方がいる可能性も想定される。

- ひきこもりの状態になったきっかけ = 「学校に馴染めなかった・不登校」を経験した方が半数



- ・ 学校教育期における不登校対策等の早期支援の強化が必要である。
- ・ 教育機関と他分野（子ども、保健・医療、福祉等）機関が連携を取りながら、切れ目のない支援が必要である。

- 相談した機関 = 健康福祉センター 相談した内容 = 心理・精神面の悩み



心身の健康に関すること、保健・医療と連携した支援が必要である。

- ひきこもりの状態を変えるために行動を起こしたきっかけ = 「相談窓口や支援の存在を知ったこと」をあげている方が約4割



窓口の明確化（ひきこもりに特化した相談窓口の設置）や相談・支援の内容を充実させた上で、広報・周知を強化していく必要がある。

- ひきこもりの状態を変えるために、必要・役立つと思うもの
ひきこもりに関することで悩む方々への支援等

=

家以外で安心・安全だと
感じられる居場所



将来の収入・生活費に対する不安・危機感から、就労・就職に関する相談支援に対するニーズも高い中、家以外の居場所を求める声が最も多かった。まず、外出のきっかけとなり、必要に応じて人との交流ができる家以外の居場所が必要である。

